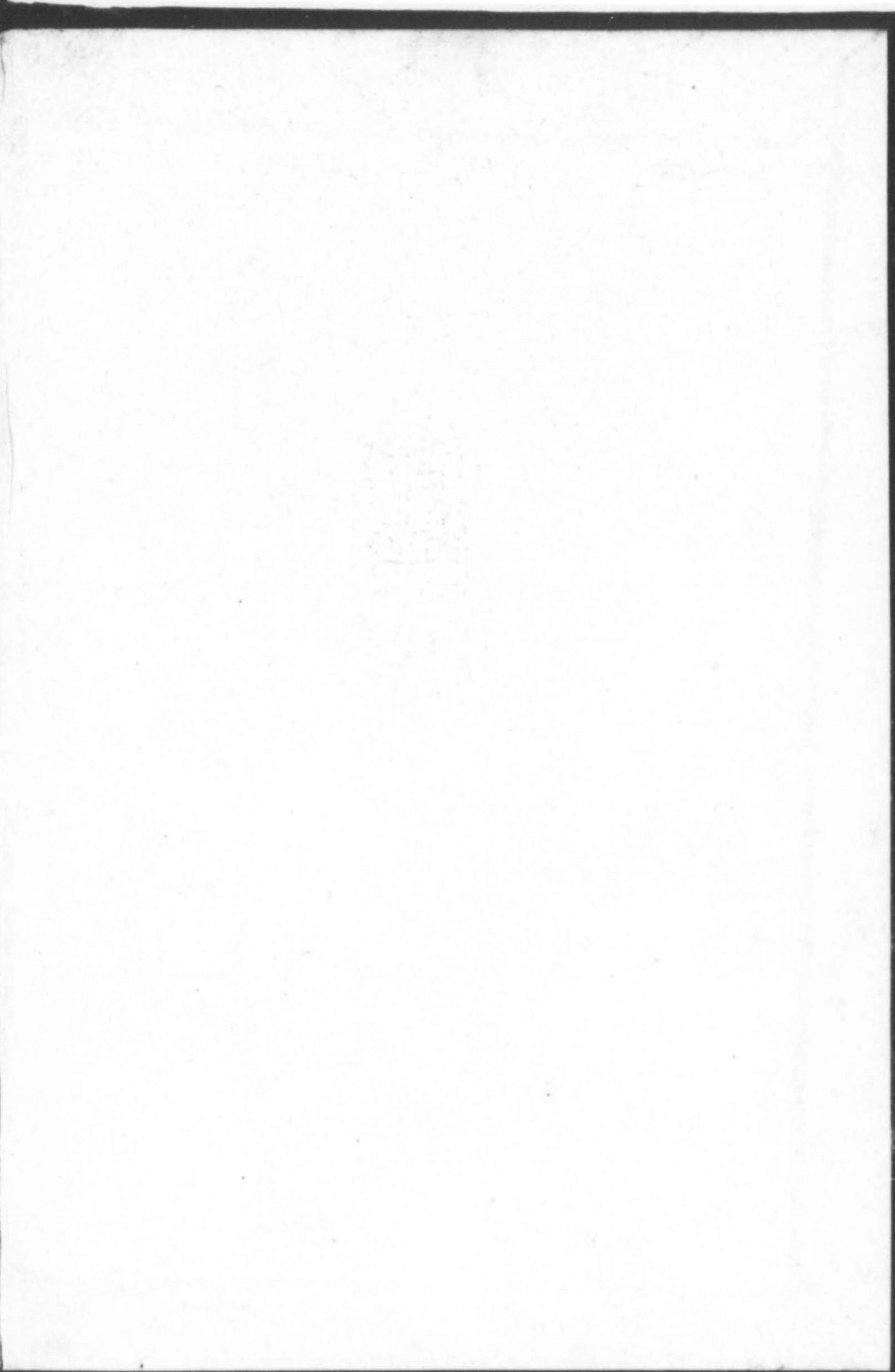
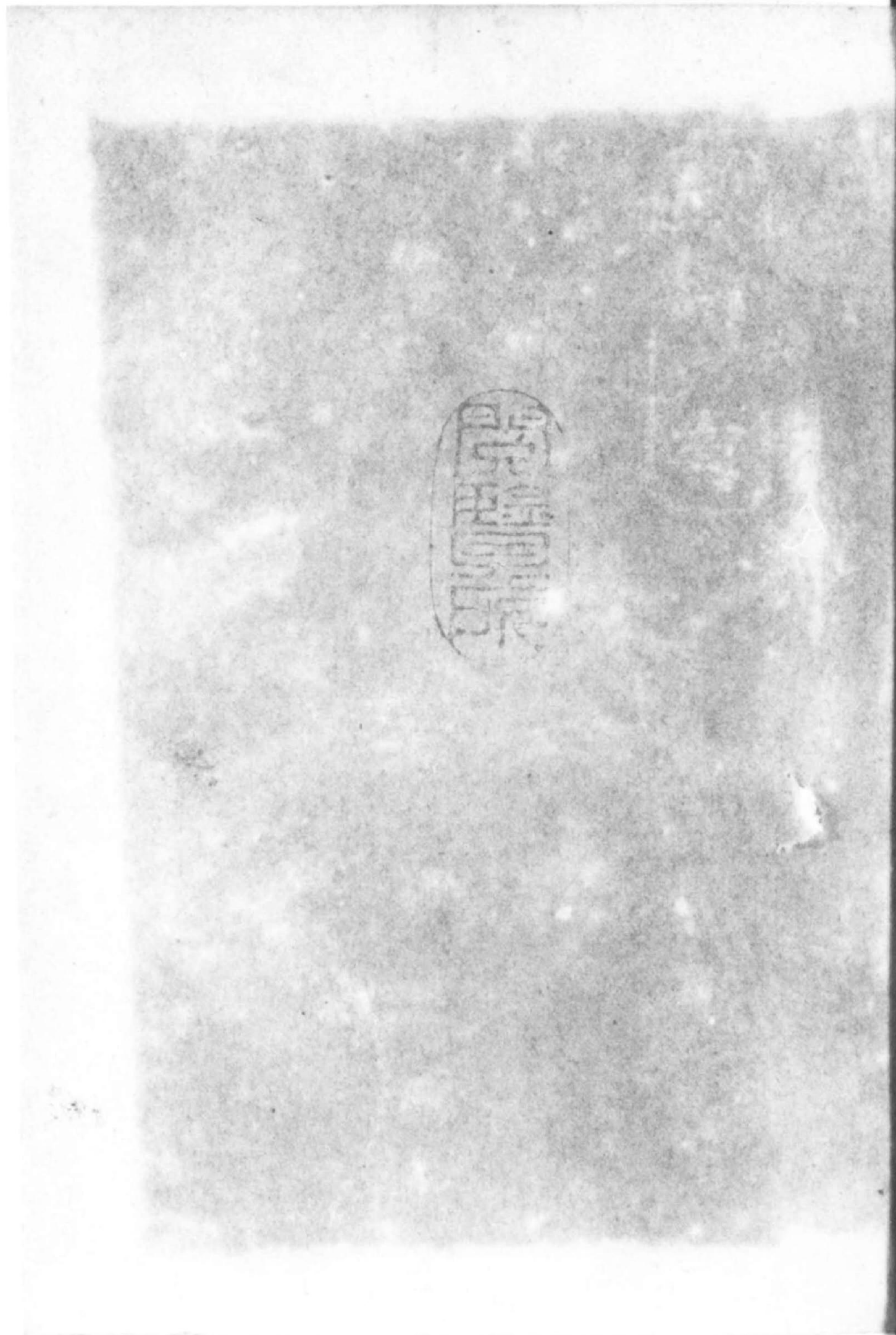


司 法 省 文 庫  
和 政  
書 治  
律 文  
門 部  
一 四 四 號  
函 架  
冊 一 五



21505

司法省藏版

佛國政法論

明治十二年四月印行

50218

明治十二年四月

# 新國廷表

后志管錄

政法論叙言

政法論全部七冊、佛蘭西國立法府議員前文部卿  
 ↓氏所著ニシテ、原語「ドローウ、ビヨブ、ク、イ、ブ」  
 上ニ於テ刊行スル所ナリ、其書タルヤ、佛國公法政法  
 奥旨ヲ述ヘ加フルニ博士法官ヲ論説ヲ以テシ、勞  
 米和蘭獨逸西班牙諸國ノ公法政法ヲ採録ス、之ヲ佛國  
 以典ニ參考シ、以テ其義ヲ明カニス、其論スル所ハ、國憲  
 ノ體制ヨリ、租稅理財道路營繕ノ類ニ至リ、凡行政  
 事務ニ於テ、巨細盡ク舉ケ、復々遺ヌ所ナシ、實ニ行政官

吏必讀以要書ト謂フヘキモノニシテ、特リ行政官吏ノ  
 専ラ務ムヘキ所ノミナラス、司法立法ノ官モ亦皆之ヲ  
 知ラサレハ、其法ヲ創シ法ヲ行フノ際ニ於テ、或ハ錯誤  
 アルヲ免カレ難シ、故ニ政法ナル者ハ、彼ノ五法ト同  
 ク、講明スヘキハ、言ヲ待タサルナリ、頃者、大木司法卿命  
 シテ此書ヲ譯述セシム、但原書第一冊ハ、緒言ト題シ、第  
 二冊以下ニ論述スル所ノ義ヲ總括シ、其要目ヲ示セタ  
 ルモノニテ、其事理ノ詳細ニ至ツテハ、都テ各部中ニ備  
 具ス、故ニ翻譯ニ臨ミ、其繁ヲ省キ、姑ク之ヲ置ク、今ヤ本  
 編譯成リ印行ス、讀者沈潜反復、能ク其義ヲ得ルアラハ、

他日我皇國盛大ノ政治上ニ於テ將ニ必ス其光輝ヲ發  
 スル有ントス、是我卿微意ノ在ル所ナル歟、

明治十二年四月

編纂課



業作區別

六十九

資本

七十九

第二篇 需用物之流通及富有力分配

九十四

需用物ノ流通及ヒ競争

九十四

貨幣

百十七

信用上ノ需

百三十四

富有ノ分配

百五十九

第一章 地子

百五十九

第二章 工料

百七十六

解明 人口増殖ノ法

百八十六

第三章 資本

百九十七

第三篇 消費

二百二十七

華美

二百三十六

第四篇 政府ト共同經濟トノ關係

二百四十五

救助

二百五十一

共同教育

二百五十三

法律上ノ賑恤

二百五十四

租稅

二百六十

○卷之二

統計學ノ要目

二百八十七

統計學ノ解説、統計學ノ方法及ヒ縣ノ統

二百八十七

計委員

三百三

人口

三百三十七

男女

三百三十七

年齡  
人口 民生

生國及七宗旨

職業學、經濟學、社會學、政治學、法律學、教育學、衛生學

○農業二

○農學

穀類

產糸質、蠶繭

葡萄地

森林

第四章 草野、公園、遊樂、園藝、園林

家畜

三百四十二

三百四十八

三百六十三

三百六十七

三百六十九

三百七十四

三百八十九

三百九十八

四百

四百一十一

四百三十一

四百四十六

工業 實業

織物商學

商業 麻苧

木綿土、蚕出絲

羊毛、蠶

絹綉

諸礦及毛砂鐵露礦

可燃質

各鐵工業

金屬工業

錫

鉛

四百一十一

四百十二

四百十二

四百十五

四百二十四

四百三十二

四百四十三

四百四十

四百四十七

四百五十二

四百五十七

四百五十七



亞鉛	四百五十八
銅	四百五十八
金銀工業	四百六十二
各種ノ工業	四百六十二
砂糖	四百六十三
亞爾格兒	四百六十三
麥酒	四百六十五
革及ヒ皮	四百六十六
舍密上ノ產出物	四百六十七
商業	四百七十
內國商業	四百七十
工業 貨幣	四百七十九

5250  
182  
22

銀行	四百八十二
商社	四百九十六
外國商業	四百九十六
航海	五百七十一
消費	五百八十三
穀物	五百八十二
獸肉	五百十四
飲料及ヒ亞爾格兒	五百十七
砂糖	五百二十二
殖民地產出物	五百二十三
鹽	五百二十六
烟草	五百二十八

産糸質

五百二十九

木綿

五百二十九

羊毛 産出

五百三十三

絹

五百三十二

麻 亞爾蘇貝

五百三十一

諸礦及ヒ金屬工業ノ産出物

五百三十二

石炭

五百三十二

鐵及ヒ鋼鐵

五百三十三

裁判所ノ統計表 附録

五百三十七

民事裁判所

五百三十七

治安裁判所

五百三十九

初審裁判所

五百四十二

控訴裁判所

五百四十六

破毀裁判所

五百四十七

刑事裁判所

五百四十八

重罪裁判所

五百四十八

輕罪裁判所

五百五十四

違警罪裁判所

五百五十六

B250  
B 2  
2 d

譯者曰ク統計表中算數ノ如キハ往々謬誤ニ係ル者鮮カラズ其政  
務上ニ緊要ナリト思量スル所ハ他書ヲ考證シテ改竄ヲ加フト雖  
モ其他政務上ニ不緊要ナル所ニ至リテハ悉ク之ヲ改正スルニ違  
アラズ看官幸ニ之ヲ諒セヨ

其の二 政治學の基礎  
 第一章 政治學の概論  
 第二章 政治學の歴史  
 第三章 政治學の分類  
 第四章 政治學の意義  
 第五章 政治學の目的  
 第六章 政治學の範圍  
 第七章 政治學の方法  
 第八章 政治學の地位  
 第九章 政治學の重要性  
 第十章 政治學の發展  
 第十一章 政治學の未來  
 第十二章 政治學の實踐  
 第十三章 政治學の理論  
 第十四章 政治學の應用  
 第十五章 政治學の比較  
 第十六章 政治學の批判  
 第十七章 政治學の總論  
 第十八章 政治學の結論

婆督 政法論第二帙卷之一  
 備氏

松田正久譯

○補助學ノ緒論

諸般ノ科學ハ互ニ相關涉スル者ナルカ故ニ全備ノ政務家タラント欲  
 スル者ハ全ク之ヲ識得セスノハアル可カラス然リト雖モ斯ク諸般ノ  
 科學ヲ綜核スルハ人力ノ能ク及フ所ニ非ス然シテ其學業充全ナラサ  
 レハ隨テ精神亦昏迷シ心意中唯疑惑ヲ生スルヲ有ランノミ是ヲ以テ  
 政務上ニ直接ナル有益ノ科學ヲ畫定シテ之ニ從事セシムルヲ要ス予  
 以テ之ヲ考フレハ經濟學ト統計學トハ政法ノ制定ニ任スル人ト之  
 ヲ施行セシムル職務ヲ有スル人トヲ問ハス最大要緊ノ學タリ實ニ政  
 務上ノ動作ハ常ニ民生ノ私利ニ交渉シテ公同及ヒ各自ノ富有ヲ進歩  
 スル所ノ法則ニ抵觸スルノ恐レアリ故ニ若シ立法家及ヒ政務家ヲシ

テ富○有○ノ○法○則○ヲ○教○示○ス○ル○科○學○即○チ○經○濟○學○ニ○通○曉○セ○サ○ラ○シ○メ○ハ○民○生○私  
 利○ノ○交○渉○安○ッ○富○有○ノ○進○歩○ニ○矛○盾○セ○サ○ル○コト○ヲ○保○タ○ン○ヤ○若○シ○又○彼○等○ヲ○シ  
 テ○經○濟○學○ノ○歷○驗○憑○證○ヲ○ル○社○會○上○ノ○事○實○ヲ○點○檢○ス○ル○簡○便○ノ○科○學○即○チ○統  
 計○學○ニ○通○曉○セ○サ○ラ○シ○メ○ハ○亦○安○ッ○其○矛○盾○ヲ○キ○テ○保○タ○ン○ヤ○是○レ○即○チ○予○カ  
 此○政○法○論○ノ○冠○首○ニ○於○テ○先○ッ○此○兩○科○學○ノ○原○旨○ヲ○論○述○ス○ル○所○以○ナ○リ○然○リ  
 ト○雖○モ○予○カ○此○原○旨○ヲ○論○述○ス○ル○ヤ○固○ヨリ○以○テ○讀○者○ヲ○シ○テ○其○各○本○科○ニ○特  
 別○ナル○書○籍○ヲ○講○究○ス○ル○ヲ○要○セ○サ○ラ○シ○ム○ル○ニ○非○ス○唯○之○ヲ○以○テ○其○各○本○科  
 ノ○書○籍○ヲ○了○解○シ○易○カ○ラ○シ○メ○ン○コト○ヲ○希○望○ス○ル○ニ○在○ル○ノ○ミ

### 經濟學ノ原旨

總テ人民社會ノ開明ハ其自然ノ法則ニ從テ進歩スル者ニシテ其動靜  
 ハ無生體ノ動靜ノ如ク常ニ變換セサル者ニ非ス蓋シ人生ノ自由ハ社  
 會ノ動靜ヲ攪亂シテ方向ヲ錯走セシムル者ナルヲ以テナリ然リト雖  
 モ其自然法則ノ動作聯綿止ムコトナク一時時勢ノ爲メニ枉屈ヲ受クル  
 コト有リト雖モ遂ニ其力ヲ以テ反テ之ヲ壓抑スルニ至ル之ヲ要スルニ  
 人生ノ自由ハ此法則ヲ翼成シ或ハ之ヲ妨害スルヲ得ルト雖モ其力必  
 ス能ク法則ニ勝ツ者ニ非ス唯法則ノ動作ヲ妨ケ或ハ法則ノ統括ヲ速  
 ニスルコト有ルノミ而シテ其動作ヲ妨クレハ則チ社會ノ害ヲ爲シ其統  
 括ヲ速ニスレハ則チ社會ノ利ヲ爲ス  
 社會上法則ノ動作ハ其類似ヲ物理上ノ法則中ニ求ムレハ之ヲ人体ノ  
 活機ヲ掌ル法則ノ動作ニ比較スルコトヲ得ヘシ實ニ人ノ身體ハ生理ノ

法則ニ循フト雖モ其機關ノ作用ハ其思意ニ從テ或ハ其動靜ヲ緩ニシ  
 或ハ之ヲ急ニスルヲ得ル者アリ故ニ世人或ハ人民社會ヲ稱シテ機  
 關物ト云フ蓋シ人民社會ハ則チ彼ノ自然ノ性質ニ離ル可カラサル法  
 則ニ循ヒ内部ノ力ニ由テ進歩スルモ其法則ノ動作ハ必ス幾分カ人生  
 ノ自由ト政府ノ權力トニ屬スル一物体ノ如シ其機關物ト云フモ宜ナ  
 ラスヤ

人体ノ機關中各種ノ職掌ハ一致ノ法則ニ由リテ互ニ相連絡スト雖モ  
 亦各其各自ノ法則ヲ有ス是ヲ以テ飲食ノ消化、大氣ノ呼吸、血液ノ順環  
 四肢ノ運動等ニ至リテ各別ニ其理ヲ講究ス可シ之ト同ク人民社會中  
 各種ノ職掌モ亦之ヲ區別スルヲ得ヘキ者ニシテ其各種ノ職掌ハ一  
 般動靜ノ反響ヲ受クルト雖モ亦全ク各異ノ性質ヲ保有ス然リト雖モ  
 予カ茲ニ論スル所ハ唯富有及ヒ其產出、分配、消費ニ管スル法則ニ過キ

サルナリ

「エコノミー、ビュブリック」共同ノトハ富有ノ進歩ヲ致ス所ノ法則ノ總合  
經濟及ヒ之ヲ致ス所ノ結合カチ云ヒ「エコノミー、ポリチック」經濟トハ共同  
學ノ經濟ヲ目的ト爲ス所ノ學術チ云フ蓋シ茲ニ用フル所ノ「ポリチック」  
 ト云ヘル語ハ其常用ノ義ト差異アルヲ以テ二三ノ著述家ハ別ニ其名  
 稱ヲ求メタリ此ノ二三ノ著述家ノ科學用語ニ從ヘハ宜シク「アルト  
 ロシ」產出或ハ「クレマチスチック」富有ト云フヘキ所ナレモ世人其名  
 稱ヲ用ヒスシテ常ニ「エコノミー、ポリチック」ノ語ヲ襲用セリ若シ必ス  
 別語ヲ用ヒンコト要セハ予ハ「シァンス、エコノミック」經濟或ハ「シァン  
 ス、ド、レコノミー、プニブリック」共同經濟ト云フヲ以テ善トス

フレデリック、バツシー氏ハ嘗テ此經濟學ヲ解シテ營業科學シァンス、デ  
 ユ、トラワイユト云ヒ或ハ生活ノ支持及ヒ其進歩ノ爲メニ施用ス可キ人力ノ科學ト

云ヘリ蓋シ此業作ナル者ハ生活ノ支持及ヒ其進捗ヲ爲ス爲メニ一種無量ノ用ヲ爲ス而シテ財本ナル者モ亦此業作ノ相集リテ成レル者ニシテ其實ハ更ニ之ヲ滋殖セシメシカ爲ニ節用シタル產出物ノ若干額ニ外ナラサルナリ然レモ經濟ハ獨リ業作ノミニ止マルニ非ス予カ將ニ後文ニ於テ論セントスルカ如ク自然物ハ其作用アリテ物品ノ產出上ニ著大ノ功用ヲ爲シ且ツ業作ノ機械ニ施用ス可キ單純適當ノ性質ヲ有スルカ故ニ自ラ本分ノ價格ヲ有シ又貿易上ノ價格ヲ有スル者アリ是ヲ以テ獨リ業作ヲ以テ經濟學ヲ解説スルハ太々狹隘ノ見解ニ歸ス故ニ予ハ古來稱用セシ所ノ完全ニシテ且ツ單一ナル名稱即チエコノミクニ據レリ人民社會ハ其創起以來共同經濟ノ法則上ニ付テ知慮辨別ヲ用フルナク自然ノ感覺ニ由テ其法則ニ從フ者タリ昔人ハ嘗テ經濟學ヲ知ル

トナクアリストット氏キセノフォン氏ノ著セシ經濟篇中ノ論說ノ如キモ千八百年代ニ於テ始メテ闡明セシ所ノ經濟科學トハ毫モ類似セル者ニ非ス然レモ醫術ノ發明前ニ人々生活的ノ理ヲ知ラスシテ自ラ生活セシカ如クゼノウエジョーチニルゴー及ヒアダム、スミツノ諸氏ガ未ダ出テザル以前既ニ共同經濟ノ進捗セシトハ宛モ呼吸ノ自ラ鼓動シ血液ノ自ラ順環セルカ如シ蓋シアダム、スミツ氏ノ著述セシ所ノ經濟書ガ學校ノ教課書ト爲リシカ故ニ世人皆同氏ヲ尊尙シテ經濟學ノ鼻祖ト看做シタリト雖モ然レモ千七百五十五年即チアダム、スミツ氏ノグラスゴー蘇格蘭ノ大學校ニ於テ道德學講台ノ附屬學トシテ經濟學ヲ教授セシ時ニ當リゼノウエジョー氏ハ既ニナップアルニ於テ經濟學ヲ本科ト爲シテ之ヲ教示セリ是レ即チ歐洲ニ於テ經濟學ノ本科ヲ創設セシ第一講台ナリ其後十二年即チ千七百六十八年ミランノ伊太利ニ於テ始テ第二

ノ講台ヲ設ケベカリア氏ヲ以テ其教師ト爲セリ其他アダム、スミッツ氏ノ著セシ富國論ナツシユス、デ、ノ發行前九年既ニチユルゴー氏ハ其富有產生分配論ト題セル著書ヲ發行セリ其論ノ真正ナル實ニ英國ノ經濟學家即チアダム、スミッツ氏、ニ讓ルコトナク唯其節目ノ彼ニ及ハサルコト有リト雖モ其基本ノ堅牢ナルニ至リテハ恐クハ彼ニ優ルコト有ラシ其後歐洲各國特ニ英吉利、獨逸、白耳義、和蘭ニ於テ此經濟科學ノ教育大ニ擴張セリ然ルニ我カ佛國ニ於テ鄰國ノ後ニ位シケヌター氏及ヒチユルゴー氏カ經濟科學ヲ發明セシ所ノ國ニシテ反テ其教育後進ノ國ト爲リシハ豈惜ム可キノ甚シキニ非スヤ

佛國ニ於テハ唯佛國大學院ド、フ、ラ、ノ、ス、ニ經濟學ノ講台一箇藝術學校エ、コ、ー、ル、デ、ボ、ン、校エ、シ、ヨ、ー、ル、セ、ー、一箇アルノミニシテ別ニ經濟學ノ講台ナク州内ニ於テハ全ク此教

育ヲ缺クリ故ニ千八百四十七年立法院ノ開議ニ當リ國帝ノ演說中ニ云ヘルコト有リ曰ク善良ナル國士ノ義務ハ經濟學ノ良則ヲ全國ニ擴張スルニ在リト蓋シ此演說ハ幸福ノ祥兆ニシテ我輩ヲシテ國帝ヨリ命セシ義務完行ノ冀望ヲ我政府ニ繫ルコトヲ得セシメタリ然リ而シテ白耳義ニ於テハ四箇ノ大學校ヲ設ケ和蘭ニ於テハ諸大學校及諸學士館アリテ各經濟學博士ノ數亦鮮カラス獨逸ニ於テハ各大學校内ニ一箇若クハ數箇ノ經濟學教場アリ又英國ニ於テハ諸私會ノ創唱ニ由リテ大ニ此經濟學ノ進歩ヲ致セリ

今茲ニ經濟學ノ原由如何ニ關スルコトナク共同經濟ノ重要ナル法則如何ヲ穿鑿セン然レニ善ク其法則ヲ了解スル爲ニハ須ラク先ツ二三ノ經濟學用語ノ意義ヲ確定セスンハアル可カラス何トナレハ則チ語意ノ分明ナラサルニ因テ誤解ヲ生スルコト諸般ノ科學中未タ此經濟學ニ

リ甚シキ者アラサルヲ以テナリ  
 需用物トハ總テ人生ノ須用ヲ充足スルニ適合シテ既ニ性質ノ顯著ナル物品ヲ云フ故ニ人生ノ須用ヲ充足ス可キ性質ノ存スル者有リト雖  
 凡人々ノ善ク之ヲ了知セルニ非レハ未ダ以テ有用物ト云フヲ得ス  
 是ニ由テ之ヲ觀レハ天地間ノ造物中ニハ未ダ吾人ノ見知セサル需用物ノ實ニ夥多ナルハ疑ヲ容レサル所ナリ  
 價格ウプロ  
 今茲ニ一種ノ物品ヲ保有スルモノアリテ之ヲ其適當ノ用ニ施用スル  
 ヲ欲セサレハ其保有者ノ爲ニハ果シテ以テ需用物ト爲ス可カラサル  
 ルカ曰否然ラス若シ其所有主カ自ラ之ヲ用フルヲ好マサレハ之ヲ  
 他人ニ授與シ以テ自己ノ用ニ供ス可キ他ノ需用物ト貿易スルヲ得

可シ是レ即チ所用上ノ價格ト貿易上ノ價格ト區別ノ由テ生スル所ナ  
 リ蓋シ茲ニ一物アリテ其所有者之ヲ施用スルヲ好マサルモ其貿易上  
 ノ價格ハ反テ著大ナルヲ得可キ者アリ然レハ所用上ノ價格ハ其需用  
 ノ界限ヲ超ユルヲナキカ故ニ既ニ其界限外ニ至レハ其量ノ大ナルモ  
 以テ所有者ノ意ヲ充タス可カラズ今一例ヲ舉テ之ヲ證スレハ豊年ニ  
 於テハ麥價甚タ廉ナルヲ以テ耕作者ハ其充實シタル倉戸前ニ立テ曰  
 ク我輩ノ倉内ニ麥在リト雖此之ヲ賣却スル所ナケレハ唯土石タルニ  
 過キサルナリト又加利保兒尼及ヒ澳斯太利ノ礦夫カ過激ノ戲謔ヲ爲  
 セシハ誰カ之ヲ知ラサラン其言ニ曰ク我輩何ソ不幸ナル今我輩カ鑿  
 出シタル者ハ馬茶礬ニ非ス實ニ金タルノミト遂ニ之ヲ棄擲シテ復タ  
 願ミサリシヲ有リ  
 又著大ナル所用上ノ價格ヲ有スル需用物ニシテ之ヲ市場ニ鬻グト雖



ヒ一人ノ之ヲ買フコトナキ者アリ凡ソ此類ノ物品ハ人ノ之ヲ得ルコト  
 勉メスシテ限極ナク自然ニ生出スル者タリ例ヘハ大氣ノ如キハ人身  
 ノ生活上ニ缺ク可カラサル者タルカ故ニ所用上ノ價格ヲ有スル莫大  
 ナリト雖モ其貿易上ノ價格ニ至リテハ全ク之ヲ有スルコトナシ水ニ於  
 テモ亦然リ蓋シ水ノ都邑間ニ在テ其價格ヲ有スルハ唯之ヲ運輸シタ  
 ル勞動ノ報酬タルニ過キサルノミ然レモ若シ大旱ノ時ニ當リ河水泉  
 源盡ク涸渴スル如キコト有ラハ水量ノ饒多變シテ稀少トナリ絲毫モ運  
 輸ノ費用ヲ要スルコト無キモ唯其稀少ナル故ニ以テ大ニ貿易上ノ價格  
 ナ得ルニ至ル可シ今茲ニ一箇ノ區別ヲ舉ケン所用上ノ價格ヲ有スル  
 需用物ニシテ一モ貿易上ノ價格ヲ有セサル者有リ然レモ貿易上ノ價  
 格ヲ有スル需用物ニシテ一モ所用上ノ價格ヲ有セサル者ハ未ダ之レ  
 有ラサルナリ蓋シ貿易上ノ價格ヲ有スル需用物ニシテ假令ヒ其所有

者ノ爲メニ所用上ノ價格ヲ有セサルモ必ス之ヲ他ノ消費者ノ用ニ供  
 ス可ク若シ之ヲ供ス可カラサレハ其價格ハ死價ニ屬ス可キヲ以テナ  
 リ

チユルゴ一氏ハ別ニ一種ノ價格ヲ設ケ之ヲ監定價格ウアローキ、アツンレシ、アチウ或ハ評定價格エスチマチウト

名ツケタリ其所謂價格トハ賣買人ノ双方物價ヲ評シテ吾カ思量ス  
 ル所ハ若干ノ價格ナリト曰ヘル如ク其約束未ダ一致セサル前ニ双  
 方ヨリ評定スル所ノ價格ヲ云ヘリ然レモ是レ實ニ真正ノ價格ニ非  
 ス唯一方ノ意見ヲ述ヘ或ハ一方ノ要求ヲ表シ或ハ一方ノ授與ヲ證  
 スルニ過キサルノミ又ラウ氏ハ價格ヲ分テ實價ウアローキ、コト虚  
 價ウアローキ、アトト區別セリ此說ニ從ヘハ其所謂虚價ハ人民一般  
 ノ需用ト其需用物ノ種類トノ間ニ存セル關係ヨリ生スル者ニシテ  
 例ヘハ小匠ノ爲ニハ樫木ハ「プープリエー」樹ヨリ大ニ貴重ノ質ヲ有

スルカ如シ而シテ其所謂實價ハ各人ノ需用ニ關シ其需用物ノ分量ニ從テ生スル者ニシテ例ヘハ私用文庫中書籍ノ重複セル者ハ毫モ實價ヲ有スルコトナキカ如シ

經濟上ノ需用物

ニ限レル

唯所用上ノ價格ノミチ有スル需用物ハ經濟學ニ管スル者ニ非ス經濟學ニ論スル所ハ唯貿易上ノ價格ヲ有セル需用物ニ限レルノミ是レ即チ二三ノ著述家カ貿易上ノ價格ヲ有スル需用物ヲ稱シテ經濟上ノ需用物ト云フ所以ナリ  
世人往々價格ト價值トヲ混同シテ常ニ通常ノ言語ニ此混同ヲ致スコト有リ然レモ價格ハ其義甚ク廣汎ナリ凡テ價格ハ貿易ニ於テ得ル所ノ需用品ノ分量ニ從テ之ヲ定ム可キ者ニシテ一箇ノ物品ハ之ヲ他般ノ諸物ト交換スルヲ得ルカ故ニ其價格ヲ定示スルニ甚ク別異アリ之ニ

反シテ價值ハ貨幣ヲ以テ指定ス可キ價格ナルニ由リ其義單簡ニシテ了解シ易シ故ニ價格ト價值ノ區別上誤テ混同ヲ生スルコト勿レ  
フレデリック・バスター・アイ氏ハ價格ヲ解説シテ曰ク價格ハ事業交換ノ管係ナリト是レ價格ノ原由及ヒ其定度ハ即チ人ノ業作ナリト謂フノ意ナリ又バスター・アイ氏ノ説ニ謂ヘラク人生要用ノ物品ハ自然ノ造化ニ由テ生出スト雖モ人生ノ所有ニ歸セス人生ノ業作ヲ經サル間ハ一モ價格ヲ存スルコトナシ例ヘハ水及ヒ大氣ノ如キハ要用ノ物品ニシテ人生ニ缺ク可ラサル者ナリト雖モ曾テ幾許ノ價格ヲ有セルヤ又此ノ無限量ノ物品ヲ以テ他人ニ授與スルモ若爲ナル報酬ヲ受クルコトヲ得ルヤト

之ニ反シテ其他ノ經濟學家ハ自家ノ説ヲ主張シテ謂ヘラク價格ハ物品產出ノ稀少ヨリ生スル者ナリ故ニ物品稀少ナレハ其價格隨テ騰貴

シ物品増殖スレハ其價格隨テ低下ス是ヲ以テ價格ハ物品ノ定限ヨリ生スル者ニシテ其產出ノ爲ニ施用シタル業作ノ多少ニ關スルヲナシ

價格ハ物品ノ定限ニ關スルト云ヘル理論ハ數多ノ經濟學家ノ教授スル所ニシテ彼ノ價格ハ授與及ヒ要求ニ因ルト云ヘル理論モ亦此主義ニ基ケル者トス

此價格ハ物品ノ定限ニ關スルト云ヘル理論ハ共有黨ノ論ヲ翼賛シ無所有物ノ説ヲ誘起スル者トシテ千八百四十八年來大ニ諸經濟家ノ駁撃ヲ蒙レリフレデリック、パスチアー氏ドフォントテー氏及ヒフレデリック、バツシー氏ハ啻ニ右ノ名目ヲ以テ之ヲ排斥セシノミナラス且ツ之ニ代フルニ業作ト價格ヲ混一スルノ説ヲ以テセリ曰ク價格ハ業作交換ノ關係ナリト特ニフレデリック、バツシー氏ハ其物品ノ定限ニ因テ價格ヲ

生スルト云ヘル理論ノ結果ヲ摘發シテ曰ク若シ彼レノ説ノ如ク所有物及ヒ其所有物タルヲ証表スル所ノ價格ハ眞ニ物質中ニ存シ決シテ物質外ニ存セサル者ト爲セハ則チ一人ノ所有スル所較多クレハ其他ノ同胞ノ所領隨テ減縮シ又一人ノ須用スル所較多クレハ其同胞ノ須用隨テ減少シ總テ此人ニ屬スル所ノ者ハ彼人ヨリ褫奪スル所タラシレ已ムヲ得サルノ結果ニシテ此結果ハ必ス彼レノ根據セル持論ヨリ生出スルヲ免ル、能ハス蓋シ物質ハ物質タルヲ以テ自ラ其定限アリ一人ノ所有其分ニ過クルハ即チ他人ノ部分ヲ侵奪スル所タラシ然ラハ則チ人々何レノ點ニ到達スヘキヤ必ス其無所有物ノ説ニ歸スル論ヲ待タサルナリ而シテ其無所有物ノ説ヲ爲スヤ啻ニ昏迷強暴ナル情慾ヲ以テスルノミナラス遂ニ之ヲ以テ正理トナシ又之ヲ以テ聖教上ノ仁恤ト爲スニ至ルヘシト

予今此混同シタル論旨ヲ辨明センニ價格ノ本原ハ必スシモ獨リ業作  
 ノミニ關スル者ニ非ス自然物ト雖ヒ其定限アル者ニ於テハ即チ業作  
 ノ器械ナルカ故ニ亦タ適當ノ價格ヲ存スルコトヲ認識スヘシ今茲ニ未  
 タ探掘ニ着手セサル一礦アラン人力ハ未タ其勞動ノ價格ヲ分與セ  
 ルモ其礦地ハ人ノ營業地ニ適當スル者ナラハ豈ニ一モ價格ヲ有スル  
 無カラシヤ若シ業作ナケレハ自然物ニ價格ナキヲ以テ真正ナリトセ  
 ハ人將ニ言ハントス自然物ニ由テ供シタル器械ナクシテ業作ハ徒ニ  
 無益ノ勞タランノミト蓋シバスター氏ノ理論ハ實ニ價格ノ一元素  
 ナ算知セルノミニシテ猶ホ一因由ノ爲メニ發明セル他ノ理論ト一般  
 ニ學術上ノ精理ニ於テ缺ク所アリ  
 蓋シバスター氏ノ說ハ共有黨ヲ挫折スル爲ニ發スル所ニシテ即  
 チ彼ノ共有黨カ二三ノ所有者ニ由テ業作ノ器械タル土地ヲ專有ス

ルト云ヘル駁說ヲ反擊セル者ナリ  
 物品ノ定限カ所用上ノ價格ヲ増スコトヲシテ貿易上ノ價格ヲ騰貴セ  
 シムルハ眞ニ確然不拔ノ說ナリトス抑經濟學家ニシテ誰カ價值即チ  
 貨幣ニ由テ指定スル價格ハ授與ニ關係スルコトヲ認識セサル者アラ  
 ヤ且ツ其授與ハ多少物品產出ノ豐饒ニ關セサルコト無カラシヤ又  
 吾人ノ熟知セル如ク土地ハ限界アル者ニシテ土地ノ無限物タルコト主  
 セル者ハ獨リロ其廣袤ノ狭少ナルニ從ヒ貿易上ノ價格ヲ増加スヘキ  
 者タリ若シ明日一河ノ中央ニ於テ一個ノ島嶼ヲ生スルコトアラハ其島  
 嶼ハ未タ耕作ヲ施サ、ルモ其土質カ業作上ノ器械タルニ適スルニ於  
 テハ豈貿易上ノ價格ヲ有スルコトナカラシヤ是等ノ事ハ普通ノ實理ニ  
 シテ固ヨリ論ヲ待タスシテ瞭然タリ然ルニ今之ヲ提示スルヲ以テ緊  
 要ト爲ス、場合ニ遇着スルハ實ニ驚歎ス可キナリ夫レ土地及ヒ業作

ノ器械并ニ物産ノ專有定限アルハ其所用上ノ價格ヲ増加スルコトナシト雖其貿易上ノ價格ヲ増加ス是ヲ以テ善良ナル共同經濟ノ目的ハ力メテ貿易上ノ價格ヲ減少シ以テ所用上ノ價格ヲシテ衆人ニ便ナラシムルニ在リ

是レ所有ヲ認テ不正ナリト爲スノ謂ヒカ曰ク否ナ決シテ然ラス若シ所有ヲ以テ不正トシ之ヲ廢止セント欲スル者アラハバスターア氏ノ論ト雖其安ソ能ク之ヲ保全スルコト得ンヤ同氏ノ論ノ如ク所有ハ業作ノ結果ナリト云フトモ亦何ノ益アラシ抑人ノ業作ヲ爲ス時ニ當リ若クハ未タ業作ヲ爲サル前ニ於テ先ツ其業作ヲ施ス物品ヲ保有ス可キハ誰カ之ヲ否ラストセン然リ而シテ其業作前ノ保有ハ如何シテ之ヲ公正ニ爲ス可キヤ且ツ何故ニ其業作者ハ他人ノ得失ニ關涉ス可キ器械ノ一部ヲ占領シタルヤ今彼レノ論スル所ニ據レハ所有物ハ人

ノ造成スル所ニシテ其能力ノ繼續生活ノ保存ナリト云ヘリ然レモ各人誰カ其能力ヲ有シ且ツ其生命ノ進歩ヲ望マサル者アラシ然ラハ則チ一人カ獨リ廣大ノ部分ヲ占領シ他ノ其側ニ在ル者ヲシテ業作上ノ器械ノ最小部分ヲ有スルニ至ラシムルハ何故ナルカ詰問シテ此ニ至ラハ知ラス何等ノ説明ヲ下スヲ得可キヤ

今最モ人力ヲ要スル所ノ物産即チ一箇ノ刻像ヲ舉テ之ヲ言ハシニ刻像ヲ爲スハ眞ニ業作ナリ故ニ若シ所有物ハ必ス人力ニ由ル者トシテ解釋證明セハ刻像ハ即チ然ラン然レモ彫刻師ハ未タ其剪刀ヲ用ヒサル前ニ先ツ花紋石ノ一片ヲ有セスンハ有ル可カラズ而シテ此花紋石ヲ求ムルニハ必ス石礦ニ於テス可シ且ツ石礦ヲ鑿ル所ノ人ハ其未タ採掘ニ着手セサル前ニ先ツ其石礦ノ保有若クハ占領ヲ爲サスンハア

ル可カラズ此ノ如ク漸次ニ採掘前ニ存スル保有ノ事業ニ溯リ保有後

ノ業作ヲ論スルコトナク先ツ其事業ヲ説明スルハ豈ニ緊要ノ事ナラス  
 ヤ  
 予ヲ以テ之ヲ觀レハ占領ノ原始ト所有ノ各自ナルト及ヒ其無窮ナル  
 ト若クハ轉移ス可キトハ自ラ其理由ノ以テ証明ス可キ有リ蓋シ人民  
 社會ノ存スルヤ此數者ハ皆社會上ノ緊要ニシテ且ツ人々ノ利益ヲ獎  
 勵スルニハ必ス欠ク可カラサルモノトス若シ人々ノ利益ノ獎勵ヲ廢絶  
 セハ人々皆窮苦ニ陥リ其窮苦ノ極スル所遂ニ暴戾邪肆制ス可カラサ  
 ルニ至ルヲ以テナリ此疑問ニ付テハ將ニ後文ニ於テ再ヒ之ヲ論セ  
 トス茲ニ所有物ノ緊要ニ屬スル者タルヲ說示セシ所以ハ專ラ業作價  
 格混一ノ說ヲ駁スル爲メノミ讀者宜シク了察ス可キ所ナリ  
 世人或ハ予カ說ヲ駁シテ曰ハシ今日緊要缺ク可カラサル者モ明日ニ  
 至レハ不用物ト爲ル者アリ然レハ則チ所有ノ權理ハ時勢ノ轉換ニ從

フニ非スヤト予ハ之ニ答テ曰ハシ世ニ歴史アリシヨリ以來今日ニ至  
 ル迄社會人民ノ景況ヲ以テ之ヲ觀レハ所有物ハ常ニ緊要缺ク可カラ  
 サル者タラシ且ツ安シ預メ人民習俗ノ變遷ヲ前知シテ之ヲ限制スル  
 コトヲ得ンヤ且又所有物ハ時代ニ由テ轉化スル者ナレハ預メ人民ノ習  
 俗及ヒ制度ノ止點ヲ極定スルハ無益ニシテ兒戲ニ類スルコトアラント  
 財產トハ各人ノ所持セル需用物ノ總稱ニシテ法律學家ハ別ニ之ヲ稱  
 シテ家産ト云フ此家産ト云ヘル語ハ貧富ニ關スルコト無ク均シク之ヲ  
 用ヒ財產ト云ヘル語ハ或ハ大財產ト云ヒ或ハ小財產ト云フ然レモ常  
 用說話ニ是レ何ソモ財產ト爲スニ足ラント謂ヘル如キ財產ノ義ハ  
 大ニ富有ノ意ニ近似セリ

富有  
 リシエ

富有トハ財産保有者ノ位地カ經濟上ノ點ニ關シテ他人ノ上ニ在リテ  
 其住地ニ於テ其要用外ニ財ヲ費スヲ得ヘキ財産ノ形狀ヲ云フ故ニ  
 物理學上ニ於テ形質ノ大小ヲ比較スルカ如ク富有ノ大小ヲ比較シ小  
 都邑ニ於テ富有ト稱ス可キ人モ若シ巴里府内ニ來リテ生計ヲ營ムト  
 キハ僅ニ其日用ヲ辨スルニ過キスト云フカ如キハ固ヨリ此富有ノ義  
 ニ適合スル者ニ非ス然レモ富有ト云ヘル語ハ常ニ此義ニノミ用フル  
 者ニ非ス許多ノ著書中ニハ此語ヲ經濟上ノ需用物即チ貿易上ノ價格  
 ナ有スル需用物ト同一義ニ用ヒシコト有リチニルゴ一氏ノ著セシ富有産  
 成分論及ヒアダム、スミッツ氏ノ著セシ國民富有論中一モ他ノ義ニ用  
 ヒシ者ナシ予モ亦此最後ノ義ニ於テ之ヲ用ヒントス  
 財產ヲ評定スルニハ特ニ貿易上ノ價格ヲ算ス可キカ將タ所用上ノ  
 價格ヲ算ス可キカギ一ヨムロスセ一氏ハ私有財産ト公有財産トチ

區別シ其私有財産ニ付テハ貿易上ノ價格ヲ算スルヲ要シ公有財産  
 ニ付テハ所用上ノ價格ヲ算スルヲ要セリ同氏ノ說ニ曰ク若シ貿易  
 上ノ價格ヲ以テ公有ノ財産ヲ評定セハ公有財産中ノ重要ナル元素  
 ナ遺漏スル者アラソ例ヘハ港運河及ヒ其他共同經濟上ニ大有益ナ  
 ル多般ノ通路ノ如キハ貿易上ノ價格ナシト雖モ其所用上ノ價格ハ  
 甚タ巨大ナレハナリ  
 富有學ハ三箇ノ部分ヨリ成ル第一産成第二分配第三消費是レナリ故  
 ニ予カ此書ヲ纂述スルヤ亦此三者ノ別ニ從テ之ヲ論セトス  
 ○第一篇 富有ノ産成即チ物品ノ産出  
 人ノ物品ヲ産出スル力ハ原質物ヲ化成シ以テ天性及ヒ人欲ノ要緊ヲ  
 充タスニ過キスシテ其力ヲ竭スハ極メテ大ナリト雖モ一箇ノ小分子  
 チモ造成スルコト能ハサラン今茲ニ農夫アリテ一箇ノ種子ヲ播シ以テ

三十粒ヲ収穫スルモ是レ唯他ノ元素ノ力ニ由テ分化セル分子ニ其新  
 形ヲ賦與シタルニ過キスシテ即チ土壤、糞壅、水氣、日光ハ農夫ノ由テ以  
 テ其產出ヲ爲セシ所ノ原質物ナリ而シテ此原質物ニ付テ農夫ノ動作  
 ナ爲スハ猶ホ職工ノ農業ニ由テ供セラレタル原品ニ付テ其動作ヲ施  
 スカ如シ故ニ農夫ト職工トヲ問ハス其工業ハ共ニ唯原品ヲ化成スル  
 ノミニシテ決シテ之ヲ造成スルニハ非サルナリ  
 右ニ論述セシ所ヲ以テ之ヲ觀レハ彼ノ一種學派ノ謬誤ヲ指摘スルニ  
 足レリ蓋シ其學派ノ謬誤ハ他ナシ產出ノ工業ハ獨リ農業ノミニ屬セ  
 リトシ其他ノ工業ハ毫モ需用品ノ堆積ヲ増加スルヲ無キカ故ニ之ヲ  
 稱シテ不產出ノ職業ト爲セリ實ニケスチー、チー、ノ二氏及ヒ其門  
 人等ノ用ヒシ所ノ不產出ト云ヘル語ハ世上ニ所謂無益ノ義ニ非ズ又  
 タ他ノ技術職業ヲ以テ無用ト爲スノ謂ニアラス唯其技術上ノ動作ハ

一モ需用品ノ堆積ヲ増加スルヲナク國產ハ總テ土地ヨリ生スルト謂  
 フニ過キサルナリ

此說ハ「ファイジヨクラシ」業ニ歸スル學派 專ラ產出ノ功ヲ農ト名ツクル者ニシテ即チ  
 偏ニ自然物ヲ貴重スル學ナリ又ケスチー氏ノ學派ヲ稱シテ「ファイジヨ  
クラナック」ト云フハ即チ以テ此經濟學發明者即チケスノ謬誤ヲ喚起  
 スル所ノ名稱ナリ凡ソ經濟學家ノ通論ニ從ヘハ要用ノ業作ハ總テ  
 之ヲ產出ノ業作ト爲セリ故ニユルマン氏ノ著セシ經濟探賾論中ニ  
 ハ產出ノ業作ヲ別テ三種ト爲ス第一產出人ニ關スル業作第二消費  
 人ニ關スル業作第三共同經濟ニ關スル業作是レナリ蓋シ同氏ノ說  
 ニ從ヘハ產出人カ其財本ヲ成シ利益ヲ生ス可キ業作ハ則チ總テ之  
 ナ產出ノ業作ト看做シ消費人カ價值ヲ拂フ爲ニ充分緊要ナル業作  
 ハ則チ總テ之ヲ產出ノ業作ト看做ス可シ然レニ業作ヲ爲ス本人ノ



爲ニハ大ニ産出ノ業作ト爲ス可クシテ共同經濟ノ爲ニハ一箇ノ損  
失ト爲ル者アリ例ヘハ鼻ヲ以テ笛ヲ吹ク者ノ大ニ看客ヲシテ群聚  
セシメタルカ如シト

抑モ彼ノ學派ノ說ハ專ラ農業ヲ貴重スルノ意ニ出ルト云フト雖モ其  
立論到底誤謬ヲ免カル、能ハス蓋シ農夫ノ供スル原品ト雖モ若シ百  
般ノ工業ヲ以テ之ヲ製造スルコト非サレハ開明進歩セシ共同經濟上ノ  
需用品ヲ充タヌコト勝ヘス故ニ工業ハ商業ノ扶助ニ由リ粗糙ノ養料ヲ  
以テ精美ノ食物ヲ製造シ以テ開明社會ノ快樂ノ用ニ適セシムル者タ  
リ然レハ則チ麥ヲ蒸溜スル人ハ即チ土壤及ヒ糞壅ニ由テ麥ヲ得ル所  
ノ農夫ノ力作ニ類似セル業作ヲ爲スニ非スヤ且ツ假令ヒ蒸溜人ハ需  
用品ノ堆積増加スルニ非スト爲スモ豈ニ之カ爲ニ總テ物産ハ土地ニ  
リ生スルト謂フヲ得ンヤ蓋シケステ一氏ノ大謬誤ハ專ラ此點ニ在

リトス

且ツ農業ニ由テ産出スル物品ノ原形ノ未タ以テ人ノ需用ヲ充タス  
能ハサル者ヲシテ其用ニ適セシムル者アレハ其化成ノ功ニ由リテ其  
物産ノ所用上ノ價格ヲ増加シ又タ其貿易上ノ價格ヲ騰貴スルニ至ラ  
ン若シ否ラスノハ誰カ工業ヲ企ル者アラシヤ然ラハ則チ新ニ創造シ  
タル所用上及ヒ貿易上ノ價格ハ決シテ共同ノ富有及ヒ國民ノ収頼ヲ  
増加セサルトノ說ヲ主張ス可カラサルヤ必セリ

此解説ニ付テハ將ニ後篇ニ於テ重要ナル結果ヲ引用スルヲアラソ  
トス

物品ノ産出ヲ助成スル所ノ元素ニ三箇アリ曰ク自然物曰ク業作曰ク  
財本是レナリ

自然物及ヒ所有物

物品産出ノ用ニ供ス可キ力ノ自然物中ニ存スル者少ナカラズ然レモ  
 若シ其力ヲ捨テ顧ミサレハ其力無益ノ運動ヲ爲シ若シ善ク之ヲ用フ  
 レハ大ニ農工商ノ業ヲ裨益スルコトアラソ例ヘハ土壤ハ人力ヲ以テ改  
 良スルニ非レハ荆棘雜草以テ之ヲ掩フニ至ル可ク河水ハ之ヲ匯留シ  
 テ工業器械ノ動力ト爲スニ非スンハ徒ニ奔流スルニ過キサラソ風力  
 ハ帆布ヲ以テ其力ヲ假用シ風車ノ磨臼ヲ旋轉スルニ非スンハ亦無益  
 ニ吹過センノミ且ツ夫レ航浮ス可キ水流ハ商賈ノ由テ以テ運送ヲ利  
 スル所ト雖モ若シ之ヲ用ヒサレハ徒ニ無益ノ水流タルニ過キサルナ  
 リ  
 萬國ノ人民ハ均齊ニ自然物ノ付授ヲ稟有スル者ニ非ス氣候ノ異同ニ  
 從テ天賦ノ産出力ノ効倣亦タ多少ナキニモ非ス故ニ此地ニ於テハ僅  
 ニ犁頭ヲ以テ土壤ヲ耕鋤スレハ其收穫甚ク饒多ナリト雖モ彼地ニ於

テハ之ニ反シ地質卑濕ニシテ之ヲ肥沃ニセント欲セハ須ク先ツ之ヲ  
 乾燥セスンハアル可ラス或ル緯度ニ於テハ其氣候人力ヲ勞セスシテ  
 人身ノ養料ト爲ル可キ「バナニエ」印度ノ大葦ヲ耕植スルニ適スル者アリ  
 他ノ緯度ニ於テハ之ニ反シテ其土壤大ニ心力ヲ勞シ貨財ヲ費シテ耕  
 作スルニ非サレハ食品ノ産生ニ適セサル者アリ又興民中或ハ自由ニ  
 働作ヲ爲スコトヲ得ヘキ廣漠ノ地ヲ有スル者アリ或ハ狹隘ノ土地ニ群  
 居シテ其住民速ニ稠密ニ至ル者アリ  
 然リト雖モ天幸ヲ得タル國民ハ通常其天幸ヲ保全スル能ハス蓋シ天  
 然ノ幸思ハ人ヲシテ怠惰放縱ニ陥ラシム是ヲ以テ其幸思ヲ受ケタル  
 者ハ非常ノ勞力ヲ要スルコトナク遂ニ其天然ノ賦與ヲ利用スル爲ニ緊  
 要ナル事業ヲ爲ス可キ慣習ヲ忘失スルニ至ル夫レ炎熱ナル氣候ノ感  
 觸カ人ノ形体ヲシテ軟弱ナラシムルト一般ニ生活ノ大ニ輕便ナルハ

竟ニ道德上ニ感傳ヲ生シ自ラ敗壞ニ歸セシムル者タリ凡ソ最モ殷富  
 ナル國土ノ最モ衰頽ノ狀ニ變スルハ蓋シ此ノ氣候ト天幸トノ二原因  
 ニ由レリ  
 之ニ反シテ試ニ小國和蘭ノ人民ヲ視ニ其國ノ地勢平坦ナルヲ以テ水  
 流順次ニ其地形ニ從テ緩流シ一モ奔下ノ勢ナク是ヲ以テ工業器械ノ  
 動力ヲ有スルヲナシ其地質原ト卑濕ナリト雖ヒ彼ノ人民ノ働作ニ因  
 テ悉ク之ヲ改良シ且ツ航海ニ從事シテ遠隔ノ諸港ニ其國旗ヲ建ツル  
 ニ至リ其土地ノ改良漸次ニ進歩シ河水ニ缺ク所ノ動力ハ之ヲ風力ニ  
 求メ其働作甚ク巧妙ナルニ因テ其政務ノ善美及ヒ工商ノ繁榮ナル以  
 テ万国ノ模範ト爲スニ至レリハルレム海ハ其沿岸ノ地ヲ浸害スルヲ  
 以テ國民憂懼ヲ抱ク既ニ久シ二百年前來其海水ヲ近傍ノ海中ニ疏決  
 シテ之ヲ潤渴スルノ策ヲ企タリ然レヒ器械ノ方術完備セスシテ此良

圖ヲ施行スル能ハサリシカ輓近蒸氣器械ノ創設ニ由リ其企圖ヲ實地  
 ニ施スヲ得テ以テ一万八千「エクタール」ノ土地ヲ耕作ニ供スルヲ得  
 得タリ

氣候ノ人体上ニ感傳ヲ生スルハ固ヨリ喙ヲ容ル可キニ非ス然ルニ  
 之ヲ以テ物理哲學マテリヤノ説ト爲シテ之ヲ擯斥スルハ至當ノ論  
 ニ非サル可シ然レヒ此氣候ノ感觸ヲ爲スヤ必ス之ヲ避クルヲ得サ  
 ル者ニ非ス又人力ヲ以テ之ニ勝ツヲ能ハサルニ非ス今之ヲ證スレ  
 ハ現今衰頽セル國土ハ往日大ニ繁榮ヲ爲セシ者ニ非ズヤ例ヘハ西  
 班牙人ノ如キハ其國ノ情風ヲ推諉スルニ其氣候炎熱ノ感觸ヲ以テ  
 ス可シト雖ヒシヤル、キヤン西班牙ノ臣民ノ景況ヲ舉ゲテ之ヲ駁難  
 セハ則チ彼レ恐ラクハ之レニ答フルヲ能ハサラン即チモリタニ  
 人ノ其半島ノ南部ヲ占領セシ間ハ其農業ヲ勉勵シテ繁榮ノ高度ニ

達シタルニ非スヤ

自然力中其作用極マリナクシテ人々之ヲ所有スルヲ能ハス且ツ其人  
 ニ扶助ヲ爲スモ曾テ其報酬ヲ要スルヲナク從テ其產出物ニ貿易上ノ  
 價格ヲ増加セサル者アリ之ニ反シテ他ノ自然力ハ其數限リアリテ人  
 之ヲ保有スレハ真正ノ專有ニ歸シ若クハ其特權ヲ生シ其專有特權ノ  
 功效ニ由リテ其業作ト財本トニ關係スルヲナク產出物ノ價格ヲ増加  
 スル者アリ今一地方内ニ一箇ノ飛泉アリテ之ニ水車ヲ設置スル者ア  
 ラズニ之レト其業ヲ競フ者ナクレハ其工價大ニ騰貴シテ其業作ト資  
 金トニ不相當ノ報酬ヲ求メ得ルハ復ク疑ヒテ容レサルナリ  
 又々土地ニ就テ之ヲ云ヘハ東西兩地球ノ各國ニ於テモ亦之ニ異ナル  
 一ナク歐羅巴各國ニ於テ特ニ最モ然リトス凡ソ土地ノ所有ハ一種ノ  
 特權ニ出ル徵稅カ其特權ヲ有スル者ヲシテ業作ノ勞ナク輒ク生計ヲ

營ムヲ得セシムル者ト相類似ス何トナレハ則チ土地ノ所有者ハ其  
 貴重ナル器物即チ土地即チ貸與シテ金額若クハ果實ノ若干量ヲ得ルニ因ル  
 是レ即チ地子ノ由テ生スル所ナリ  
 地子ノ由テ生スル所ノ原因ト其性質トニ就テハ世人ノ喋々辨論スル  
 所ニシテ一ニ著述家ハ地子ノ存立ス可カラサルヲ論セル者アリ  
 彼等ノ說ニ據レハ曰ク地子ハ土地專有ノ報酬ニ非ス土地ヲシテ其價  
 格ヲ有セシムル爲ニ先ツ其土地ニ付テ費セシ所ノ資金ノ利子ニ外ナ  
 ラス若シ累代相繼テ土地ニ施シタル費用ヲ計算スレハ其金額必ス地  
 子ノ合數ニ過キルヲ有ラン是レ即チ資金ノ利子ヲ要スル所以ナリト  
 然レモ是說ハ謬誤ノ甚キ者ト云フ可シ何トナレハ則チ土地ノ所有  
 者カ若シ誤テ其土地ヲ以テ耕ス可カラサル者ト爲シ之ヲ舍テ耕サ  
 ル者アルモ一朝其過失タルヲ知ルヤ否ヤ直チニ之ヲ他人ニ貸與ス

ルヲ得ベシ若シ又ク我カ所有地内ニ通流シテ航浮ス可カラサル河  
 水アリテ其中央ニ一箇ノ島嶼ヲ生スルヲ有ラハ其土地ハ毫モ我カ費  
 用ヲ施セシメナシト雖モ豈之レテ他人ニ貸與シテ其地子ヲ求ムルヲ  
 能ハサランヤ若シ想像上ニ於テ一朝土地ノ際界ナク廣大ニ變セシメ  
 アリト假想セハ所有者ノ專有俄ニ止ミ地子頓ニ廢シ佃夫ハ其耕作ス  
 可キ土地ニ費用シタル資本ノ利子ニ均敵スル金額ニ非サレハ復テ其  
 小作料ヲ出スヲ無カル可シ凡ソ他ノ專有ノ器物ニ付テハ異論ナク其  
 借料土地ニ就テ之ヲ云ハ即チ地子ナリヲ支辨スルヲ認識シ獨リ土地ノ地子ニ至リ  
 テ異論ヲ生スルハ抑モ何故ソヤ  
 茲ニ一箇ノ水車アリテ其保有者ハ久ク一地方ノ依頼ヲ受クル者タラ  
 ハ其製粉者即チ依頼ヲ受クル者ハ即チ該地方ノ專權者ニシテ大ニ利益ヲ得ル  
 事以テ其製粉所ノ貿易上ノ價值大ニ騰貴セン然レモ若シ政府ヨリ他

ノ起業人ニ許可シ其近地ニ於テ製粉所ヲ建築スルヲ有ラハ第一製粉  
 者ノ專有俄ニ廢シ其製粉ノ價值頓ニ減シ漸次ニ其資本タル財産ノ大  
 半ヲ失ヒ之ヲ貸與セント欲スルモ其貸料ノ半額ヲ減ス可シ之ニ反シ  
 テ今兩箇ノ製作所互ニ相接近スル者アリテ若シ其一箇カ不慮ノ禍災  
 ニ罹リ破壊シテ復テ修繕ス可カラサルニ至ラハ他ノ遺存セル製作所  
 ハ別ニ資本ヲ用フルヲナク唯其專有ノ効ニ由リテ其賣買及ヒ貸借ノ  
 價值直ニ騰貴スルニ至ル可シ土地ノ地子ニ於テモ亦何ソ之ニ異ナラ  
 ン若シ古今未曾有ノ禍害ノ唯々想像スルヲ得可キ者アリテ耕作ス可  
 キ土地ノ大半ヲ荒蕪セハ其禍害ニ罹ラサル土地ノ地子ハ頓ニ著大ノ  
 増殖ヲ得ルニ至ル可シ  
 リカルドー氏モ亦タ他ノ方法ニ由テ殆ト予カ説ト同一ノ趣旨ヲ説明  
 セリ此經濟學家即チリカルドー氏ノ説ニ從ハハ曰ク人ハ先ツ良地ヲ擇テ耕作

八卅

ヲ始メ人民ノ繁殖スルニ從テ漸次ニ瘠地ヲ取ルニ至ル而シテ此良地  
ヨリ瘠地ニ至ルノ進歩ハ將サニ何レノ時ニ至テ底止セントスルカ其  
產出物ノ耕作ノ雜費ヲ償フニ足ラスシテ反テ損失ヲ生スルニ至ラハ  
則チ業作人ハ即チ耕  
作人其開拓ノ業ヲ廢止スルコト有ラン然レモ公衆ノ養  
料カ緊要ナルヨリシテ業作人ヲシテ其產出物ト雜費トノ間ニ平均ヲ  
生スル所ノ極度ニ至ルマテハ決シテ其業ヲ廢スルコト勿ラシム是ヲ以  
テ良地ヲ耕植スレハ自ラ一大利益ヲ得ルカ故ニ耕作人ハ土地ノ肥沃  
ノ度ニ從テ益ヲ騰揚スル金額ヲ擲チ勉メテ良地ヲ佃作セヨトテ求ム故  
ニ地子ハ則チ良地ト瘠地トノ差異ニ由テ生スル者ニシテ瘠地ノ如キ  
ハ其產出物ト耕作ノ雜費ト相平均スルヲ以テ一モ地子ヲ生スルコト無  
ル可シ此ノ如キハ亦タ安ソ貴重ノ金錢ヲ擲チ無益ノ器械ヲ用ヒント  
欲スルノ佃夫アラシヤ故ニ下質ノ地ハ通常其所有者自ラ之ヲ耕サ、

ルヲ得スト此說ハ蓋シ精細巧妙ノ說ニシテ良地ハ自ラ其定限アルヲ  
以テ之ヲ利用スルニ於テハ總テ他ノ專有物ニ於ケルカ如ク其借料ヲ  
支辨セサルヲ得スト云フニ外ナラサルナリ

九卅

然レモ或ハリカルド一氏ノ說示セル耕作ノ順序ヲ以テ實際上ト相反  
セリト爲ス者アリ曰ク開墾ハ山嶺ヨリ始マリ漸次ニ下リテ溪谷ニ達  
セリ然レハ則チ開墾ハ瘠地ヨリ良地ニ至ルニ非スヤト許多ノ場合ニ  
於テ是ノ如キ事實アリト雖モ是レ唯一部分ノ觀察ノ精密至當ナル者  
ニシテ之ヲ一般ノ法則ニ比較スレハ大ニ逕庭ナキコト能ハス蓋シ耕作  
年表ノ順序ヲ以テ之ヲ觀レハ必シモ常ニ瘠地ヨリ良地ニ至ルニ非ス  
今之ヲ證明セント欲セハ即チ見ヨ現今殘餘ノ荒地若クハ砂地ノ如キ  
大ニ人力ヲ勞スト雖モ之ヲ變シテ第一等ノ良地ト爲ス能ハサルコト  
凡ソ人民ノ進歩中ニハ大ニ偶然奇發ノ事アリテ其原由經濟ノ趣旨ニ

合ハサル者許多ナリト雖ヒ遂ニハ全ク社會ノ法則ト一致スルニ至ル可シ是ヲ以テリカルドール氏ノ經濟法ハ人民社會ノ原始ニ適合セスト雖ヒ之ヲ開化ノ社會ニ施セハ以テ真正ノ法ト爲ス可シ此リカルドール氏ノ說ハ共有黨カ以テ所有權ヲ駁撃スルノ託言ト爲セシカ故ニ世人或ハ是說ヲ排斥スル者アリ謂ヘラク若シ地子ヲ以テ專有ノ報酬トセハ豈ニ地子ノ名ヲ穢瀆シ之ニ歸スルニ防護ス可カラサル罪狀ヲ以テスルニ非スヤト是レ即チリカルドール氏ノ論理ヲ以テ人民社會ヲ轉覆スル者ト爲シ之ヲ排斥シタル所以ニシテ予カ前文ニ於テ既ニ論駁セシ所ノ或者ノ論理即チ地子ハ專有ノ報酬ニ非スシテノ資本ノ利子ニ外ナラスト云ヘル論如キモ亦務テ所有權ヲ防護スル爲ニ發シタル者ニ過キサルナリ若シリカルドール氏ノ說ニ反シタル他ノ說ニ非サレハ以テ所有物ノ基礎ト爲ス可カラスト爲セハ反テ所有物ヲシテ殆ト壞滅ニ歸セシメ所

有者ハ唯タ共有黨ノ命令ヲ循奉スルニ至ラノノミ抑モ拙惡ノ辨論ヲ藉リテ以テ所有權ノ防護ヲ爲スハ其方術固ヨリ不可ナリ若シ其不可ナルヲ知リテ強テ防護ヲ爲スハ其心術既ニ所有權ノ駁撃者ト同犯タルヲ免レズ凡ソ諸家ノ主唱セシ辨論ハ唯其一者即チリカルドール氏ノ論說ノ外有害無益ノモノナリ故ニ其論理ノ拙惡ナル者ハ悉ク之ヲ論破シテ泯滅ニ至ラシムルハ所有者ノ爲ニ頗ル緊要ノコトナリトス諸法律學家ハ唯タ多ク保有ノ事實ヲ證明シテ深ク所有權ノ原由ニ論及スル者ナシ此ノ如キノ臆見ハ未ダ以テ一種ノ說ト爲スコトヲ得サル可シ抑モ此說タルヤ戲謔ニ類似セル者ニシテ徒ニ保有セル現實ニ就テ所有權ヲ論定スルノミ安ソ此說ヲ以テ無所有權ノ說ヲ主張スル者ノ口ヲ箝スルヲ得ンヤ此等ノ法律學家ヲ難詰シテ其極ニ至ル者アレハ彼等將ニ答ヘテ曰ハン保○有○外○何○ソ○所○有○ア○ラ○ン○ト○然○レ○モ○此○ノ○如○キ○ノ

語ハ徒ニ論理及ヒ法理ヲ無ニスルニ過キサルナリ  
 一ニ法律學家ハ保有ノ事實ノミ以テ所有權ヲ保護スルハ其說ノ未  
 タ完全ナラサルヲ悟リ之ニ加フルニシセロソ氏カ人種ノ保護者ト  
 稱セシ所ノ期滿得有ノ權ヲ以テセリ彼等ノ說ニ曰ク土地ノ保有アル  
 既ニ久シ然ルニ今ニ至リテ所有物ノ原因ヲ窮尋スルハ人民社會ノ交  
 際中ニ一種ノ争擾ヲ醸成シテ治國ノ本旨ニ背反スルニ至ル可シ安ソ  
 永久經年ノ後ニ至リ確實ナラサルノ憑証ヲ舉テ以テ保有ヲ疵傷スル  
 一ヲ得ンヤ凡ソ何事ヲ問ハス法律ヲ以テ指定セル時期既ニ過キタル  
 後ハ其詞訟自ラ沈止スルモノナリ且ツ赦宥ヲ行フハ法律ノ冀望スル  
 所ニ非スヤ且其罪人ハ既ニ自ラ其罪ヲ忘レ法律ノ罰ヲ畏ル、一ナク  
 安然トシテ復ヒ人民社會中ニ伍入シ檢事官及ヒ其家人ト雖モ復タ其  
 罪ヲ鳴ラス一能ハス而シテ需用品ノ奪領ニ至リテハ是ト異ナル所以

ノモノハ獨リ何ソヤ豈ニ所有物ニ關スル犯罪ト人身ニ關スル犯罪ト  
 其處置ヲ異ニスルヲ得可ケンヤ  
 然レモ期滿得有ノ條規ニ依リテ以テ所有權ヲ主張セント欲スルモ其  
 論理ヲ說破スルハ固ヨリ難キニ非サルナリ蓋シ期滿得有ノ權ヲ以テ  
 所有權ヲ確定セハ其所謂期滿得有權ハ啻ニ現今人ニ對シテ保有者ヲ  
 保護スルノミナラス後世人ニ對シテモ亦タ保有者ヲ保護シ後世人ヲ  
 シテ其動作ヲ施ス所無カラシムルニ至ラン抑モ彼ノ法律學家ハ土地  
 ヲ占有セル者ニ非サレハ期滿得有ノ權ヲ得スト云ヘル規則ヲ遺忘シ  
 タリヤ彼等ハ或ハ無益ニ謂ハンノミ後世人ノ現今人ニ繼クハ猶ホ權  
 理ノ授與ヲ受ケタル者ノ其權理ヲ讓主ニ繼クカ如クニシテ現今人ハ  
 即チ後世人ノ代理ナリト然レモ人々固有ノ權理ハ其讓主ニ由テ代理  
 セラル、者ニ非ス故ニ予ハ則チ以爲ク生活ノ權理業作ノ權理及ヒ此



等ノ方法ヲ求ムル所ノ權理ハ父ヨリ子ニ傳フ可キモノニ非スシテ各人ノ生來固有スル所ノ緊要的ノ權理ナリト夫レ人ノ父タル者ハ明許ヲ以テ其子ノ体力及ヒ心力ノ作用ヲ放棄スルコトヲ得ルヤ曰ク否ナ總テ此類ノ約束ハ法律上ノ禁スル所ナリ又假令ヒ默許ヲ以テスルモ土地ノ保有者ノ期滿得有ノ權ヲ認識シ之ヲシテ此ノ業作上ノ諸器械ヲ占領セシメ以テ其子ノ權理ヲ放棄スルコト能ハス

又々性法學家ハ所有物ヲ以テ業作ニ基ク者ト爲セリ其說ニ謂ヘラク一モ價格ヲ有セサル物品ヲシテ其價格ヲ有セシムルハ業作ニ由ラザル者ナリ故ニ業作人ノ自ラ造成セル物品ニ付テ其特權ヲ有スルハ固ヨリ至當ノコトナリ凡ソ自ラ一己ノ富有ヲ求メ之ニ由テ竟ニ共同ノ富有ヲ増加スル者ハ之ヲ賞スルニ讚詞ヲ以テス可シ安ソ之ヲ稱シテ奪領ト云フコトヲ得ンヤト

此ノ辨論ハ亦未ダ以テ完全ナリト爲スニ足ラス何ントナレハ則チ此ノ辨論ニ答駁スルハ容易ノコトニシテ予カ既ニ論セシ如ク業作ヲ爲スニハ必ス先ツ保有ノ業ヲ爲ス可ク且ツ業作人カ其隣人ノ部分ヨリ多ク原質物ヲ占有スルハ何ニ故ト問フコトヲ得可キヲ以テナリ抑モ人ノ未ダ價格ヲ付與セサル物品ヲ以テ己レノ用ニ供セント欲スル客畜人ハ實ハ其物品ノ價格ヲ創成スト雖モ衆人ノ利益ヲ爲スコト能ハス蓋シ一人若クハ二人ノ事業ニ由テ増殖スル所ハ共同富有ノ爲メニハ僅々ノ關係ニ過キサルヲ以テナリ然リト雖モ業作ノ主旨ニ加フルニ社會要用ノ主旨ヲ以テセハ則チ充分ニ所有權ヲ説明スルコトヲ得可シ

ハステナー氏ノ著セシ折衷經濟論中ニハ要用ト價格トノ二旨ヲ區別シテ曰ク世人往々此區別ヲ混同セル者アリ凡ソ土地ハ人ノ未ダ業作ヲ爲サズル前ニ既ニ其要用ノ性質ヲ有スト雖モ毫モ價格ヲ有

スルコトナシ而シテ凡ノ其業作ニ由テ爲ス所ハ何事ソヤ他人ノ所有  
 ナ剝奪スルコトナク唯タ一箇ノ價格ヲ創成スルノミ然レハ則チ安ソ  
 他人ト怨讎ヲ生スルコト有ラフヤト此ノパスチアー氏ノ新説ノ如キ  
 ハ決シテ此疑問ノ原質ヲ變換スルノ力ナシ故ニ之ヲ以テ満足ス可  
 シト爲ス者アレハ是レ此ノ奇怪ノ新説ニ欺瞞セラル者ト謂フ可シ  
 若シ土地ヲシテ大氣ノ如ク無限ノ需用物タラシメハ毫モパスチア  
 氏ノ説ニ答辨スルヲ要セザラン然リト雖モ土地ハ有限物タルヲ  
 以テ總テ其分外ニ土地ヲ有スルハ則チ他人ノ權理ヲ侵奪スル者ノ  
 如シ故ニ若シ各人カ皆其要用物ヲ以テ價格ヲ創成セント欲セバ知  
 ラス甲者ハ如何ナル權理ニ由テ乙者カ價格ヲ創成セル權理ヲ侵奪  
 スルコトヲ得可キヤ  
 凡ソ造物主ノ人ヲ生スルヤ其抑制ス可カラサル情意ヲ満足スルニハ

必ス業作ヲ以テセシメタリト雖ヒ然レヒ人性原ト懶惰ニシテ其業作  
 上ノ法則ニ循フヲ視ルコト猶ホ一種ノ刑ヲ受クルヲ視ルガ如シ故ニ人  
 ハ之ヲ獎勵スルヲ以テ緊要トス何トナレハ若シ其自然ノ意向ニ委シ  
 テ之ヲ奮興スルコトナクハ公益ノ大害タル安逸ニ耽リ速ニ無氣無力  
 ノ者ト爲ル可キヲ以テナリ是ヲ以テ人ヲシテ其業作ヲ怠ラシム可カ  
 ラサルハ固ヨリ論ヲ待タサルコトニシテ益働作ヲ奮勵セシム可キ方法  
 ナ發明セズハアル可カラス然リ而シテ之ヲ奮勵セシムルニハ各人  
 ノ利益ヲ以テスルニ非スニテ別ニ如何ナル有力ノ獎勵法ヲ發見ス  
 ルヲ得可キヤ抑モ又タ耕作人ノ業作ニ適合シタル土地ノ保有ニ非ス  
 シテ更ニ之ヲ誘導ス可キ方法有リヤ古ヨリ今ニ至ル迄所有物ヲ認メ  
 テ人民社會ノ基礎ト爲ス者ハ他ナシ所有物ハ業作ヲ勸奨スル爲ニ最  
 モ効力アル者ニシテ農工商ノ三者ヲシテ其勞力ヲ盡シ艱苦ニ堪ヘ

可キモノハ唯此一箇ノ方法アルニ因レハナリ若シ此所有物ヲ廢棄  
 セハ人民社會ハ其勢力衰頽シテ遂ニ土崩瓦解ノ景狀ニ陥リ古來繁盛  
 ナル我カ歐洲モ亦俄ニ東方諸國ニ類似シ怠惰ニ沈溺シテ日々死亡ニ  
 瀕スルニ至ラン  
 共有黨ハ所有物ヲ廢棄シテ更ニ之ニ代フルニ高尙ナル勸獎法ヲ以テ  
 スルノ說ヲ爲セリ而シテ其一派ノ說ニ謂ヘラク榮譽ハ戰場ニ於テ報  
 國ノ勇者ヲ勸獎スル爲ニ最モ効力アルカ如ク共有社會ノ利益ノ爲ニ  
 人民ヲ勞動セシムルニモ亦タ此榮譽ノ勸獎ヲ以テ足レリトシ怠惰無  
 賴ノ徒ハ之ヲ一種ノ竊盜ト同一視シテ其罪ヲ榜示セル刑架ニ繫縛セ  
 ント又其別派ノ說ニ從ヘハ曰ク人々ヲシテ適宜ニ職業ヲ開創セシメ  
 ハ皆働作ヲ爲スヲ好ミ其業作ハ艱苦ヲ忘レ反テ之ヲ以テ安樂ト爲  
 ス所ノ社會ニ達スベシト又其他ノ說ニ據レハ曰ク獨行孤立ハ人生ノ

天性ニ乖戾セル者ニシテ友愛親昵ハ即チ人心自然ノ傾向ナリ故ニ此  
 ノ自然ノ基礎ニ據リテ以テ新社會ヲ創立シ其社會人ヲシテ其本然ノ  
 良徳ニ復セシメノヲ要スト  
 總テ右ニ舉ケシ所ノ諸說ハ世人ノ復タ之ヲ畏懼スル者ナキニ至リシ  
 ミリ以降ハ甚タ粗鹵ノ說タルニ過キサルナリ且其說ク所ノ方法タル  
 ヤ殆ト兒戯ニ異ナラサルヲ以テ共有學派ノ目的ニ付テハ予復タ悉ク  
 之ヲ辨說スルヲ欲セス抑モ共有黨ノ特ニ其情意ヲ異ニスル所ハ即チ  
 事物及ヒ人心ノ進歩上ニ熱中セル一種ノ信仰心ニシテ其信仰ハ我輩  
 ノ同致シ能ハサル非常ノ誇大說ヲ甚ク尊崇シタル者タリ若シ彼等ノ  
 妄想ヲ實地ニ施行セシニハ民間ノ風俗ヲ變更スルニ非サレハ固ヨリ  
 能ハサル所ニシテ而シテ是ノ如キ變革ハ年月ノ久キヲ經漸次ノ事業  
 ニ由ルニ非サレハ之ヲ施スヲ得ステニ共有黨ノ謬誤ハ立法權ニ由

テ瞬時間ニ容易ニ一國ノ人心ヲ變更ス可シト思ヘルニ在リ故ニ若シ  
 我輩ヲシテ必ス彼ノ學派ノ妄想セル進步ノ域ニ達セサルヲ得サラシ  
 ヲハ我輩ノ之ヲ避クルニ最モ確實ナル手段ハ即チ現今我カ社會ノ力  
 ヲ爲ス所ノ者即チ立法權ヲ壞毀シ其社會ノ未ダ上等ノ生命ニ達セサル前  
 ニ其生命ノ基本ヲ堙滅スルニ在リ夫レ極度ノ進步ヲ冀望シ又ク無疵  
 無欲、德實、勉勵ナル全備ノ人民ヲ冀望スルハ素ヨリ不可ナル無シ然レ  
 先ツ其人民ノ生命ヲ保存シ我輩カ改良セント希望スル所ノ社會ヲ  
 殺戮スルヲ以テ其始ト爲ス勿ル可シ  
 是レ即チシヨフ、スチユアル、ミル氏ノ著セシ經濟原論中ニ善ク詳明セ  
 シ所ナリ蓋シミル氏ハ輒近經濟學ニ超絶セル著述家ノ一人ナリ同  
 氏ノ說ニ從ヘハ假令ヒ民間ノ風俗及ヒ社會ノ約束ニ幾多ノ變更ヲ  
 要ス可キモ共有黨ノ說ハ決シテ行フ可カラサル者ト爲スニ非ス唯

現今ノ成績ヲ見ルテ能ハスト爲セリ今一例ヲ舉ケ我カ歐洲風俗ノ  
 状態ニ就テ之ヲ言ヘハ榮譽ハ千四百年代軍功ノ名聲ヲ尊重セル人  
 民ニ向テハ甚ク効力アリト雖モ今世工業ノ働作ニ就テハ毫モ其効  
 カヲ發スルコト無カル可シ又ルイー、プラン氏ノ怠惰人ヲ磨懲スル  
 爲ニ假想シタル刑架ハ宛モ成長人ニ施ス可カラサル學校上ノ軌範  
 ト同一視ス可キノミ又ヒエール、レル氏ノ友愛說ノ如キハモリ  
 ール氏ノ詞歌カ將來尙ホ久ク我カ社會上ノ状態ヲ摸寫ス可シ其詞  
 歌ニ曰ク  
 人間有友愛  
 原不<sub>レ</sub>宜<sub>ニ</sub>我事  
 彼等或ハ曰ハシ若シ所有物ヲ以テ緊要ノ者ナリトセハ他ノ所有者ノ  
 所有物ヲ褫奪シテ自ラ其所有者クラント欲スル者ニ對シテモ亦其  
 所有物ヲ認メテ以テ公正ノ者ト爲キ、ル可カラス何トナレハ則チ他

人ニ向テ所有物ヲ褫奪シ拒ム者ハ己レモ亦タ專有ノ所有者タル可キ  
 入理ナク其他人ヲ壓服シタル所ノ辨理ハ乃チ他人モ又直ニ其術ヲ以  
 テ我ニ攻撃ヲ加フルコトアルヲ以テナリト是ノ如キハ即チ立法家ヲ説  
 チ援引シ公正ノ原由ハ即チ所有ノ原由ナリノ一語ヲ以テ駁シ得ヘキ  
 所ナリ且ツ予ハ曾テ思ヘタク所有權ノ説明ハ其要左ノ如シ曰ク所有  
 物ヲ廢棄セシト欲スル所ノ社會ニ就テ之ヲ言ヘハ所有物ハ緊要ノ者  
 ナリトス何トナレハ共同ノ事業ハ其產出物ヲ保存スルノ力ナキヲ以  
 テナリ又分有社會ニ就テ之ヲ言ヘハ所有物ハ公正ノ者ナリトス何ト  
 ナレハ人々皆同一ノ權理ヲ希望スルカ故ニ其利益ハ保有者ニ歸セス  
 ノハアル可カラステニ其保有者カ他人ニ先チテ開墾若クハ改良ノ事  
 業ヲ爲セシ時ノ如キハ固ヨリ然ラサルヲ得サレハナリ  
 業作ニ由テ所有ノ權理ヲ買得セシトスル人ノ爲メニ其所有權ヲ認定

スルノ理由ハ亦以テ其所有物ヲ自由ニ處置シ及ヒ之ヲ贈遺スルノ權  
 理ヲ證明ス可シ  
 所有者ハ其產成セル物品ノ主ニシテ或ハ之ヲ毀壞シ或ハ之ヲ他物ニ  
 交換スルコト得ル若シ彼ヲシテ唯々其物品ヲ消費スル權理ノミチ有  
 ルシメハ其產出人即所ノ消費上ニ憂ナキニ至レハ則業作ノ獎勵全ク  
 廢絶シ遂ニ法律ヲ以テ世ノ節儉勉勵スル者ノ生活ノ圍界ヲ限定スル  
 ニ至ル可シ  
 己レノ所有物ヲ隨意ニ交換スルコト得ル所ノ人ハ亦比敵ノ物件ヲ求  
 ムルコトナク確然不拔ノ條理ヲ以テ其所有物ヲ他人ニ授與スルノ權理  
 ナク有ス何トナレハ法律上ニ於テ唯々交換ノミチ認許シ人ノ恩惠ヲ施  
 スコト禁止ス可キノ理ナキヲ以テナリ  
 夫レ既ニ授與ノ權理アレハ隨テ贈遺ノ權理ヲ生ス故ニ物件ヲ授與ス

ル人ハ仍ホ其入額所得ノ權ヲ己レニ保有シ其授與ヲ受ケタル者チシ  
 テ己レノ死後若クハ其入額所得期滿ノ後ニ非サレハ其物件ヲ領受ス  
 ル能ハサラシムルノ權アリ乃チ夫ノ遺囑贈遺ノ如キモ亦一種ノ授與  
 ニ外ナラス唯タ此授與ハ其遺囑人ノ死後ニ至テ始テ其効チ生スルノ  
 異ナルアルノミ故コ予ハ今此遺囑贈遺ト入額所得ヲ保有スル授與ト  
 ノ間ニ如何ナル差別アルヤヲ問ハソコ法律學家ニ於テハ其差別ノ象  
 狀ヲ識認ス可キハ復タ疑チ容レサルコトニシテ實ニ彼此ノ間多少ノ差  
 異ナキコ非ス然リト雖モ經濟學上性法學上ヨリ之ヲ觀レハ此二類ノ  
 授與ハ固ヨリ同一種タルコト復タ論チ待タサルナリ  
 故コ予ハ謂ヘラソ彼ノ千八百年代ニ於テ或ル性法學家カ遺囑贈遺ヲ  
 攻撃シタル所ノ駁說及ヒ千八百四十八年間共有黨ノ學派カ復ヒ此主  
 義ヲ主唱シタル所ノ駁說ヲ排撃スルコトヲ得ヘキノ辨理ハ獨リ此ノ二

類ノ授與チ同一視スルノ辨理アルノミ  
 此ノ遺囑贈遺ノ駁說ハ千七百九十三年佛國ノ立憲議院アッサンブレ  
 ンチニアンニ於テカロベスピエール氏カ朗讀セシミラボーイ氏ノ遺稿演說  
 書中ニ參見セリロベスピエール氏ハ且ツ曰ク豈ニ法律ノ善美ヲ貴  
 ハスシテ却テ立法家ノ賢知ヲ貴ラ可キノ理由アラソヤ何チ以テ人  
 タル者カ塵土ニ歸セシ後ニ至リ曾テ其耕作セシ土地チ自由ニ處置  
 スルコトヲ得可ケンヤト  
 遺囑贈遺ノ權理ヲ拒ム者ノ主旨ハ物理哲學家ノ說ニ出テ即チ靈魂不  
 死ノ說チ非毀スル者タルハ人々ノ觀察セシ如ク復タ疑チ容レサルナ  
 リ然レヒ一ニ性法ト生理トニ據テ所有及ヒ贈遺繼續ノ說チ主張スル  
 ハ豈ニ危殆ノ事ニ非スヤ抑モ靈魂ノ不死ハ我輩ノ親切ニ冀望スル所  
 ナリト雖ヒ此ノ性理ノ原則タルヤ人ノ駁撃ヲ受ケ易ク未タ以テ贈遺

繼續ノ確憑ト爲スニ足ラス是ヲ以テ予カ所有權ニ由テ遺囑贈遺ノ權  
 ナ抽出セシ所ノ論理ハ確固堅牢ニシテ他ト其撰ヲ異ニシ又他説ノ瑕  
 瑾百出スルカ如キノ比ニ非サルヲ知ルヘシ  
 パツシー氏ノ説ニ曰ク所有物ハ人ノ侵奪ス可キ者ニ非ス故ニ所有  
 物ハ完全不虧ノ者タリ所有物ハ人ノ造成セル所ナリ故ニ所有物ハ  
 全ク其人ニ屬セズンハアル可カラズ然レハ則チ所有主ハ其所有物  
 ニ關シテハ完全無限ノ權理ヲ有セズンハアル可カラズト是レ眞ニ  
 至當ノ論ナリ然リト雖ヒ惜手バツシー氏ノ説ハ入額所得ヲ保有ス  
 ル授與ノ論理ヲ踰越シテ直チニ遺囑贈遺ニ轉移シタル者ナリ  
 所有權ハ毫モ制限ヲ受クルトキ完全不虧ノ權利タルカ我佛國ノ法  
 律ニ由リテ之ヲ觀レハ所有權ハ固ヨリ完全ナリ然レヒ其所有物ヲ授  
 與シ及ヒ贈遺スルノ權理ニ至リテハ財產分遺囑人カ其尊屬ノ親若ク

ハ卑屬ノ親ノ爲メニ必ス當サニ其財及ヒ契約破毀ノ制規即チ被受人  
 產ノ若干分遺ス可キノ法律ヲ云フ及ヒ契約破毀ノ制規カ授與人ニ  
 對シテ其恩ヲ忘レ若クハ被受人カ契約ヲ執行セニ因テ限制ヲ受ク可  
 サルニ因テ授與及ヒ贈遺ノ財產ヲ要還スル制規ニ因テ限制ヲ受ク可  
 キ者タリ又所有ノ財產カ公同有用ノ爲メニ徵収セラル、一無キニ非  
 ス其他法律上ニ於テ全部若クハ幾部ヲ限定シテ以テ治産ノ禁及ヒ財  
 産領受ノ禁ヲ制定セリ蓋シ此等ノ法律ハ許多ノ經濟學家ノ駁難スル  
 所ト爲リ其經濟學家ハ法律學及ヒ立法家ヲ罪スルニ屢慣習固執ノ名  
 ナ以テセリト雖ヒ予チ以テ之ヲ觀レハ其駁難中實理ノ存スル所ハ強  
 テ之ヲ撲滅セサルモ此ノ駁難タルヤ彼ノ法律學家及ヒ立法家カ想像  
 セル如キノ功力ヲ有スル者ニハ非サルナリ  
 公同有用ノ爲メニ所有地ヲ徵収スルハ大ニ緊要ノ事ニシテ一箇ノ著  
 述家カ公論ニ背反シタル僻説ヲ極メテ此制度ニ抗拒セシコアルカ如  
 キ開明ノ國ニ於テハ特ニ最モ然リトス若シ公同ノ工業ヲ以テ互相ノ

協議ニ任セテ成ス可キ者ナリトセハ各人自家ノ利益ヲ重スルカ爲メ  
 ニ遂ニ全ク共同ノ工業ヲ廢止スルニ至ル可ク又各人ノ利益ニ壓勝セ  
 ント欲セハ其要求スル所ノ金額巨大ニシテ屢之ヲ償フコト得サル者  
 有ラン  
 財產分遺ハ所有ノ權理ニ反對シ且ツ大農ノ成立及ヒ其保護ヲ妨害ス  
 ル者ナリトシテ屢世人ノ駁撃スル所ナリト雖モ之ヲ證明スルハ復々  
 難キニ非サルナリ蓋シ財產分遺ハ養料負債者ノ死後其養料負債ノ償  
 還ニ供スル者タリ故ニ尊族ノ親若クハ卑族ノ親ハ即チ養料負債者ノ  
 存生中ヨリ養料ノ債主ニシテ遺囑相續人中獨リ此財產ノ分遺ニ權理  
 ナ有スル者トス且ツ財產分遺ヲ以テ大農ノ妨害トナセル駁説ノ如キ  
 ハ事實ノ確憑ヲ舉ケテ容易ニ之ニ答フルコト得可シ乃チ佛國ノ南部  
 ニ於テハ小農特ニ多ク之ニ反シテ北部ニ於テハ大農特ニ多クシテ其

二三ノ部分ニ於テハ分配相續ノ法律ニ抗シテ自ラ其大所有地ヲ失フ  
 コトナシ然レモ南部ハ家父アル者カ其嫡男ニ相續ノ特權ヲ付與スルヲ  
 以テ常トシ北部ハ兩親ノ財產ヲ均齊ニ衆子ノ間ニ分配スルヲ以テ常  
 トセリ

予チ以テ之ヲ考フルニ誰カ家父ノ權ヲシテ其財產ヲ次男ニ分與スル  
 コトナク獨リ其長子ノミニ與フルコト得セシメント欲スル者アラシヤ  
 假令ヒ其財產ヲ次男ニ與ヘサルモ亦之ニ其養料俸給若クハ遺物代  
 金ヲ分與スルコト有ラン故ニ予ハ謂ヘラク若シ遺囑相續人ナシテ是ノ  
 如キ負債ヲ擔任ヒシメハ其身家ハ之ヲ羨望センヨリハ寧ロ之ヲ哀憫  
 ス可シ蓋シ負債アル農夫ハ農夫中最下ノ者タリ假令負債ナキモ土地  
 耕作ノ資本ヲ有セサル農夫ハ已ニ其耕作ヲ爲ス可キ位地ヲ失ヘリト  
 謂フ可シ況ンヤ負債ニ陥リタル者ハ決シテ救フ可カラサル身家ニシ



テ其繼續久シキヲ保ツ能ハサルニ於テチヤ是ヲ以テ茲ニ又二難說ノ  
 避ク可カラサル者アリ若シ長男ヲシテ獨リ父母ノ贈遺ヲ專領シ之ヲ  
 其一家内ノ別人ニ分與スルコト無カラシメハ是レ即チ不義ノ大ナル者  
 ニシテ經濟上ノ良說ト雖モ亦之ヲ救フコト能ハサラン若シ又其長男ヲ  
 シテ其兄弟及ヒ姉妹ニ養料俸給若クハ遺物代金ヲ分與ス可キ義務ヲ  
 有セシメハ全ク其目的ヲ失フニ至ラン何トナレハ此長男ノ貧困ナル  
 ヤ大農業ヲ始ムルニ當リ畜ニ其資本ヲ有セサルノミナラス毎年其利  
 子ヲ償却スルニ汲々トシテ遂ニ全ク其財産ヲ滅尽スルニ至ル可キヲ  
 以テナリ

フレデリック、パッシー氏ハ贈遺ノ自由ヲ翼賛セシト雖モ大農ノ成立  
 ハ同氏ノ欲セサル所ナリ且ツ同氏ハ父母ノ死後ニ至リ養料ノ債主  
 タル諸子ノ相續權理ヲ是認セリ之ヲ要スルニ養料負債ノ數額ハ時

宜ニ隨ヒ裁判所ヲシテ之ヲ量定セシム可キカ將テ法律上ニ於テ財  
 産分遺ノ法ヲ定メ以テ詞訟ノ原ヲ絶ツ可キカノ疑問ニ遇キスシテ  
 是レ既ニ經濟學ノ範圍ヲ出ツル者ナリ

契約破毀ノ制規ニ就テハ乃チ契約書中ニ於テ已ニ約束不履ノ條件ヲ  
 豫定シタル者ナリト看做ス可キカ故ニ其双方ノ默許ニ從ツテ其契約  
 ナ破毀スルハ素ヨリ至當ノコトナリト爲スハ即チ衆人ノ認識スル所ナ  
 リ故ニ被授人カ授與人ノ恩義ヲ遺忘シタル時ニハ其授與ノ財産ヲ奪  
 還スルハ亦タ至當ノコトナリトス唯其不義ト爲ス可キハ被授人カ授與  
 人ニ對スル忘恩ノ結果ヨリシテ其再授セシ他人ニ派及スルノ損害ナ  
 リ然レモ法律上ニ於テハ被授人カ更ニ他人ニ授與シタル權理ヲ尊重  
 シテ其授與カ契約破毀ノ裁判ヲ宣告シタル後ニ在ルニ非サレハ忘恩  
 ノ爲メニ破約ノ結果ヲ生出セシムルコトナシ蓋シ此ノ契約破毀ノ裁判

ハ決シテ既往ニ及ホスヲナキヲ以テナリ  
然リ而シテ嬰兒ノ出生ニ關シテハ契約破毀ノ裁判ヲシテ既往ニ及ホ  
サシムルヲ得ル是ヲ以テ屢他人ノ自ラ確信シタル期望ヲ失ハシム  
ルヲアリフレデリック、ハッシー氏ハ謂ヘラク嬰兒出生ノ爲メニ授與ノ  
財産ヲ奪還スルハ豫メ授與ノ契約書中ニ約定スルヲ以テ即チ其義務  
ヲ施行セシムルノ原則ニ適合ス若シ此ノ如ク約束ヲ預定セハ復タ誰  
カ不服ヲ訴フル者アラシヤト是レ實ニ至當ノ見解ナリ然レモ未ダ以  
テ一大緊要ノ事件トハ爲スニ足ラス

業作

業作ノ直接或ハ間接ニ於テ物品ノ産出ヲ助成スル者ハ即チ經濟上ノ  
業作ニシテ之ニ心術上ノ業作ト器械上ノ業作トノ別アリ而シテ其業  
作人中甲者ハ大ニ工業ヲシテ隆盛ナラシムル所ノ發明ヲ爲セモ自ラ

得ル所ノ報酬或ハ其發明ヲ償フニ足ラサル者アラシ又乙者ノ動作ハ  
工事ヲ指揮シ唯其命令ヲ與フルノミニシテ丙者ハ又乙者ノ學術上ノ  
教示ニ従フテ與フル所ノ命令ヲ承遵シ其手足ヲ勞シテ之ヲ施行スル  
者有ラシ例ヘハ里昂ノ如キ工業繁盛ノ都邑ニ於テハ職工ハ宛モ其体  
カ如シアラシ中央ヲ束縛セラレ唯其手足ヲ以テ其職業機械ヲ運轉スル  
氏ノ議院答議參考故ニ發明指揮及ヒ施行ノ三語ハ人間業作上正當ノ  
順次ナリ

又直接ニ物品ノ産出ニ管預スルヲナシト雖モ亦タ之ニ強大ノ扶助ヲ  
爲ス者ト看做ス可キ業作人有リ是レ即チ政務ニ參與スル人ニシテ若  
シ斯人無クシハ國家ノ靜謐人民ノ安寧ヲ保ツコト能ハサラン抑モ業作  
ノ奮勵ハ大ニ業作人ノ享有ス可キ安寧ニ關シ且ツ其産出セル實業著  
藏ノ保固ニ關スルヤ固ヨリナリ然リ而シテ物品産出ノ進捗ニ大害ヲ  
爲ス者ハ未ダ騒亂轉覆ニ由テ國家ノ動搖スルヨリ甚シキハ有ラサル

ナリ凡ソ暗愚ナル政府ハ日ニ百萬金ヲ耗失シテ足ラス是レ賢明政府ノ爲メコハ巨大ノ費用モ亦顧ミサル所以ナリ夫レ良政府ヲ設立スル爲メコハ必スシモ費用ノ巨額ヲ要スルニ非スト雖モ專ラ施政上ノ費用ヲ節スルカ爲メニ國家ノ靜謐ヲ壞亂シ遂ニ監視保護ノ備ハラサル如キコト有ラシメハ其節儉ハ賤惡ス可キコトニシテ世人ノ所謂低價反テ高價ト爲ルトハ即チ此謂ニ非スヤ

業作報酬ノ方法ハ大ニ物品產出ノ量ニ影響ヲ生スル者タリ故ニ若シ職工ヲシテ其業作ニ應ジテ工料ヲ得セシムレハ其職工ハ少シモ休憩スルコトナク唯其憂慮スル所ハ非常ノ盡力ニ由テ其健康ヲ害スルノミニ過キス之ニ反シテ日給ヲ得テ業作ヲ爲ス所ノ職工ハ物品產出ノ量ニ付テハ僅ニ其心ヲ勞シ其力ヲ用フル怠惰ニシテ唯ク其給料領取ノ期ニ達スル時間ヲ算センノミ業作ニ應ジテ工料ヲ得ル所ノ職工ハ否

ラス日ノ既ニ没セントスルニ駭キ方ニ昏瞑ニ迫レハ偏ニ日晷ノ長カヲサレテ憾ミンノミ然リ而シテ日給ヲ得テ業作ヲ爲ス職工ト雖モ亦ク自己ノ利益ノ爲メニ勉メテ充全ノ働作ヲ爲サルヲ得サルモノアリ何トナレハ則チ彼レモ亦其雇主ノ己レノ勤務ヲ喜ヒスレテ己レチ使用セサル如キコト有ラハ其生計ノ本源涸渴スル者有ラントチ憂慮スルヲ以テナリ然レモ奴隸ニ至リテハ決シテ此憂慮ヲ抱クコトナシ是レ他ナシ奴隸ハ賣買ス可キ者ニシテ自ラ一種ノ價值ヲ有スルカ故ニ其主人ハ貴重ノ資本ヲ保有スル爲メハ必ス之ヲ蕃養セサルコトヲ得ス是ヲ以テ奴隸ハ其養料ノ缺乏ヲ恐ル、コトナク且ツ其主人タル者ハ唯ク其身体ヲ懲責スルニ非サレハ別ニ之ニ處スル方法ナキヲ以テナリ今事實ニ就テ之ヲ觀ルニ奴隸ノ業作ハ自由ノ業作ニ若カス又統計表ニ就キテ之ヲ觀ルモ夫ノ奴隸制度ノ防護者カ構想セシ論說ノ邪曲ナル

夫考証スルニ足レリ蓋此ノ人道ノ違犯ニ黨與シタル者ハ固ヨリ人  
 心ノ廉耻ヲ失フ者タレハナリ  
 業作ニ應ジテ工料ヲ得ル者ト日給ヲ得テ業作ヲ爲ス者ト奴隸使役ト  
 ノ業作ヲ比較セント欲セハ則チ英吉利佛朗西及ヒ魯細亞ヲ比較シテ  
 以テ之ヲ明瞭ニスルコトヲ得可シ英吉利ニ於テハ其職工ノ工料ハ全國  
 殆ト皆其業作ニ準シテ之ヲ給ス是ヲ以テ英國ノ工業ハ隣國ニ比類ナ  
 キ隆盛ノ極度ニ達シ其職工ハ常ニ働作ヲ怠ラスシテ其生計ヲ開進ス  
 故ニ其生計ヲ以テ機關車ノ運轉止マサルニ譬フルハ眞ニ切實ナリト  
 謂フ可シ佛朗西ニ於テハ工業上ノ動作及ヒ其隆盛中等ノ地位ニ在リ  
 蓋シ佛國職工ノ工料ハ稀ニハ業作ニ應ジテ之ヲ給スルコト有リト雖モ  
 多クハ日當ヲ以テス魯細亞ニ於テハ其工業殆ト全ク無キカ如ク農業  
 ノ進歩モ亦タ未ダ企望ス可カラズ且ツ魯國ニ於テハ時間ヲ貴フコト鮮

ク其臣民ハ徒ニ光陰ヲ費シテ復タ時日ヲ算スルコトナク猶ホ彼ノ黒奴  
 カ己レノ經過セシ年數ヲ知ラスシテ空ク死亡ニ歸スルカ如シ  
 業作ノ報酬ニ付キ最モ完全ナル方法ニシテ現今ハ未ダ行フ可カラズ  
 ト雖モ將來必ス行ハル可キ者ハ日々給與スル所ノ定給ト利益ノ分配  
 トヲ斟酌シテ之ヲ施スニ在リ是レ即チ商家ニ於テ智巧ノ職工ニ報酬  
 スル爲メニ現ニ施行スル所ノ方法ニシテ將來ニ至リテハ各種ノ職工  
 ノ爲メニ當ニ行フヘキ者ナリ而シテ此方法タルヤ自ラ漸次ニ行ハル  
 可キ者ニシテ之ヲ充全ナラシムルニハ必スシモ法律ノ媒介ヲ要スルコ  
 トナク今日仰給職工ノ分限ハ後來將ニ結社職工ノ分限ニ變スルコト有ラ  
 ン蓋シ此後者ノ分限ハ最モ超絶シタル者ニシテ之ヲ前者ノ分限ニ比  
 スレハ其差別アルコト猶ホ自由奴僕ノ家人奴僕ト異ニシテ又家人奴僕  
 ノ終身奴隸ト異ナルカ如シ



ナリ若シ人類カ是ノ如キ義務ノ規約ニ檢束セラレテ而シテ開化ニ進  
 ム可キ者ナリトモハ其進捗セルニ隨テ必須ノ要件ヲ生シ各ノ新規ノ業  
 作ヲ作サスノハアル可カラサルヲ以テ其進捗ハ總テ彼等ノ患害ト爲  
 ルニ至ル可シ  
 凡ソ人カ其生命ヲ思考若クハ述作ニ委スルヲ得ル所以ハ他人ノ之  
 カ爲メニ飲食及ヒ衣服ヲ産出スル事業ニ任スル者アルコト因ル是レ即  
 チ心術上ノ業作人ト器械上ノ業作人ト異ナル所ニシテ之ヲ業作ノ大  
 別ト爲ス然リ而シテ此大別中更ニ小別アリ此業作ノ小別ハ社會交際  
 ノ愈繁延スルニ從テ益増殖シ其増殖スル故ヲ以テ社會上ノ物品ノ産  
 出隨テ盛大ナルニ至ル例ハ麵包製造ノ増殖ハ思議ス可カラスシテ  
 實ニ愕然駭ク可ク特ニ帽針製作ニ付テ某氏カ云ハル所ハ殆ソト信ス  
 可ガテサル者アルカ如シ

此例ハアダム、スミッタ氏ノ引証セル所ニシテ即チ十名ノ職工ニシテ  
 十八種ノ事業ヲ爲シ毎日四万八千本ノ帽針ヲ製シ一人ノ製スル所  
 各四千八百本ニ至ル若シ彼ノ職工ノ各人ヲシテ針線ヲ延ハシ若ク  
 ハ之ヲ截テ若クハ針芒ヲ鋭クシ若クハ針頭ヲ製シ終ニ總般ノ事業  
 ヲ成サハルヲ得サラシメハ其職工一人ノ製スル所一日ニシテ僅  
 ニ二十本ノ帽針ヲ製スルニ過キサル可シ又ジャン、バチス、セ、氏ハ骨  
 牌ノ製造ニ付テ之ト類似セル成果ヲ引証セリ即チ三十名ノ職工各  
 其業作ヲ別ナテ一日ニ一萬五千五百葉ノ骨牌ヲ製スルヲ得テ一  
 人ノ製スル所大約五百葉餘ニ當リ若シ一人ノ職工ヲシテ自ラ悉  
 シ七十種ノ事業ヲ漸次ニ爲サシメハ精巧ノ職工ト雖モ一日ニシテ  
 製スル所二葉ニ至ラサル可シ  
 抑モ分業ノ物品産出ヲ増成スル所以ハ他ナシ第一ニハ常ニ同事業ニ

從事スル職工ハ其習慣ニ由テ大ニ一種ノ精巧ヲ得其實際ノ精巧ニ由  
 テ時ニ新方法ヲ發明シ若クハ其動作ヲ助成スル所ノ機械ヲ發明スル  
 一有リ乃チ夫ノウエトルウイニスアルクライトハルグロウス及シロ  
 ムトノハ何人ソヤ唯ダ一箇ノ綿布製造所ノ職工タリシモ非スヤ又  
 他ノ一方ニ其之ヲ云ヘハ常ニ同事業ニ從事スル職工ハ此事業ニ彼  
 ノ事業ニ轉移スル時間ノ光陰ヲ費スコトナシヨリハ其ノ職工  
 農業ニ於テハ各人其所有セル土地ノ性質ニ從テ物品ヲ產出ス是ヲ以  
 テ土質ニ適シタル物品ハ其量多クシテ其品佳ナリト雖也之ニ各種ノ  
 耕植ヲ施スニ至リテハ通例中等ノ物品ヲ生シ其量モ亦寡少ナリ例  
 ハシロンドト其海岸ノ間ニ廣延セル一帯地ハノド、クノ名ニ由テ世人  
 悉ク其沃土タルヲ知レリ然レモ若ク其地ノ各地主ヲ麥及七蜀  
 黍其他消費ス可キ蔬菜及ヒ家釀ニ供スル葡萄等ヲ悉ク其地ニ產出

セヨトチ欲セシメハ樂歲ト雖モ其產出スル所例年所產ノ百分一ニ過  
 キサルハシ其他業作ノ區別ハ人民社會上避ク可カラサル結果ニシテ  
 啗ニ之ヲ以テ有益ト爲スノミナラス又ク緊要缺ク可カラサル者タリ  
 何トナレハ若シ此業作ノ區別ナクハ社會上ニ生出セル各人ハ皆其  
 要用ヲ充タヌ爲シ其力ノ足ラサルヲモ感覺ス可キヲ以テナリ  
 一工業中ノ各部ニ行フ所ノ業作ノ區別ハ其一國ニ達シ又ク一國ヨリ  
 シテ他ノ一國ニ達ス而シテ各國ノ人民ハ各其地ノ氣候ノ自然ニ從テ  
 耕作ヲ爲シ總テ各國ニ產出シタル物品ハ各國交際上ノ商法ニ由テ互  
 ニ之ヲ貿易スルニ由リテ其利益ノ大ニ倍スルニ至ル  
 當今經濟法則ノ進歩セルニ由テ最小ノ都民ト雖モ其卓子上ニ支那ノ  
 茶、フー、ルボ、ン、島、ノ、加、非、レ、ザ、ン、チ、ル、ノ、砂、糖、葡、萄、牙、ノ、蜜、柑、和、蘭、ノ、乾、酪、西  
班、牙、ノ、葡、萄、英、吉、利、若、ッ、ハ、バ、ウ、イ、エ、ル、ノ、麥、酒、亞、弗、利、加、ノ、波、斯、棗、チ、陳、列

スルニ至ル然レモウイシル氏ノ農歌中ニ描出セル古昔ガレノズ  
 人ノ質素ノ狀況ニ於テ是ノ如キ種々ノ物品ヲ陳列セシヨハ未ダ嘗テ  
 聞カサル所ナリ農歌アリ之ヲ畧ス  
 予ハ茲ニ現時ガレノズ海岸ノ園夫ガ都民ト均シク幸福ナルト否ラザ  
 ルトヲ論スルヲ欲セズ予ハ又タ茲ニ性理ヲ説キ詩歌ヲ談スルニ非ス  
 今予カ論スル所ハ專ラ需用物ノ點ニ在リ何シ一家經濟上ノ貧富ヲ比  
 較スルヲ要セシヤ  
 農業上ノ區別ニ付テハ予ハ未ダ之ヲ駁スル者アルヲ聞カス然レモ工  
 作上業作ノ區別ニ至リテハ之ヲ駁撃スル者鮮カラス其説ニ曰ク業作  
 ノ區別ヲ推極シテ其度ヲ過クシハ人ヲ以テ一箇ノ器械ト爲シ或ハ一  
 箇ノ車輪ト爲スニ至ラン例ヘハ一生涯針頭ノ製作ヲ以テ業ト爲セル  
 職工ノ如キハ其知識上ニ如何ナル景狀ヲ生ス可キヤ又産出ノ多寡ニ

就テ之ヲ觀ルモ業作ノ區別ヲ推極スルニ至リテハ其便益ハ僅ニ以テ  
 其不適當ヲ償フニ足ランノヨ且ツ始終同一ノ事業ニ任スル者ハ働作  
 ノ變換ナク從テ業作ノ新鮮ヲ失ヒ其才力磨滅シ其勇氣衰耗シテ其事  
 業精巧ノ幾分ヲ耗失シ遂ニハ業作ノ區別ニ由テ婦女及ヒ兒童ヲモ使  
 役スルヲ得セシメ縫針製作場ニ於テハ兒童ヲシテ針頭ヲ穿タシ之  
 カ爲ニ婦女ハ其家事ヲ齊フルヲ得ス兒童ハ其教育ヲ受クルヲ得サ  
 ラシムルノ大害ヲ生ス可シ然レハ則チ此業作ノ區別カ貧困人ニ關ス  
 ルヤ各人ノ爲ニハ最大ノ安慰ト爲ル可クシテ公同平和ノ爲ニハ最良  
 ノ保証ナル可キ一家ノ生命ヲ撲滅スルニ至ル可シト  
 此辨論中實理ノ見解ナキニ非ス然レモ其言ノ過大ナルヲ以テ反テ其  
 實理ヲ掩没スル者アリ彼ノ説ニ從ヘハ職工ハ其業作ノ同一ナルガ爲  
 ニ其知識ヲ衰耗スト爲セリ然レモ若シ職工ヲシテ帽針ノ一部分ヲ製



シ以テ其一生ヲ過了セシムルコトナク彼ヲシテ帽針ノ全体ヲ製シ以テ其生ヲ過サシメハ其知識上ノ景狀ハ大ニ満足ス可シト謂ヘルカ其全体ヲ製スルモ殆ト同一無異ノ業作ノミ之ヲ爲スモ其得ル所ノ結果ハ到底甚ク細小ナルニ過キサレハ安ソ以テ其満足ト爲スニ足ランヤ又タ彼レノ説ニ曰ク同一ノ業作ヲ爲ス職工ハ業作ノ新鮮ヲ亡失スト然レモ假令ヒ此ノ業作ノ新鮮ハ如何ナル貴重ノ者タリトモ何ソ之ヲ以テ業作ノ區別ニ由テ事業ノ精巧ヲ進捗シ且ツ轉業ノ時間ヲ費サ、ル効績ヲ償フコト得ンヤ又タ婦女及ヒ兒童ヲ使役スルニ付テハ頗ル不適當ノ事アリト雖モ豈ニ亦タ側ニ利益スル所ナカランヤ試ニ之ヲ家父ノ大ニ其力ヲ盡スモ其子ヲ養フ可キ方法ナキ者ニ問ヘ若シ其子ノ日給ヲ得タルトキハ之ヲ以テ不幸ノ恩賜ト爲スヤ否ヤ之ヲ要スルニ業作ノ區別ハ社會上已ムヲ得サル所ノ結果ニシテ且ツ開化ノ進捗

ヲ爲ス所ノ結果ナリ故ニ業作ノ區別ハ開化ノ度ニ從テ益々増殖スル者ニシテ之ヲ以テ職工ノ知識ヲ衰耗スト爲セル駁説モ亦猶ホ業作ノ新鮮ヲ亡失スト爲セル駁説ノ如ク共ニ妄想ニ屬スルヲ免レヌ業作ノ一大區別ヲ生スル原由中ニハ先ツ市會ノ廣大ナルヲ以テ其第一因ト爲スヲ要ス故ニ消費人ノ寡少ナル地方ニ於テハ職工ハ力メテ其工業ヲ以テ消費人ノ衆者ヲ網羅スル爲ニ種々ノ職業ヲ營爲ス例ヘハ阪餅ノ地ニ於テハ一人ノ身ニシテ或ハ小匠ノ業ヲ爲シ或ハ玻璃工ノ業ヲ爲シ或ハ建築圖工ノ業ヲ爲シ或ハ家具裝飾ノ業ヲ爲スカ如シ然レモ巴里府及ヒ其他ノ大都邑ニ於テハ消費人ノ衆多ナルヲ以テ職工ノ多キモ亦タ之ヲ養フニ足ルガ故ニ職工各々其業ヲ異ニセリ且ツ工業ノ性質ハ業作ノ區別ニ關スル者ニシテ又タ其區別ハ其業作ノ重要ナルニ從テ愈々増殖スル者タリ故ニ農業ニ於テハ自然物カ大ニ

物品ノ產出ヲ助成スルコ由リ人カノ業作ハ唯タ其播種ノ期及ヒ收穫ノ時ニ非サレハ以テ媒介ヲ爲スヲナシ是ヲ以テ職工即チ農夫ハ其播種期ト收穫時トノ中間ニ於テ其事業ヲ爲ス爲ニハ種々ノ業作ヲ爲シ得可キ伎倆ヲ有セスンハアル可カラス之ニ反シテ製作工業ニ於テハ其業作始終同一ナルヲ以テ工夫ノ各自ニ其事業ヲ異ニスルハ最モ便益ノ手段ニシテ又タ人ノ常住行ヒ難キ所ニアラサルナリ

工業ノ業作ニ於テ其區別ヲ爲スカ如ク亦之ヲ高尙ノ巧藝上ニ用ユ可シ乃チ村落間ノ醫師ハ諸般ノ疾ヲ療シ内科外科ノ術ヲ相兼スル者アリト雖ヒ大都邑特ニ巴里府ニ於テハ各科ノ醫アリテ内科ト外科ト相兼スル者ハ幾希ナルカ如ク又代言人ノ如キハ總般ノ事件ニ付テ代辨ズ可キ者ナリト雖モ其巴里府ノ代言局ニ來レハ則チ直ニ各科ヲ分ナテ之ヲ管理シ或ハ特ニ公益ノ爲メナル不動産ノ徵收ニ關シテ專擔

スル代言人アリ或ハ特ニ價造ノ事件ノミニニ關シテ著名ナル代言人アルカ如キ是ナリ

## 資本

凡ソ機械器具ノ補助ヲ假ラスシテ爲ス所ノ業作ハ甚タ僅少ナリ故ニ市會ノ擴張スルニ從ヒ益物品ヲ產出スル爲ニハ人手ヲ増加ス可キ機械器具ノ補助ヲ必要トシ又器械ヲ使用スルニハ均ク職工ヲ必要トス而シテ新ニ器械ヲ使用スルニ當リ一時ノ困難ヲ經過シ既ニ其使用ニ習熟シタル後ニ至リテハ人力ヲ減少セスシテ却テ益、人力ヲ要スルハ人ノ宜ク注意スヘキ所ナリ凡ソ此ノ器械ト職工トハ資本ノ補助ヲ得ルニ非サレハ之ヲ使用スルニ能ハス其所謂資本トハ復産ノ目的ヲ以テ節用貯蓄シタル一切ノ產出物ヲ云フ假令ヒ其資本ノ極メテ瑣小ナルモ業作中一ノ資本ヲ要セサル者ハ未ダ嘗テ之レアラサルナリ例

へハ野蠻人ノ田獵ヲ以テ業ト爲ス者ノ如キモ一張弓ト數管ノ矢ヲ有  
 セサルハナシ此弓矢ハ即チ彼レノ資本ナリ此資本ハ實ニ極メテ瑣小  
 タリト雖也然レ此之ヲ要スルニ彼カ資本ニ非スシテ何ソヤ  
 資本ニ二種アリ一チ不動資本ト云ヒ一チ流動資本ト云フ不動資本ハ  
 多少永久ノ用途ヲ以テ豫メ辨入シタル金額ニ存スル者ニシテ毎年新  
 ニ更換スルヲ要スルコトナシ今不動資本ノ例證ヲ舉ケンニ農業ニ就テ  
 之ヲ云へハ貸用ニ供スル畜獸ノ買入、地質ノ改良、収納小屋建築ノ類ノ  
 如ク製作工業ニ就テ之ヲ云へハ製造所ノ建築、新器械ノ購求、吾ト競争  
 スヘキ製造所買収ノ類ノ如ク又タ商業ニ就テ之ヲ云へハ店棟ノ買収  
 支店設立ノ如キ即チ是ナリ之ニ反シテ流動資本ハ毎年新ニ更換ス可  
 キ者ニシテ其供用ハ之ヲ以テ物品ヲ産出スル爲ニ全ク消費スル所ノ  
 モノトス而シテ不動資本ハ物品産出ノ經久年間ニ於テ漸次ニ分消耗

失シテ其終極ニ至ラサレハ復タ滅盡スルコトナシ今流動資本ヲ例證セ  
 ンニ農工商ニ就テ之ヲ云へハ職工ノ工料及ヒ原品ノ購求ハ即チ其一  
 部ニ屬スル者タリ

凡テ工業ハ之ニ使用スル資本ノ多寡ニ由テ其大小ヲ辨識ス可シ何ト  
 ナレハ工業上ノ資本寡少ナレハ其工業益、孤立衰頹ノ勢ニ瀕ス可キヲ  
 以テナリ即チ佛國ノ農業ノ如キハ實ニ一箇ノ顯著ナル明証ト爲スニ  
 足レリ抑、佛國內ノ土地ハ農業ニ關シテ之ヲ五部分ニ區別ス西北部東  
 北部、中央部、西南部、東南部、是レナリ而シテ其西北ノ部分特ニノルマン  
 ザービカルザーノ地方ハ善ク耕作スヘキ土地ニシテ其耕作上ノ資本  
 一「エクタール」毎ニ四百「フラン」ヨリ五百「フラン」ニ至リ中央ニ在リテハ  
 其農業地ノ大半ハ其耕作上ノ資本低下シテ一「エクタール」ニ付キ五十  
 「フラン」ニ至ル是ヲ以テ其産出物ニ付テモ亦同ク差別アリテ西北部ノ

產出物ノ總價ハ十六億「フラン」ニ至ルト雖モ中央部ノ產出物ノ總價ハ五億「フラン」ヲ超ユルコトナシ

レオンス、ド、ラウエルニ氏ノ著セシ千七百八十九年來ノ農業經濟論ニ

曰ク此ノ差異ヲ度量スル爲ニハ北部州内ノ一郡トランド州ノ内ノ一郡即チ中央トノ兩極點ヲ比較スルニ如クハナシ甲地ハ「エクタ

ール」ニ付キ平均一萬「フラン」ノ價值ヲ有スト雖モ乙地ハ「エクタール」ニ付キ平均僅ニ五十「フラン」ニ過キス此不平均ハ豈ニ唯タ土地ノ性質ノミニ關スル者ナランヤ

予カ既ニ解説シタル三元素即チ自然物、業作、及ビ資本ハ同時一齊ニ經濟上ノ需用物ヲ產出スル作用ヲ爲ス者ナリ例ヘハ人ノ器械ヲ有セスシテ業作ヲ爲ス時ト雖モ亦タ資本ヲ有セサルニ非ス是レ他ナシ其教育上雜費ヲ要シタルカ故ニ其人自ラ其資本タレハナリ夫レ人々カ固

有セル自然ノ力量ノ如キハ業作ヲ加フルニ非サレバ決シテ經濟上ノ需用物ヲ生ズルコト能ハズ故ニ人々自然ノ力量ハ唯タ土地百物ヲ占領スルノ業作タルニ過キサルナリ是ヲ以テ此ノ三元素ハ共ニ緊要缺ク可カラサル者ナリト雖モ工業ノ性質、地位、及ビ時代ノ差異アルニ從テ各互ニ重要ナル地位ヲ占ルナリ農業ニ於テ之ヲ云ヘハ茲ニ予カ謂フ所ノ農業ハ普通ノ農業ニシテ日々進歩セル工事農業アグリキユルチユール、アンデロストノ謂ニ非ス其第一ノ主役ハ即チ自然物ニシテ商業ニ於テハ即チ資本ナリ且ツ同一ノ工業ト雖モ其地方ノ異ナルニ由リテ此ノ主役ノ結合ニ亦タ異同ヲ生ズルコト有リ故ニ西北部ニ於テハ漸クニ資本カ自然物ニ抗シテ第一位ヲ占ムルノ勢アリト雖モ中央部及ヒ西南部ニ於テハ自然物カ仍ホ久ク第一位ヲ占ムルコト有ラン又チ經濟上ノ歴史ニ三大期ノ區別アリ其第一期ニ於テハ森林、泉水、及

ヒ草野ハ疎住散居セル人民ノ飲食ニ供ス古來ノ傳說ニ從ヘハ此時代  
 ナ稱シテ黃金時代ト云ヘリ第二期即チ中世人民ノ經歷セシ時代ニ於  
 テハ第二ノ主役即チ業作カ益隆盛ニ趨キテ一種重要ノ位地ヲ占シ都  
 邑ノ創立及ヒ「パナリテ」中世時代ノ領地主ノ有セル專ノ權理並ニ同  
 權即チ權沽法ノ如キ者ヲ云フ業結社ノ廣張進歩ヲ助成シ以テ其業作ヲ轉化シテ資本ヲ貯積スルニ  
 至レリ第三期ニ於テハ資本第一等ノ地歩ヲ占メ其資本ノ故チ以テ土  
 地ノ價格亦大ニ騰揚シ工業上ノ器械愈備リテ遂ニ人力ノ業作ヲ廢棄  
 スルニ至リ國民ノ富有日ニ益増殖セリ然レモ中等ナル身家確固ノ農  
 工ハ反テ減却シ一方ニハ貧困窮迫人ヲ視テ一方ニハ餘裕ノ富豪者ヲ  
 生スルニ至レリ  
 此最後ノ時代即チ第三期ハ彼ノ共有黨カ之ヲ稱シテ工業封建制度  
 ト云ヘリ抑コシボラシオン同業結社ナル者ハ中世封建時代ノ紊亂ニ際シ諸般ノ業

作ヲ防護センカ爲メニ創設セシ所ナリ故ニ此ノ同業結社ハ今ニシ  
 テ之ヲ論スレハ甚ダ嫌惡ス可キ施設ナリト雖モ當時ニ在リテハ工  
 業ノ一進歩タリシヲ知ルニ足レリ

疑問

第一疑問

物品ノ産出ニ最モ便益ナル農業ハ大農ニ在ルカ將タ小農ニ在

ルカ

茲ニ二様ノ農業アリテ一チ大農トシ一チ小農トシ共ニ其業ニ準シテ  
 ル資本ヲ有スル者アリト假定センニ其利益ノ歸スル所多クハ大農ヲ  
 以テ優レリトス可シ蓋シ土地改良ノ事業器械ノ施用灌田ノ方法及ヒ  
 必要ナル培壅ノ分量ヲ生スル爲メニ頗ル多數ナル畜獸ノ飼料約シテ  
 之ヲ言ヘハ多量ノ復産即チ耕作者ヲシテ既ニ辨入シタル金額ノ利子  
 及ヒ其資本ノ年々ノ耗失ヲ得セシムルニ足ル

可キ多量ノテ企望スル不動資本ノ施用ニ敢耐スルモノハ獨リ大農ノ  
 産出チ云フテ企望スル不動資本ノ施用ニ敢耐スルモノハ獨リ大農ノ  
 ルノミ彼ノ小農ノ如キハ其所有スル狭少ノ地例ヘハ「エリター」ノ  
 地ニ於テ耕鋤培壅ノ用ニ供スル畜獸ノ飼料ト常用ノ麥トヲ併セテ産  
 出スルヲ得可ケンヤ又零碎ノ小地ヲ有セル農夫ニ於テハ多ク道路  
 ニ収拾シタル培壅ニ非サレハ復タ之ヲ其地ニ撒布スルヲ得サル者  
 アリ其他設令ヒ一匹ノ馬ヲ有スルモ唯之ヲ坡堤上ノ草場ニ秣飼スル  
 ノミニシテ別ニ牧場ヲ有セサル者アリ此ノ如キ小農ノ地位ニ生  
 出スル所ノ不便ハ即チ彼ノ小佃夫カ非常ノ勞力ヲ其小作ノ一小地部ニ  
 竭盡スル艱難ト相衡均スル者タリ  
 彼ノ小農ヲ以テ大農ニ優レリト爲ス者ノ如キハ特ニ富饒ノ小農ト資  
 本ナキ大農トノ比較ニ關係セルノミ又許多ノ地方ニ於テハ収穫分配  
 ノ佃夫カ其耕作ヲ善クセサレシ所ノ土地ヲ區分シテ之ヲ改良セタル

ニ因リ狭少ノ小地ニ善良ノ結果ヲ生セシコト有リ此ノ如キハ収穫ノ分  
 配小作法ノ一般ニ流行セル西南部及ヒ中央部ニ於テ屢見ル所ニシテ  
 此ノ地方ニ於テハ小農業カ反テ大農業ニ望ム可カラサル所ノ収穫ヲ  
 爲セシコト有リ何トナレハ大農業ハ巨大ノ資本ヲ要スル者ニシテ収穫  
 分配小作法ノ一般ニ流行セル地方ニ於テハ大抵其資本ニ乏シキヲ以  
 テナリ然リ而シテ此ノ土地ノ小區分ハ今日ニ至ルマテハ此地方諸州  
 ノ幸福タリシト雖モ後年ニ至リテハ農業進歩ノ障礙ト爲ルニ至ル可  
 シ是レ他ナシ耕作ノ資本方ニ生スル時ニ至リテモ亦タ其資本ヲ以テ  
 勝ツコト能ハサル妨害ヲ見ル可キヲ以テナリ抑此ノ分割發賣シタル土  
 地ノ小區分ハ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ會東シテ一佃夫ニ屬セシムル  
 コトヲ得可キヤ大農小農互ニ並立セル北州ノ實驗ニ據レハ之ヲ一同ニ  
 會東スル亦タ甚ク行ヒ難キニ非スト雖モ是レ豈ニ資本ノ活動ヲ妨ケ

ルゾ一大障碍ト謂ハサルヲ得ンヤ  
 然レ此疑問ニ付テハ確然一定ノ答辨ヲ爲スコト能ハサルモノアリ是  
 レ亦タ宜ク諒察スヘキ所ナリ例ヘハ蔬菜ノ耕植ハ常ニ人力ノ媒介ヲ  
 要スルカ故ニ小分地ニ非サレハ以テ利益ヲ得ルコト能ハス是ヲ以テ佛  
 國中巴里府近傍ノ如ク巴里近傍ニ於テハ專土地ヲ小分細割セル者ハ  
 アラサルナリ之ニ反シテ英國ニ於テ大農業ノ甚ク進歩スル所以ハ專  
 ラ耕作上ノ產出物ノ性質ニ關スルナリ例ヘハ穀物牛及ヒ羊ノ如キハ  
 不斷人力ノ媒介ヲ要スル者ニ非ス何トナレハ穀物ハ其播種ヨリ收穫  
 ニ至ル間ハ自ラ育成シテ復タ人力ヲ要スルコトナク牛及ヒ羊ノ如キハ  
 聊カ監護ヲ要スルアリト雖モ徒ニ僅々タル雜費ニ過キサルヲ以テナ  
 リ  
イボリット、バツシ、氏ノ計算ニ從ヘハ氣候ノ相均シキ土地ニ於テハ大

其農ノ收穫ハ平均一「エクタール」ニ十三「フラン」トシ中農ハ其平均八十  
 一「フラン」トシ小農ハ九十七「フラン」トス且ツ謂ヘラク此差異ハ全ク  
 人力ニ由リテ生スル者ナリト然レモ予ヲ以テ之ヲ考フルニ此ノ差  
 異ハ特ニ資本ノ多寡ニ關ス故ニ善ク其原因ヲ了知シテ之ヲ辨説セ  
 ント欲セハ先ツ其大農ハ小農カ施用シタル資本ニ比準シテ同一資  
 本ヲ施用シタルヤ否ヤヲ討尋セズンハアル可カラス  
 又此疑問ハ耕作地ノ性質ニ關スル者ナリ例ヘハ砂地ノ如キハ之ニ加  
 フルニ其浮鬆ヲ變シテ重固ニ爲ス所ノ物質ヲ以テス可キカ故ニ先ツ  
 其界限ヲ畫定セズンハアル可カラス之ニ反シテ粘土ノ如キハ最モ大  
 農ノ耕植ニ便益ナルノ類ノ如シ

第二疑問

收穫分配小作法ヲ以テ物品ノ產出ニ便ナリト爲スヤ

學理上ヨリ之ヲ觀レハ耕業ノ良則ニ背反スル者ハ未ダ此收穫分配法  
 ヨリ甚シキ者ハアラサルナリ蓋シ此ノ收穫分配ノ佃夫ハ地主ニ隸屬  
 セル者ニ非サルヲ以テ其地主カ假令ヒ善ク注意ヲ爲スト雖モ以テ此  
 小作習慣ノ惡弊ニ勝ツト能ハス又他ノ一方ヨリ之ヲ言ヘハ此佃夫ハ  
 甚ダ貧困ナル故ヲ以テ一モ其土地ニ培養ヲ施スト能ハス加之許多ノ  
 地方ニ於テ此佃夫ハ地主ノ畜獸ヲ借用スルノ慣例ナクシテ僅ニ一二  
 ノ耕業器具ヲ有スルニ過キス是ヲ以テ此小作法ノ流行セル地方ニ於  
 テハ古ヨリ未ダ耕業ノ進歩セル者アラサルナリチニルゴト氏云ヘルト  
 有リ曰ク收穫分配ノ佃夫ハ勉メテ其耕植ノ勞働少クシテ多量ノ食料  
 ナ得可キ植物即チ燕麥特ニ粟是レ粟ハ唯之ヲ収拾スルノ勞アルノミ  
 ハナチ樹藝ス且ツ此ノ佃夫ハ其食料ニ付テ憂慮ヲ抱クト少ナシ是レ  
 其收穫荒凶ノ時ハ地主ノ己レヲ養ハズンハアル可カラサルヲ知レ



レ即チ政府人々ノ所有物ヲ侵掠スルナリ安ツ之ニ抗拒シテ力爭セサルコトヲ得ンヤ夫レ消費人ノ自ラ要用ト爲ス所ノ產出物ヲ善ク辨識スルコトハ孰カ其消費人ニ優ル者アラシク然ルニ若シ法律規則ヲ以テ百工ノ製作上ニ實際施行ス可ラサル方向ヲ規定スルコト有ラハ是レ啻ニ消費人ヲシテ其望ヲ失ハシムルノミナラス又以テ產出人ノ權理ヲ褫奪スルモノナリ

千七百九十一年五月二日及ヒ十七日ノ法律前ニハ職業検査官及ヒ職業師長ヲ設立シテ以テ職業ハ大抵皆專賣ノ制度ニ服從ス可キ者ト爲セリ而シテ此制度ヲ防護スル者ハ勉メテ之ヲ庇翼シテ以爲ラフ產出物ノ精妙ナルト佛國工業ノ他國ニ超出セルトヲ確證ス可キ方法ハ此制度ニ過キタル者ナシト

職業検査官及ヒ職業師長ノ廢止ニ付キ千七百七十六年チユルゴー氏

ノ起草セシ勅命ヲ未ダ法簿ニ登録セサル前ニ「バル、マン」ノ代言人  
セギエー氏ハ其奏疏中ニ專賣制度ノ疑問ニ關スル主旨ヲ演述シタ  
リキ

然レ其論理ハ固ヨリ取ルニ足ル者ナシ何トナレハ則チ上品ノ産出  
物ト下品ノ産出物ト其價ヲ同クセハ消費人ハ固ヨリ上品ノ者ヲ撰フ  
可シト雖也公同經濟上ニ於テハ上品ノ産出物ノ少量ヲ産生シテ以テ  
其消費人ノ少數ノ利益ニ供センヨリハ下品ノ産出物ヲ多量ニ産生シ  
テ以テ衆人ノ利益ヲ爲スニ若カサレハナリ故ニ某論者カ此專賣ヲ排  
斥シテ猶ホ怠惰人ノ爲ニ勉勵者ニ課セル貢租ノ如ク看做セシハ實ニ  
至當ノコトナリトス

是レシモン、スチユアル、ミル氏カ說示シタル言ナリ又同氏ノ說ニ曰ク特  
ニ一人ヲ庇翼保護スルハ即チ之ヲシテ他人ノ如ク其業作ヲ勉勵セ

シムルコトナク且ツ其才能ヲ發達セサラシムル所ナリト

我カ佛朗西ノ變革ニ方テ告示セシ業作ノ自由ハ即チ佛國公法ノ原典  
中ノ一者ナリ而シテ現今猶ホ存立セル特別ノ制規ハ大抵皆警察上ノ  
理由ニ根據セサル者ナシ然レモ特別制規ノ純然單一ニ經濟上ノ法則  
ニ背反シタル者ノ如キハ常ニ衆人ノ駁撃ヲ蒙リ其當ニ久シキチ出ス  
シテ壞滅ニ至ルヘキヲ知ル

今チ距ルコト未ダ遠カラス一種ノ學派アリテ職業ノ競争ヲ以テ大弊害  
ヲ醸生スルノ制度ナリトシテ之ヲ排撃セシ者アリ其說ニ曰ク若シ專  
賣ハ勉勵者ヲ妨害シテ以テ怠惰人ノ利益ヲ爲ス者ナリトセハ競争モ  
亦豈富强者ノ爲ニ貧弱人ヲ壓死スルノ不適當ナカラシヤ若シ職工ヲ  
シテ貧困ナラシメハ彼レ安ソ罪ヲ競争ニ歸シ人々ヲシテ産出物ヲ低  
價ニ要求セシメ生ツ起業人ヲシテ力メテ職工ノ工料ヲ減損セシムル

者ハ競争ナリト爲スコトナカラフヤ且ツ此競争ノ過劇ナルハ以テ市會  
 上ニ人工ノ價值ヲ釀成シ人ヲシテ其對敵ニ勝テ之ヲ困却セシムル爲  
 ニ其產出物ヲ本價ヨリ減殺シテ之ヲ賣却スルニ至ル可ク既ニ其對敵  
 ナ壓伏シタル後ニハ便チ專賣ト一般ニ其價值ヲ騰揚スルニ至ル可シ  
 斯ク產出人ノ競争ニ由テ俄ニ時價ノ變動ヲ生セハ消費人ハ高價ト低  
 價トノ間ニ眩惑シ遂ニ如何ナル結果ヲ生スヘキヤ職工ノ工料ハ低價  
 ノ極度ニ陥リ職工中多クハ貧困人ヲ生シ公同ノ救恤ハ日ニ益増殖ス  
 ルニ至ルヘシ夫ノ英國ノ例證ノ若キ以テ大ニ其警鑑ト爲スコ足ル英  
 國ニ於テ競争大ニ過劇ナリシ時代ハ貧人救恤ノ徵稅年々逐テ増加シ  
 地球上最モ富驕ナル英國人ニシテ之ニ比スレハ法律上ノ救恤ヲ仰ク  
 貧困人ノ饒多ナルヲ觀ルハ豈ニ競争ノ弊害ニ非サルヲ得ンヤト  
 夫レ競争カ各人私己ノ爲メニ一二ノ弊害ヲ生スルハ實ニ經テ可カラ

サルヲタリ然レモ此疑問ニ付テハ懶惰貧弱ナル者ヲシテ憂苦ニ陥ラ  
 シムルヲ以テ優レリト爲スカ將々勉勵富強者ヲシテ大ニ其志望ヲ失  
 ハシムルヲ以テ優レリト爲スカヲ辨識スルニ在リ若シ競争主義ヲ廢  
 斥セハ則チ限制主義ヲ用ヒスンハアル可カラス此競争主義ニ代フル  
 ニ限制主義ヲ以テスルハ病患的ノ人ノ爲ニハ稍ヤ適當スルヲ得可  
 シト雖モ大ニ有爲ノ才能アル人ニ於テハ當ニ之ヲ如何スヘキヤ予カ  
 既ニ各人ノ所有ニ付テ辨論セシ所ノ諸說ハ僅ニ之ヲ潤色スレハ則チ  
 以テ此競争自由ノ解釋ト爲ス可シ是ヲ以テ知ルヘシ所有ノ原則ヲ防  
 護スル人ハ即チ競争主義ヲ防護スル人ニシテ所有ノ原則ニ抗敵スル  
 者ハ又タ競争主義ニ抗敵スル者タリシチ  
 一國中各人ノ間際ニ競争ヲ以テ良法トセハ之ヲ各國人民ノ間ニ施行  
 スルモ亦タ以テ良法ト爲ス可クシテ外國ノ產出物ト交換スル爲メニ

佛國ノ市會ヲ開クヘキハ予カ信シテ疑ハサル所ナリ是レ蓋シ各國ノ民間ノ業作ノ區別ヨリ生スル所ノ結果ナリトス若シ各國ノ人民カ其土地ノ産出ニ適當セル物品ヲ産出スルヲ以テ善シトセハ又タ外國通商ヲシテ自由ニ全地球ノ各國ニ交通スルノ媒介タルヲ得セシメスンハアル可カラス抑外國通商ノ自由ヲ駁撃スル者ハ即チ内國ノ競争ヲ駁撃スル者ナリ然ルニ佛國內ノ地主若クハ工作人ニシテ外國ノ物品ヲ拒絕シ佛蘭西一國ノ業作ノ爲メニ市會上ノ專賣ヲ占有セント欲シテ共有黨ト與ニ外國通商ノ自由ニ抗敵スルノ盟約ヲ爲スカ如キハ甚ダ駭愕ス可キ事ニ非スヤ

此ノ專賣主義ハ日ニ月ニ其勢力ヲ失シ嘗テ英國トノ通商結約ノ末ニ當テ一種重劇ノ創傷ヲ蒙リタリト雖モ亦タ佛國市會ノ專賣ヲ保護シタル立法官ノ議決ニ由テ佛國ノ法律中ニ久ク勝利ヲ制シ關稅法中尙

ホ命脈ノ存スルアリ之ヲ全滅スルニ至ルマテハ尙ホ多少ノ時日ヲ費シ且ツ或ハ紛議ヲ發起スルヲ有ラン然レモ人民一般ノ思想カ漸次ニ通商ノ原則ヲ認識スルニ傾向スルヲ以テ專賣法ノ保護者モ亦タ或種ノ産出物ニ付テハ特別ノ制規ヲ設クルヲ要請セサルヲ得サルノ情勢ニ至レリ而シテ其特別ノ制規ヲ設クルニハ必ス堅ク其緊要タル所以ヲ證明セシムハアル可ラス若シ堅ク之ヲ證明シ能ハサレハ普通ノ原則ニ從ハスンハアル可カラス今日ニ在テハ彼等ヲシテ此原則ヲ認識セサルヲ得サラシムルト特別ノ制規ハ其緊要ナルト否トニ關スルニ非サレハ復タ論争ヲ須ヒサルトノ點ニ達スルヲ以テ既ニ一種ノ勝利ヲ占得シタリト謂フ可シ抑此疑問ニ付テ茲ニ節目ヲ詳細論說シ能ハサルハ人ノ了知スル所ナリ故ニ予ハ唯此疑問ノ要點ニ就テ之ヲ論スルヲアランノミ

佛國ハ特ニ農業ノ國ニシテ其地ハ穀物及ヒ葡萄ノ產出ニ適シ北部ニ於テハ麥ヲ生シ南部ニ於テハ麥蜀黍及ヒ葡萄ヲ生ス

アルチノール、ヨンク氏曰ク佛國ハ三部分ニ區分ス可キ者ニシテ第一葡萄部分第二蜀黍部分第三橄欖樹部分是レナリ故ニ地方ニ亦三箇ノ別アリテ其第一部即チ北方ニ於テハ一モ葡萄ヲ生スルヲ無ク第二部即チ中央ニ於テハ一モ蜀黍ヲ生スルヲ無ク第三部即チ南方ニ於テハ橄欖樹、桑、葡萄及ヒ蜀黍ヲ產生ス

佛國ニ產出スル葡萄酒ハ他國ノ產出ト比較ス可カラサル上等ノ品位ナルヲ以テ之レカ爲メニハ決シテ競争ノ憂チ有スルヲナシ是ヲ以テ葡萄酒及ヒ火酒ノ產出人ハ即チ通商自由ノ黨派ナリ故ニボルドー、ヂモン、モンペリエール、アングレーム州ニ於テハ一般ニ貿易自由ノ說ヲ主張スト雖モ穀物ヲ產出スル地主ハ通常此疑問ニ付キ其視ル所チ異ニ

スル者アリテ常ニ外國麥ノ輸入ヲ憂ヘ彼等チ保護スル法律ノ廢止ニ遇フ毎ニ常ニ恟々トシテ物議ノ沸騰ヲ觀ルヲ有リ是ノ如ク農業ト農業ト情意相反シ葡萄酒ハ反撃ナル處置ノ爲メニ妨害ヲ受ケタルヲ以テ葡萄酒ヲ產出スル諸州ハ保護律ノ廢消ヲ冀望シ以テ抗敵者ノ復讐ニ由テ亡失シタル外國通商自由ノ權利ヲ回復センヲ欲ス

輓近ニ至ル迄佛國ノ穀物賣買ハ從價增減稅ノ法ヲ以テ之ヲ管知セリ蓋シ此ノ稅規ハ原ト英國ニ模倣シタル者ニシテ英國ハ既ニ之ヲ廢止セシ後ニ於テモ佛國ハ猶ホ久ク之ヲ保存セシヲ以テ姑ク千八百三十二年四月十五日ノ法律カ尙ホ存セル者トシテ茲ニ之ヲ說示セントス

第一 接境ノ諸州ハ之ヲ四部ニ別チ又其一部ヲ八區ニ小別シ每區皆其麥ノ輸入輸出ノ稅額ヲ定ルニハ其時價ノ高低ヲ以テシ麥價下落スレハ隨テ之ヲ增加シ麥價騰貴スレハ又々隨テ之ヲ減殺ス

第二 諸般ノ穀物及ヒ之ヨリ製出スル所ノ粉末ノ輸入輸出税モ亦  
麥價ノ高價ニ隨テ之ヲ規定ス

第三 麥價ハ毎月々尾ニ於テ之ヲ極定シ八區各別異ニ毎月ノ末ニ  
於テ法律全誌ヲ以テ之ヲ公布ス但シ此麥價ハ各區ニ向テ指定シ  
タル標準市會ノ時價ニ從フ者ニシテ其市會ノ數ハ總テ二十有五  
箇アリトス是ノ如ク各區皆標準價値ヲ有スルヲ以テ其標準價値  
ノ異ナルニ從ヒ從價増減税法ヲ各區内ニ施行シテ決シテ他ノ區  
内ニ生スル所ノ變動ニ關スルコトナシ

第四 每區内輸入ノ從量税即チ本税ハ麥ノ一「エクトリートル」毎ニ二十

五「サントーム」ヲ課シ穀粉ノ「カンタル、メトリック」毎ニ五十「サントー  
ム」ヲ課ス但シ各區ノ麥價ハ其屬スル部ノ異ナルニ隨テ異同アル  
コト左ノ如シ

第一部ノ區ハ二十六「フラン」以上

第二部ノ區ハ二十四「フラン」以上

第三部ノ區ハ二十二「フラン」以上

第四部ノ區ハ二十「フラン」以上

第五 右ノ從量税ハ麥ノ一「エクトリートル」ノ標準價値カ一「フラン」

ヲ低下スル毎ニ一「フラン」ヲ増加ス而シテ其價値低下ノ定度ハ左

ノ如シ  
第一部ノ區ハ二十三「フラン」ニ「サントーム」ニ至ル迄

第二部ノ區ハ二十一「フラン」ニ「サントーム」ニ至ル迄

第三部ノ區ハ十九「フラン」ニ「サントーム」ニ至ル迄

第四部ノ區ハ十七「フラン」ニ「サントーム」ニ至ル迄

第六 此價値以下標準價値ノ一「フラン」ノ低下毎ニ麥ノ一「エクトリ

トトリトル」ニ付キ一「フラン」五十「サンチーム」ノ税ヲ増加ス

右ニ舉ケタル條目ハ千八百五十九年四月十一日ノ參議院ノ會議ニ

於テ委員コルニユデー氏カ報告シタル説明書中ヨリ引用セリ

又タ佛國ノ商船ヲ保護スル爲ニ外國商船ヲ以テ輸入セル麥ノ一「エクトリートル」毎コ一「フラン」二十五「サンチーム」ノ増税ヲ課シ穀粉ノ「カンタル、メトリック」毎コ一「フラン」六十六「サンチーム」ノ増税ヲ課セリ而シテ輸出コ付テハ麥價ノ第一部ニ於テハ二十五「フラン」ヲ超ヘス第二部ニ於テハ二十三「フラン」ヲ超ヘス第三部ニ於テハ二十一「フラン」ヲ超ヘス第四部ニ於テハ十四「フラン」ヲ超ヘサル時ハ麥ノ一「エクトリートル」毎コ二十五「サンチーム」ノ税ヲ課セリ而シテ麥價ノ標準價值ヲ超ユレハ則テ輸入ニ付テハ麥ノ一「エクトリートル」毎コ二「フラン」ノ税ヲ課シ輸出ニ付テハ一「フラン」ノ騰貴毎ニ二「フラン」ノ税ヲ課ス

從價増減税ノ法ハ千八百四十七年ヨリ千八百四十八年二月一日ニ至ル迄之ヲ廢停シ千八百五十三年ニ於テ新ニ又之ヲ廢停シ其後年々ノ布告ニ由テ千八百五十九年九月三十日ニ至ルマテ此ノ税法ヲ假廢シタリシカ千八百五十九年間ニ於テ麥價十六「フラン」二十「サンチーム」ニ下落シタルヲ以テ第一部ニ於テハ麥ノ一「エクトリートル」毎ニ十二「フラン」乃至十三「フラン」ノ輸入税ヲ課ス可キニ因リ甚タ明確ナル實驗ヲ經タリ蓋シ此疑問ニ付キ參議院ヨリ探問ヲ爲セシニ衆人皆曰ク須ク千八百三十二年四月十五日ノ法律ヲ改正セズンハアルヘカラス第一麥ノ一「エクトリートル」ニ付キ限定シタル標準價值ハ其實價ニ相應セス第二佛國ノ領地ヲ區分セルヲ甚タ大ナルニ過ク第三標準市會ヲ撰定セシヲ或ハ善ナラサル者アリト政府ハ數次此ノ税法ヲ廢停シ遂ニ此ノ税法ヲ以テ一國ノ貯蓄ヲ益ス

ルヨリ反テ之ヲ害スルノ大ナルモノト判定セリ是レ固ヨリ當ニ然ル  
 ヘキ所ナリ蓋シ當時外國ニ在ル佛國ノ商人ハ其不在中ニ麥價或ハ騰  
 貴シ或ハ低下スルヲアリテ「サンチーム」ノ差異アレハ「フラン」若ク  
 ハ「フラン」五十「サンチーム」ノ稅ヲ納ム可キヲ以テ佛國ニ輸入スルノ  
 麥ハ幾許ノ稅ヲ納ム可キヲ知ルヲ能ハス即チ沒眼的ノ商買タルヲ  
 免レサルヲ以テ篤實純良ナル商人ハ敢爲ノ氣力ヲ失ヒ麥商社會ニ存  
 在スル者ハ唯其業ヲ廢止センヨリハ寧ロ危難ヲ冒スルニ若カスト爲  
 セル大膽粗暴ノ商人ニ過キサルノミ  
 又チ輸出ノ麥商ニ付テモ同一ノ不便ヲ生スルヲ有リ即チ商人ノ麥ヲ  
 買入ル、時ニ當リテハ唯從量稅ノミヲ納ム可シト算勘シ其麥ヲ集積  
 シテ之ヲ輸出スル時ニ際シ噸ニ麥價ノ騰貴スルニ逢ヘハ「エクトリ  
 ートル」毎「二」フラン」ノ稅ヲ出サスンハアル可カラス其他荒凶ノ年ニ

於テ輸入スル者少クシテ貯蓄ノ豐饒ナラサルカ如キハ亦タ皆總テ之  
 ヨリ生スルノ不便ニアラサルハナシ是ノ如キハ充全ナル通商自由ノ  
 制度ニ於テ未タ嘗テ見サル所ナリ又豐年ニ於テモ麥價ヲ騰揚スル爲  
 ニ大ニ困難ヲ生スルヲアリ是レ他ナシ輸出ノ麥商ニ課スル從價増減  
 稅ノ之レガ妨害ヲ爲スヲ以テナリ

然レモ從價増減稅法ヲ防護スル者ノ說ニ據レハ曰ク蓋シ此法ヲ設ク  
 ル所以ハ黑海 オングリー 及ヒ 埃及 及 麥ノ佛國領内ニ輸入シテ佛國ノ麥  
 價ニ患害ヲ生ス可キ競争ヲ起スアラントチ恐レ且ツ其麥ノ低價ニ由  
 リテ佛國農業ノ氣力ヲ失ハシメントチ恐ル、ニ由ルナリト是レ妄想  
 無根ノ憂懼ナリト謂フ可シ蓋シ最荒凶ノ年ト雖モ外國ヨリ佛國內ニ  
 輸入スル麥量ハ九百萬「エクトリートル」ニ超ユルヲナク且ツ先年來ノ  
 輸入額ヲ平均スレハ一年三百萬「エクトリートル」ニ超ユルヲナシ然シ



テ佛國內ニ産出スル麥ノ一年間一億萬若クハ一億一千萬「エクトリ」  
 トルニ昇リシ時ニ方リ此ノ僅々タル輸入額カ佛國內ノ麥價ニ如何ナ  
 ル影響ヲ生ゼン「ア」リシヤ今茲ニ互ニ交通スルニ箇ノ市會アレハ其  
 ノ小市會ノ影響ヲ爲ス者ハ大市會ニシテ大市會ハ決シテ小市會ノ影  
 響ヲ受クル「ナ」シ故ニ是ノ如キ僅少ナル輸入カ佛國ノ如キ大市會ニ  
 著シキ麥價ノ下落ヲ生スルノ恐レナシト爲スハ蓋シ之レカ爲メナリ  
 參議院ノ委員タル「コ」ルニ「デ」氏ハ此疑問ニ關シ從價増減税法ヲ保  
 護セント欲スルノ意向ヲ以テ其事務ノ檢査ニ着手シタリシカ之ヲ  
 精密ニ檢閲シタル後ニ至リ遂ニ通商自由ノ利益アルコ若カサル「  
 ナ」決了セリ

經濟上ノ條理此ノ如クナルカ故ニ終ニ政署上ノ抗抵ト穀物産出者カ  
 露々スル所欲トナ壓伏スル「ナ」得千八百六十一年六月十五日ノ法律

ナ以テ英國ニ倣ヒ從價増減税法ヲ廢止セリ蓋シ英國ニ於テハ一旦此  
 税法ヲ發明セシト雖モ久キヲ經ネシテ直ニ之ヲ廢棄シタルノ例アル  
 ナ以テナリ故ニ現今ニ於テハ佛國內ニ輸入スル外國ノ麥ハ唯「單」一ノ  
 税ヲ課スルノミニシテ「エ」クトリ「ト」ル毎「コ」五「サ」ン「チ」ナ「チ」超  
 ル「ナ」リ  
 畜獸ノ輸入ニ付テハ會テ著大ノ税ヲ課セ即チ牛一頭ニ五十「フ」ラン「乳」  
 牛一頭ニ十五「フ」ラン「羊」一頭ニ五「フ」ラン「ノ」税「リ」シカ千八百五十三年  
 八月十四日ノ布告ヲ以テ其定額ヲ減省シ即チ牛一頭ニ三「フ」ラン「乳」牛  
 一頭ニ一「フ」ラン「羊」一頭ニ二十五「サ」ン「チ」ナ「チ」ノ税ヲ課スル「ト」ナレリ  
 故ニ其税有リト雖モ殆ト全ク無キカ如シ是レ蓋シ三十年來久シク施  
 行セシ制度ヲ一朝ニ改正シタルヲ以テ實ニ一大變革ト謂フ可シ然ル  
 ニ夫ノ保護主義者ハ是時ニ當リ不吉ニ預言ヲ爲セシト雖モ獸肉ノ價

値ハ其以前ト同一ニシテ國內產出ノ獸肉ハ決シテ其價格ヲ減スル  
 ナシ  
 羊毛ノ課税モ亦然リ千八百三十五年前ハ其本價ニ從ヒ百分ニ付キ三  
 十ノ税ヲ課シタリシカ千八百五十五年ニ至リテハ其課税百ニ付キ二  
 十ニ減シタリ然レモ毛織物ハ毫モ其價格ヲ減スルコトナク反テ益高價  
 トナレリ又千八百五十六年一月十九日ノ布告ヲ以テ本價百ニ付キ  
 五ニ減税シタル時ニ於テモ亦ク同一ノ現象ヲ生シタリ予ハ此ノ高價  
 ナリテ輸入ニ便益ヲ與ヘタル効績ト爲スニ非ス唯ク此現象ニ由テ之  
 ナ觀レハ以テ通商自由ノ施行ニ付キ毫モ憂懼ヲ要セサルコトヲ證スル  
 ニ足レリト爲スルニミ  
 レオンス、ド、フウエルニ氏ノ著セシ農業論中通商自由ト題セル第三章  
 ニ於テ先ツ農業ニ關スル通商自由ノ疑問ヲ論辨シ且ツ其第一條ニ

於テ佛國ノ通商自由ハ其英國ニ於ケルニリ他ノ理由ヲ以テ之ヲ助  
 成ス可キコトヲ極テ善ク說示セリ其說ニ曰ク英國ハ大農ノ國ニシテ  
 農業保護ノ法律ハ以テ小佃夫ノ地子ヲ増加シ消費者即チ職工ノ活  
 計ヲシテ困難ナラシムルカ故ニ消費者ノ利益ノ爲ニ自ラ通商自由  
 ナ冀望スルニ至レリト雖モ佛國ニ於テハ甚ク土地ヲ小分シタルヲ  
 以テ產出人ノ爲ニ通商自由ノ利益アルコトヲ說明セスンハアル可カ  
 ラスト  
 其他製作工業上ニ付キ更ニ此疑問ヲ詳論スルコトヲ得可シト雖モ此ノ  
 餘論既ニ冗長ニ渉ルヲ以テ更ニ他ノ原旨ノ說明ヲ爲スヲ以テ緊要ト  
 ス蓋シ主論ノ在スル所ハ其原旨中ニ在ルヲ以テナリ  
 抑產出物ノ貿易ナルヲ其始メニ當リテハ直接ニ此產出物ヲ以テ彼ノ

產出物ニ交換シ而シテ社會交際ノ區域未タ甚ク廣汎ナラス且ツ產出物品ノ種類未タ甚ク過多ナラサル間ハ此ノ方法ヲ行フヲ得タリ然レニ交際益滋蔓シテ產出物愈々増殖スルニ至リテ其夥多ナル物品ノ種數ヲ一々比較計量スルヲ得サルヲ以テ百般ノ貿易物品ヲ計較ス可キ一種普通ノ權度即チ價格ヲ設クルヲ以テ緊要ト爲シ總テ產出物ヲ要來スル爲ニハ此權度ヲ用ヒ此權度ノ媒介ニ由テ宛モ直接ニ產出物ヲ貿易スルト同一ノ効績ヲ爲スヲ得タリ而シテ此方法タルヤ各產出人ニシテ其產出物ノ大數ヲ計算ス可キ煩勞ヲ減セシメタルカ故ニ最モ簡便ノ方法ナリトス

此ノ普通ノ權度ヲ設クル爲ニハ古來各國ノ人民各々各種異類ノ諸物ヲ採用シ物品購求人ハ砂石瓊珠及ヒ其他ノ諸物ヲ以テ其購求スル所ノ物價ヲ支償スルヲアリキ然レニ巨大ノ價值ヲ支償スル爲ニハ金貨

若クハ銀貨ヲ撰用シ工料ヲ支償スル爲メニハ鉛貨若クハ銅貨ヲ撰用スルハ最モ普通慣習タリキ蓋シ此ノ諸金屬ハ之ヲ撰用セサルヲ得サル所ノ性質ヲ有スル者ニシテ第一ニハ其剖分シ易キヲ以テ貿易ス可キ各種物品ノ量ニ應ジテ之ヲ使用スルヲ得ヘク第二ニハ其堅牢ノ質アルヲ以テ磨滅ノ憂ヒナク第三ニハ其形質ノ大ナラサルヲ以テ容易ニ巨大ノ價格ヲ運搬スルヲ得可シ故ニ此ノ諸金屬ノ塊片ハ其重量品位及ヒ價格ヲ指定スル所ノ官府ノ徽号ヲ有スルニ於テハ輒チ貿易ノ媒介ヲ爲シテ開化ノ諸國ニ流通スル者タリ

貨幣ハ人ノ容易ニ評定シ得ヘキ單一ノ價格ナリ故ニ世人ハ從來久シク人心ヲ迷惑セシ所ノ謬誤ニ陷ルヲ勿ル可シ但其謬誤タルヤ未ダ全ク消滅セズシテ輸出主義或ハ通商ノ權衡ト云ヘル名目ノ尙ホ今日ニ現存スルアリ而シテ此ノ方法ヲ主張スル黨派ノ説ニ從ヘバ日々物

品ノ輸出カ其輸入ニ超ル所ノ國民ハ他ノ國民チシテ貨幣ヲ供セシムルカ故ニ通商ノ權衡ヲ占有シ其輸出入差分ノ利益ヲ得ルト雖モ之ニ反シテ物品ノ輸入其輸出ニ超ル所ノ國民ハ其通商ノ權衡ヲ失ヒ其差分ノ損失ヲ受クルニ至ル可シト然レモ若シ產出物ハ他ノ產出物ニ貿易スル者タルヲ以テ真正ノトナリトセハ此論理ハ謬誤ノ甚タシキ者ト謂フ可シ何トナレハ則チ多ク輸入スル所ノ國民ハ必ス物貨ヲ得ルコト多カル可シ而シテ其金銀ヲ輸出スルハ即チ此ノ如ク多量ノ原質物ヲ有スルカ爲メナレハナリ然ルト雖モ彼等ノ説モ亦タ全ク實理ナキニ非ス若シ我國ノ產出物ヲ好マサル所ノ一國ト通商ヲ爲ストキハ我國ハ已ムコトヲ得ス貨幣ヲ輸送シテ輸入物品ノ代價ヲ支償セスンハアル可カラスシテ我國ハ一モ彼國ニ產出物ヲ賣却スルコトナキヲ以テ一モ貨幣ヲ得ルコトナキ結果ヲ生ス

可ク通用貨幣ヲ耗失シテ貨幣鑄造若クハ信用ヲ失フ方法ヲ以テ貨幣ノ流出ヲ防止セサレハ遂ニ内國ノ商業上ニ多少ノ困難ヲ生スルニ至ル可シ然レモ此困難タルヤ僅ニ一時ノ事タルニ過キサルナリ何トナレハ則チ貨幣減少スレハ其價格隨テ騰貴スルカ故ニ貨幣饒多ニシテ要求少キ所ノ地方ヨリ其減少シテ大ニ之ヲ渴望スル地方ニ速ニ復還ス可キヲ以テナリ貨幣ノ鑄造ハ万國皆チ政府ノ管掌スル所ニシテ何レノ政府ト雖モ之ヲ全ク人民私有ノ製造ニ委スル者アルコト無カリキ是ヲ以テ他ノ國境ニ入レハ必ス貨幣ノ異同ヲ觀ル而シテ其貨幣ハ悉ク同一ノ品位ヲ有スル者ニ非サルカ故ニ其重量ハ同一ナリト雖モ其價格ヲ増減スルノ一事業ヲ必要トス是レ兌換ノ職業ノ由テ生スル所ナリ然リ而シテ世界平和万國一語万國同一ノメートル尺度法ヲ希望セル者ニシテ又タ

同ク万国ノ人民ヲシテ同一ノ貨幣ヲ用ヒシメテ主唱スルモノモ  
 リ予ヲ以テ之ヲ考マシテ獨リ此ノ「メートル」尺度法及ヒ貨幣ノ事ニ至  
 テハ復テ世界平和万国一語ノ目的ノタメニ彼等ヲ負ヒテ家想家トシ  
 練名ヲ受クルノ要ナク人々皆テ彼等ト一般ニ之ヲ希望スルコト不可  
 ナルナキヲ知ルナリ  
 予今世人ノ屢混同スル所ノ價格及ヒ價值ノ兩種ヲ區別セシメテ產出物  
 ノ價格ハ其產出人カ他ノ產出物ト貿易スルコト得ル所ノ分量中ニ存  
 スル者ニシテ價值ハ產出物ノ代リニ得ル所ノ貨幣ノ分量中ニ存スル  
 者ナリ故ニ他ノ語ヲ以テ之ヲ云ヘハ價值ハ貨幣ニ由テ指定セラレタ  
 ル價格ニ過キサルヲ以テ即チ價格ハ一箇ノ性種ニシテ價值ハ價格中  
 ノ一種類ト看做スコト得可シ夫レ貨幣ハ價格ノ最モ顯著明瞭ナル者  
 ナリ故ニ價格ト價值トヲ混同セタル謬誤ハ容易ニ之ヲ辨識スルコト

得ル  
 價格ハ兩種ノ產出物間ノ關係ニシテ一者騰貴スレハ一者隨テ低下ス  
 故ニ總般ノ商品カ同一時ニ價格ノ高下ヲ共ニスルコト能ハサルハ恰モ  
 彼ノ兩箇ノ秤盤カ單ニ自然ノ重力ノミヲ以テ其高下ヲ爲スコト能ハサ  
 ルト全ク相異ナルコトナシ  
 若シ世人カ商品下落セリト云フキハ唯ク其商品ト普通ノ權度タル貨  
 幣トヲ比較シテ其商品ノ下落セタルコトヲ指言スルノミ然レモ若シ商  
 品ノ售ラル、少シト云フキハ則チ其商品カ金銀ヲ買入スル力ノ最モ  
 強大ナルコトヲ併セ示スモノナリ蓋シ物品ノ價值ハ貨幣ノ饒多ナルト  
 其寡少ナルトニ從テ大ニ變換スル者ナリ何トナレハ金銀ハ凡百物貨  
 ノ價格ト一般ニ供給及ヒ要求ノ法則ニ從テ可キヲ以テナリ故ニ新世  
 界ノ發見アリシヨリ歐洲ノ各市會上ニ著大ノ影響ヲ生シ且ツ近今ニ

至リテハ加里保爾尼及ヒ埃斯大刺利ノ諸礦ヲ開發セシヨリ物品ノ價  
值ハ百分ノ二十五ナル比準ヲ以テ騰貴スルニ至レリ

トイケノ氏著セシ價值沿革史中及ヒルウヅノール氏ノ著セシ金價疑  
問中ニハ此價值騰貴ノコトニ關シテ甚ク珍奇ノ細説ヲ舉載セリ  
然レモ物品價值ノ騰貴ハ獨リ貨幣ノ夥饒ニ由ルノミナラス其貨幣ヲ  
所有セル者カ之ヲ授與シ且ツ之ヲ流通セシムルニ在リ若シ否ラサレ  
ハ金銀ハ他ノ商品ノ如ク之ヲ市會ニ出スニ非サレハ決シテ其市會ニ  
影響ヲ爲スコトナシ又ク政變ノ如キ不意ノ變動アレハ則チ貨幣ノ額數  
ハ變動以前ニ比シテ毫モ減少シタルニ非スト雖モ其變動ノ日ヨリ產  
出物ノ錢價日ニ益々下落スルヲ見ル是レ他ナシ各人皆不意ノ危難ニ預  
備スル爲ニ其金銀ヲ藏匿シ購求人ノ授與ハ寡少ナリト雖モ賣出人ノ  
授與ハ舊ニ依リテ變スルコトナク或ハ之ヨリ増加スルコト有ルヲ以テナ

リ是レ即チ平常ニ見ルカ如ク一方ハ其貨幣ヲ藏匿セント欲シ他ノ一  
方ハ之ヲ得ンカ爲ニ其商品ヲ廉價ニ賣却スルト同一ノ理由ナリトス一  
少量ノ金銀ヲ有スル國民ニシテ他ノ巨額ノ金銀ヲ有スル國民ヨリハ  
大ニ賣買ノ業ヲ爲ス者アリ英國ニ於テハ其流通貨幣佛國ヨリ寡少ナ  
リト雖モ其物品ノ價值佛國ヨリ較ク騰貴スル者ハ何故ソヤ蓋シ英國ニ  
於テハ多種ノ信用方法ヲ有スルカ故ニ貨幣ノ流通甚ク迅速ニシテ諸  
般ノ支償ヲ爲スニ多クハ紙憑ヲ以テシ貨幣ヲ用フルコト甚ク鮮キヲ以  
テナリ是ノ如ク貨幣ノ流通迅速ナルハ宛モ貨幣ノ増殖セルト同一ノ  
結果ヲ生スル者ニシテ英國ニ於テハ佛國ヨリ物品ノ價值カ騰貴スル  
所以ノ理ハ固ヨリ了解シ難キニ非サルナリ今茲ニ三箇ノ貨幣アリテ  
各自ニ之ヲ商法上ノ事業ニ用フレハ其貿易ノ媒介ヲ爲スニ至リテハ  
一箇ノ貨幣ヲ以テ同時ニ三箇ノ事業ニ用フルト更ニ其効チ異ニスル

ニ非サルヤ瞭然タリ三箇ノ貨幣ハ其實價ニ於テハ一箇ノ貨幣ニ比ス  
 レハ價格ヲ有スルヲ三倍スト雖モ其貿易媒介ノ用ヲ爲スニ至リテハ  
 宛モ一箇ノ貨幣ノ三箇ノ用ヲ爲ス者ト相異ナルヲナシ  
 シヤル、コクラン氏言ヘルヲアリ曰ク英國ニ於テハ銀行証券ト貨幣ト  
 ナ合シ大約十五億万ノ總額ニ由テ諸般ノ貿易ヲ爲スト雖モ佛國ハ唯  
 タ貨幣ノミニシテ其一倍以上ノ金額ヲ使用ス合衆國ノ例証ハ特ニ最  
 モ確切ナリ何トナレハ合衆國ニ於テハ其貨幣流通ノ用ヲ助クル銀行  
 証券ノ額數英國ヨリ寡少ナルヲ以テナリ其故ヲ詳説スレハ合衆國ニ  
 於テハ其貨幣ニ代用スル者ハ銀行ノ証券ニ非スシテ專ラ信用ニ在リ  
 而シテ此ノ信用ノ發動ニハ百千ノ方法アルモノニシテ銀行ノ証券ハ  
 此ノ信用發現ノ一ト其重要ナル動力ノ一トニ過キサルナリ故ニ銀行  
 ニ於テ一タヒ信用ノ力ニ據リ以テ証券ヲ發出スレハ則チ其証券ノ流

動ハ其發行外ニ及フヲ以テ銀行証券ノ一部ヲ轉移スルヲ猶ホ貨幣ヲ  
 轉移スルカコトシトシテ其價値ニ影響ヲ生スルハ獨リ供給ト要求トノミ之レカ原因ヲ爲  
 物品ノ價値ニ影響ヲ生スルハ獨リ供給ト要求トノミ之レカ原因ヲ爲  
 スニ非ス屢供給ト要求トノ變異ノ比例ニ超過シテ價値ノ差異ヲ生出  
 シタル所ノ景況アルヲ見ル例ハ千八百五十三年及ヒ千八百五十六  
 年ノ荒凶ニ由テ生シタル麥價ノ如キ是レナリ抑佛國ニ於テ消費スル  
 麥量ハ毎年八千万「エクトリール」ニシテ毎年外國ヨリ購求スル所ハ  
 平均五百五十万「エクトリール」ナリ詳ニ之ヲ云ヘハ殆ント十五分ノ  
 一タリ而シテ此ノ饑饉ノ爲ニ麥價ノ騰貴セル「エクトリール」ニ  
 付キ十八「フラン」八十八「サンチム」ヨリ二十九「フラン」六十三「サンチム」  
 至ルニ至ル詳ニ之ヲ云ヘハ十二分ノ七ニ至ルヲ以テ國國養料ノ増價ハ  
 一年八億万ニ上レリ是ノ如ク非常ニ麥價ノ騰貴セルハ各消費人カ飢

餓ニ陥ラレテ憂懼シ自ラ犧牲ト爲ルヲ察セズ相競テ其糞料ヲ備  
 フルニ汲々タルヲ以テ產出人ハ此沒眼鏡爭中ニ於テ其利益ヲ占有シ  
 要求人ヲシテ己レノ欲スル所ニ從ハサルヲ得サレムルカ故ナリ  
 是レ即チ法律學家カ衆多ノ思想ハ時アリテ實理ニ勝ツト謂ヒシ所ナ  
 リ  
 英國ニ於テハ唯タ金貨ノミチ有シ白耳義ニ於テハ輒今ニ至ル迄唯タ  
 銀貨ノミチ有シタリ我カ佛國ニ於テハ金貨及ヒ銀貨ヲ併有ス而シテ  
 此ノ金銀兩貨ノ關係ノ價格ハ千八百三年四月廿八日ノ法律ヲ以テ之  
 チ十五及ヒ二分ノ一トニ定メタリ是レヲ以テ金貨ハ銀貨ニ比スレハ  
 同一ノ斤量ニシテ十五半倍ノ價格ヲ有セリ然レニ此關係ヲ一定シテ  
 ルヲ以テ其價格ノ關係常ニ差異ナキ能ハス何トナレハ此兩金屬ノ價  
 格モ亦ダ他ノ商品ノ如ク變易ス可キ者ニシテ各自ニ其變動ヲ有ス然

ルニ確定不變ノ比準ヲ制定セラルハ此ノ兩金屬ノ性質ニ背反セルヲ  
 以テナリ  
 是ヲ以テ自然ニ金銀價格關係ノ變動ヲ生出シ其始メ金銀兩價ノ關係  
 ハ金貨ノ利ニ變シ千八百三十八年ニ於テ其價格ハ十五及ヒ四分ノ三  
 ニ至レリ然レニ加里保爾尼及ヒ澳斯太刺利ノ金礦發見ノ後ニ至リテ  
 ハ表裏ノ變動ヲ生シ兩貨ノ關係ハ銀貨ノ利ニ變セシニ由リ其結果ハ  
 遂ニ銀塊ヲ以テ貨幣ト爲サレ利トシ之ヲ貨幣鑄造用ニ供スル者  
 ナキニ至レリ是ニ於テ銀ヲ要求スル外國人ハ佛國ニ來リ金貨ヲ以テ  
 銀塊ヲ買フ者アリシカ故ニ漸次ニ金銀交代シテ大抵諸般ノ賣買上ニ  
 金貨ヲ使用シタリ又チ此ノ銀貨ノ散失セル內國ノ原由ニ更ニ外國ノ  
 原由ノ加ハル者アリ蓋シ我輩ノ貿易ヲ爲ス極東ノ諸國ハ佛國ノ產出  
 物カ其所好及ヒ慣習ニ適セサルヲ以テ一モ之ヲ換取スルヲナシ是ヲ



以テ佛國人ノ東國ニ往テ物品ヲ購求スルニハ必ス貨幣ヲ以テセス  
 ハアル可カラズ而シテ東國人ノ收受スル貨幣ハ獨リ銀貨ニ限レリト  
 ス加之英國ニ於テハ唯タ金貨ノミナ有スルヲ以テ已ムヲ得ス佛國  
 ノ銀貨ヲ要求スルヲ必要ト爲スカ故ニ佛國ニ於テハ獨リ自國カ極東  
 ノ諸國ト通商スル爲ニ銀貨ヲ供充スルノミナラズ英國カ極東諸國ト  
 通商スル爲ニモ亦タ佛國ノ銀貨ヲ供充セスンハアル可カラズ是ノ如  
 ク現ニ銀貨ノ陸續流出スルヲ以テ茲ニ金銀兩種ノ貨幣ヲ有スルノ果  
 シテ得策タル可キカ若クハ唯タ一種ノ貨幣ヲ撰用ス可キカノ疑問ヲ  
 爲サントシテ要ス  
 銀貨ハ重量ノ不便有リテ其巨額ヲ運搬スルニハ非常ノ困難ヲ生ス可  
 シ又タ金貨ハ他ノ一種ノ不便ヲ生スルコト有リ蓋シ五「フラン」以上ノ金  
 貨ハ之ヲ鑄造スヘシト雖モ工料等ノ支償ニ汎用ス可キ此額以內ノ小

金貨ヲ鑄造スルハ決シテ能ハサル所ナリ故ニ小額ノ支償ヲ爲スニハ  
 銀貨ヲ以テ必要トス且ツ若シ英國ニ於ケル如ク唯タ金貨ノ一種ヲ用  
 フル時ハ極東ノ諸國ト貿易スルニ當リテ何ヲ以テ其價錢ヲ支辨スル  
 コトヲ得可キヤ或ル實驗家ハ臨時ニ法律ヲ以テ金銀兩貨關係ノ更改ヲ  
 公布ス可キノ說ヲ起シタリ然レモ此ノ措置タルヤ必ス金貨ノ所持主  
 ヲシテ不當ノ損害ヲ蒙ラシム可ク且ツ金銀品位ノ變更アル毎ニ之ヲ  
 施行セスンハアル可カラズ又他ノ一方ヨリ之ヲ云ヘハ若シ政府ヲシ  
 テ其損害ニ任ス可カラシメハ政府ノ豫算ハ其變更毎ニ不意ナル出費  
 ノ爲ニ損傷セラル可シ故ニ此ノ疑問ハ大ニ錯雜ニシテ之カ解釋ヲ爲  
 スハ甚タ困難ナリトス  
 造幣法検査委員ハ此ノ困難ヲ詳悉シ兩貨偏發ス可カラズ唯タ若干  
 ノ金額以上ハ「キログラム」毎ニ二十五「サントム」ノ輸出關稅ヲ課

シテ以テ銀貨濫出ノ弊害ヲ防止ス可ク而シテ其量額ノ限定ハ之ヲ會計事務宰相ノ評決ニ委任ス可キヲ建議セリ

金銀兩貨ノ各者ニ對スル所ノ駁說中共ニ排斥ス可キ者アリ夫レ銀貨ノ巨額ヲ運搬スルノ不便ハ信用ノ方法及ヒ銀行ノ事業ニ由リテ之ヲ除去ス可ク又金貨ノ一種ヲ用フル場合ニ於テハ若シ少シク紙幣ノ通用ヲ嚴正ニスレハ工料等ヲ支償スル爲メニ決シテ妨碍ヲ生スルコト勿カルヘシ故ニ或ル國ニ於テハ小價ノ紙幣ヲ用フル者アリ即チ澳地利及ヒ日耳曼ノ諸邦ニ於テハ「フロートラン」<sup>二</sup>「フラン」<sup>五</sup>「十」<sup>七</sup>「サンチム」<sup>三</sup>及ヒ「グートル」<sup>三</sup>「フラン」<sup>七</sup>「十五」<sup>七</sup>サノ紙幣ヲ使用ス之レカ爲メニ如何ナル不適宜ヲ生スルヤ毫モ是レ有ルコトナシ然レハ則チ吾人カ時アリテ紙幣ヲ用フル如ク豈ニ紙片ヲ以テ工料等ヲ支償ス可カラサルノ理アラランヤ蓋シ小價ノ紙幣ヲ用フルルハ之ヨリ生スル所ノ危難ハ至テ些少ナルカ故ニ小價ノ紙幣

ハ大價ノ紙幣ヨリ不適宜ヲ生スルコト鮮シ既ニ此駁說ヲ排斥セタル以上ハ須ク金銀中何レノ貨幣ヲ採用ス可キカヲ論セスンハアル可カラ

ス

若シ極東ノ諸國ト通商ノ交際ヲ爲サ、ルキハ金貨ハ甚ク運搬シ易キヲ以テ之ヲ採用ス可キハ固ヨリ論ヲ待タサルナリ而シテ工料等ヲ支償スル爲メニハ新クニ銀行ノ證券ヲ小分シ若クハ強要通用ノ特別證券ヲ製シテ之ニ供スルコト得可シ且ツ此小價ノ強要通用ハ通常世人ノ虞慮スル如キ弊害ヲ生スル者ニ非サルナリ然レモ極東諸國トノ通商上ニ銀貨ノ必要ナルカ爲メニ銀貨ヲ採用スル說ノ如キハ駁難ス可カラサル一種ノ抗說ナリ此抗說ハ佛國ヲシテ金銀兩種ノ貨幣ヲ維持セシムル爲メニハ尙ホ久シク充全ノ勢力ヲ有ス可シ近今白耳義ニ於テ兩種ノ貨幣ヲ採用セシモ亦タ此ノ理由ニ出ツル所ナリ

予ハ今自然ノ順序ヲ逐フテ信用ノ方法ニ論及セズンハアル可カラス  
蓋シ此ノ信用ノ方法ハ貨幣ノ流通ニ代用シ若クハ之ヲシテ活動セシ  
ムル者ヲレハナリ

信用  
デレ

信用ハ償還ノ契約ニ由リテ他人ノ物件ヲ使用スルノ權理ナリト説明  
スルヲ得ヘシ  
諸經濟學家ハ信用ノ有益タルヲ否ム者ナシト雖モ信用ノ効力ニ由  
リテ資本ヲ増殖スルヲ信スル者ナシトヤンバチスセー氏ハ謂ヘテ  
ク信用カ一方ニ與フル所ノ者ハ即チ一方ニ取ル所ノ者ナリ故ニ信用  
ハ資本ヲ増殖スル者ニ非ス唯テ資本ヲ轉移スルニ過キサルナリト此  
ノ説タルヤ金銀貸與ノ數額ニ就テ之ヲ論スレハ恐クハ真正ノ説ト謂  
フ可シ然レモ信用ハ通常供需用物若クハ原品ノ貸與中ニ存スル者ニシ

テ此ノ供需用物及ヒ原品ハ不產出ノ形狀ヲ以テ店舖中ニ滯止スルモ信  
用ノ媒介ニ由テ流通シテ以テ製作上ノ活動ヲ爲ス若シ此ノ流通ノ景  
況微セハ製作上ノ運動ヲ保續スルヲ能ハサラン是ヲ以テ信用ハ資本  
ヲ造成スル者ニ非スト云フハ或ハ其レ然ラン然レモ所有者カ日々損  
失ヲ受クル所ノ不產出ノ資本ヲシテ有用物ヲラシムル者ハ獨リ此ノ  
信用ニ在リトス

信用ヲ區別シテ二種ト爲ス公信用私信用是レナリ甲ハ人ノ政府ニ許  
允スル所ニシテ乙ハ各人ニ許允スル所ナリ政府ハ許多ノ方法ニ由リ  
テ負債主タルヲ得ル者ニシテ或ハ償還ヲ要セサル資本ヲ借用スル  
ヲ有リ世人之ヲ名ケテ不動債ト云フ或ハ或種ノ契約ニ由リテ償還ス  
可キ資本ヲ借用スルヲ有リ世人之ヲ名ケテ動債ト云フ佛國ニ於テ動  
債ノ最大部分ハ「ボンデミトレツール」會計宰相ヨリ發スニ在リ此公債証

書モ亦タ政府ヨリ其貸主ニ與フル所ノ證券ノ類ニシテ豫メ指定シタル期限ニ償還ス可キ者トス而シテ此公信用ノ租税ト異ナル所以ハ左ノ如シ

第一 公信用ハ人々ノ隨意ニ委スト雖モ租税ハ人々ノ義務ニ屬スル者タリ

第二 公信用ハ必ス償還ノ約束ニ出ルト雖モ租税ハ其貢納者ニ還付スルコトナシ

故ニ租税ノ本性タルヤ管ニ人々ノ義務ニ屬スルノミナラス又其交換價格ヲ有セサルヲ以テ之ヲ公信用ト區別ス可シ是ヲ以テ世人或ハ公信用ヲ名ケテ強要借用ト云ヒ以テ人々ノ義務ニ屬スル租税ノ貸與ト區別ス蓋シ強要借用ハ償還ノ約諾ヲ含有スト雖モ租税ハ決シテ之レナキヲ以テナリ實ニ此ノ約諾ノ如キハ未タ以テ債主ヲシテ一大信用

ヲ置カシムルニ足ラス然レモ其約諾ノ存スルト否ラサルトノ重要ナル性質ハ以テ二種ヲ區別スルニ足レリトス  
政府ガ人民ニ隨意ノ貸與ヲ募集スル時ニ方リ其成效ノ程度ハ政府ガ民心ニ布ク所ノ信用ニ關スル者タリ實ニ貸主ハ必成ノ期望ス可カラサル國事ヲ支持スル爲メニ其資本ヲ貸與スル者有リト雖モ其供給スル犠牲ハ尽忠報國ノ意ニ出ル者ニシテ經濟學ノ得テ干預スル所ニ非ス故ニ千八百三十年及ヒ千八百四十八年ニ於テ變革ノ後ヲ承ケタル政府ハ國民ニ向テ公債ヲ募集セシト雖モ其得タル所ハ僅少ノ金額ニ過キサリキ

千八百三十年ニ於テハ公借ノ金額幾ント二千一百万「フラン」ニ達シタリト雖モ千八百四十八年ニ於テ得タル所ノ貨幣ハ僅ニ一萬「フラン」ニ充ツサリキ

之ニ反シテクリメーノ戦争間及ヒ伊太里戦争ノ始ニ於テ現今ノ政府  
 カ其資本ヲ募集セシ時ハ國民相競テ之ヲ貸與シタルヲ以テ募金ノ員  
 額ヲ減殺スルヲ要スルニ至レリ是ノ如ク公債募集ノ成績ニ異同ヲ生  
 セシ所以ハ大ニ其時勢ノ安危ニ關ス蓋シ千八百三十年及ヒ千八百四  
 十八年ニ於テハ政府創業ノ際其存亡未タ期ス可カラスシテ國民ノ信  
 用ヲ得ルヤ甚タ淺少ナリシト雖モ千八百五十四年ニ至リテハ我帝國  
 鞏固ニシテ人々復タ疑貳ヲ抱ク者アラザリキ  
 政府ニ對スル公同ノ思想カ公信用ニ影響ヲ生スルハ固ヨリ自然ノ情  
 勢ナリ故ニ若シ政府ノ勢力鞏固ニシテ且ツ其約束ノ履行忠正ナルキ  
 ハ其貸主タル者ハ償還ノ確實ナルヲ信認シ容易ニ其資本ヲ貸與ス  
 然レモ若シ政府ノ勢力薄弱ナルキハ衆望渙散シテ孤立政府ト爲リ人  
 々復タ其政府タルヲ認識スルヲナキヲ以テ一モ資本ヲ得ルノ方法

ナキニ至ル又他ノ一方ニ於テハ政府カ動搖スル時ハ物品ヲ消費スル  
 者鮮ク租税ノ産出隨テ減スルカ故ニ政府ハ償還ノ約束ヲ履行セント  
 欲シテ其方法ニ乏シク天下ノ人敢テ敵視スルニ非ルモ其卿相タル者  
 ハ用度ノ困難ヲ匡救スルノ方術ヲ失フニ至ル可シ抑、世界ノ平和ニ赴  
 カントスル景況ニ方テハ概テ公信用ヲ増加スルヲ常トス然ルニクリ  
 メー戦争ノ公債ヲ募集シ得タルノ信用ニ反シテニコラス帝ノ崩御ニ  
 由リ佛國ノ取引會所ルズニ於テハ貸借ノ利子大ニ騰貴セリ夫レ人々  
 ノ屢々注目セシ如ク資本ハ一モ愛國心ヲ有スル者ニ非ルハ夫レ然リ且  
 ツ嘗テ我兵ノワテルローノ新敗ニ由リテ取引會所ノ利子大ニ騰貴シ  
 タルモ亦タ實ニ然リトス然リ而シテ敵國敗衄シ自國ノ勢力強盛ナル  
 時ニ當リテ其國內ノ利子益々騰貴スルアルハ抑、何故ソヤ蓋シ一箇ノ財  
 主カ愛國者タルヲ以テ其財産ノ一部ヲ犠牲ニ供給スルヲ有ル可シト

雖モ此ノ愛國者ガ其財産ノ殘餘ヲ貸與スルニ至リテハ忽チ確實ナル福利ヲ企圖スルモ亦タ決シテ妨ケナキヲ以テナリ  
 各自ノ信用ニハ二様アリテ一ハ其名望若クハ其供スル所ノ保証ニ關ス故ニ各自ノ信用ハ借主カ其償還ヲ保證スル爲メニ一箇ノ典物若クハ抵當品ヲ貸主ニ授付シ或ハ貸主カ其借主ノ德行ヲ景慕スルノ異アルニ從テ物件上ノ信用ト人身上ノ信用トニ區別ス而シテ商業ニ於テ貴フ所ハ人身上ノ信用ニシテ農業ニ於テ貴フ所ハ物件上ノ信用ナリ故ニ商人ハ己レノ契約ヲ結フ人ノ手署ヲ以テ足レリトシ若シ更ニ一箇ノ保証ヲ要スル時ハ大抵他ノ一人ノ手署ヲ得テ以テ其保証ヲ固フスルニ過キス然レモ其資本ノ寡少ナル貸主ハ公正ノ証書若クハ確固ノ抵當品ヲ領受スルニ非レハ其心ヲ安スルヲ能ハス  
 各自ノ身上ニ屬スル信用ニ最モ有害ナル制規ハ立法家カ負債主ノ便

益ヲ謀リテ制定セル所ノ制規ナリ故ニ負債償却ノ延期及ヒ其他之ニ類似スル恩惠ハ貸主ヲシテ大ニ其貸與ヲ難ンセシメ且ツ之ヲシテ其資本ヲ各人ニ貸與ヒスシテ他途ニ供充セシムルニ至ル故ニ宜ク負債者ヲシテ遅延ナク其負債ヲ償却スル事ニ慣レシムヘク且ツ其事ニ慣レシムルニハ之ヲシテ其償却ヲ遅延スレハ嚴刻ノ處分ヲ受ク可キ旨ヲ熟知セシムルニ在リ然リト雖モ國家騷亂ノ際ニ當リ政府ヨリ一般ノ通則ヲ設ケ商業上ニ關スル負債者ヲシテ其償却ヲ緩ニセシムルヲ許ス所ノ延期ハ之ヲ非議ス可キ者ニ非ス蓋シ騷亂ノ際ニ當リテ其償却期限ヲ緩ニセシテ其裁判ヲ宣告シ其約束ヲ執行セシムルノ重大ナル不適當ハ寧ロ其期限ヲ緩ニシテ以テ双方カ隨意ニ結定セシ契約ヲ毀傷スルノ輕少ナル不適當ニ如カサル可シ且ツ此ノ契約ハ平和ノ形勢ヲ觀テ之ヲ約定シタル者ナルカ故ニ異常形勢ノ爲メニ姑ク商

法上ノ事業ヲ停止スルモ亦應ニ双方カ會テ虞慮スル所ノ心意ニ背ク  
 一ナカル可シ  
 政府モ亦各人ト一般ニ財産ノ抵當ヲ授付スルアリト雖モ常ニ輒ク資  
 本ヲ借入スルヲ得ル者ニ非ス故ニ其抵當ノ土地カ必ス容易ニ金銀  
 ニ交換シ得可キモノニ非サレハ其望ヲ達スル能ハス嘗テ民約議院  
 ウアンシヨニ於テ寺院ヨリ沒収シタル土地及ヒ外國ニ逃脫セシ貴族  
 ナシヨナルヨリ沒収シタル土地ヲ抵當ト爲シテ巨額ノ紙幣ヲ發行セリ然レモ其  
 未タ民有ニ屬セル土地ノ即沒収ノ價值カ四十億萬ノ紙幣ヲ償フニ足ラ  
 サルヲ算知セサリシ以前ニ其紙幣ノ價格ハ早ク已ニ低下シタリキ  
 是レ他ナシ其典當ノ土地ハ當時ノ政府ニ沒入セラレタル者ニシテ若  
 シ其政府覆滅シテ他ノ政府ニ變セハ再ヒ其土地ヲ以前ノ所有者ニ還  
 付センモ亦タ知ル可カラサルカ故ナリ又他ノ一方ヨリ之ヲ觀レハ貸

主ハ何ヲ爲セハ則チ其抵當地ヲ糶賣スルヲ得可キヤ若シ國民カ之  
 チ賣却スルヲ好マシテ之ヲ拒ムキハ何ヲ以テ其國民チシテ強ヒ  
 テ之ヲ糶賣セシムルヲ得ンヤ即チ茲ニ一人アリテ糶賣ニ適當ナラ  
 ス且ツ詞訟ニ歸ス可キ所有權ノ確實ナラサル土地ヲ以テ抵當ニ授付  
 スルキハ之レニ資本ヲ貸與スル者ナキト一般ナリ  
 貨幣ニハ最貴ノ諸金屬ヲ撰用シ特ニ金貨ハ最小ノ容積ヲ以テ最大ノ  
 價格ヲ有スト雖モ若シ著大ノ巨額ヲ運搬スル時ハ亦タ大ニ不便ヲ生  
 ス可シ第一金銀貨ハ其重量ナルヲ以テ旅客ノ攜帶ニ便ナラサルヲ有  
 ラシ其他運搬中啻ニ其不便ヲ生スルノミナラス旅客ノ不注意若シハ  
 盜難等ニ由リテ其攜帶セル所ノ價格ヲ亡失スル如キ危難アリ是レ即  
 チ商業上ニ紙券ヲ用フル所ノ第一原由ナリ昔時通商ノ來往危險隨ッ  
 テ稀少ナリシ時ニ當リ商人ハ其商業上ノ要緊ニヨリテ自然ニ爲替手

形「マノダ」及ヒ「レスクリップション」共ニ爲替手形ノ類此發明ノ時日ヲ聞知セサルハ甚ク驚訝ス可キ事ニ非ス凡ツ日用ノ要緊ヨリ生スル所ノ諸般ノ發明モ亦タ之ニ異ナルコトナシ畢竟此發明ハ要緊ヨリ生シタルヲ以テ万国皆同ク此手形類ヲ製出シタルナラン然ルニ此ノ爲替手形ノ起原ヲ以テ猶太教徒ノ追放ニ歸スル者アリシト雖モ此ノ論者カ既ニダゴベル帝佛ノ治世ニ於テ此宗徒ノ第一次ノ追放アリシ時未ダ之カ爲メニ爲替手形ヲ創製セサリシコトニ注思ヲ忘レタルヤ復タ疑ヲ容レサルナリ若シ夫レ猶太教徒第二次ノ追放ノ時ニ當リ佛國ニ於テ其貨幣ヲ復収スル爲メニ此ノ爲替手形ノ方法ヲ用ヒシカ如キハ即チ是商業上ノ進歩ニ由リテ其以前既ニ創設セシ信用ノ方法ヲ追摸シタルノミ

然リ而シテ貨幣ノ不便及ヒ妨碍ヲ來タス所以ハ獨リ其運搬ノミニ止

マルコ非ス同一ノ地方ニ於テモ亦タ諸般ノ賣買上ニ唯タ貨幣ノミヲ以テ支償セハ豊ニ大ニ時間ヲ費スコトナカラシヤ其他若シ各商人チシテ必ス貨幣ヲ以テ賣買ヲ爲サ、ルコトヲ得サテシメハ各商人ハ常ニ多量ノ貨幣ヲ有セスンハアル可カラサラン果シテ是ノ如クンハ流通ノ法ニ由リテ產出ス可キ回轉資本チシテ必ス不產出ニ止ラシムルニ至ル可シ且ツ夫レ金銀貨ヲ有セサル者ハ其働作ヲ爲スコトヲ得サルヘク其原品チ有セサル者ハ又其工業ヲ行フコトヲ得サルニ至ル可シ是ノ如ク貨幣ヲ算勘スル爲メニ時間ヲ消失シ回轉資本チシテ不產出ニ止ラシメ貨幣ヲ以テ支償シ能ハサル人チシテ其工業ヲ休止セシムルハ是レ皆諸般ノ取引上ニ專ラ貨幣ヲ要スル所ノ結果ヨリ生スル所ナリ然リト雖モ此ノ類ノ不適當ハ銀行ノ設立ニ由リテ既ニ悉ク消滅ニ歸スルコトヲ得タリ



銀行モ亦タ猶ホ爲替手形ノ如ク要緊ヨリ生シタル者ナルカ故ニ何レノ時代ニ於テ之ヲ創立セシヤ詳悉ニ之ヲ知ルヲ得ス唯タ歴史ニ由リテ之ヲ徵スレハ銀行ハ十二世ノ中間即チ千百七十一年(ウエニーズ國)ニ於テ始メテ之ヲ設ケタリ然レモ若シ此銀行ヲ以テ創始ノ公立銀行ナリシト爲セハ恐ラクハ此時代前ニモ亦私立銀行ノ事業ヲ爲セシ者アリシナラン今其起原ノ如何ニ關スルヲナク茲ニ銀行種類ノ重要ナル區別ヲ爲サンニ之ヲ大別シテ農業銀行及ヒ商業銀行ノ二種トス

農業銀行(一名田地抵當銀行)ナル者ハ農業者ニ資金ヲ貸與ス今茲ニ此銀行カ通常經紀スル所ノ方法如何ヲ説明センニ凡ソ地主ノ其資金ヲ借用セント欲スル者ハ何人ヲ問ハス自カラ農業銀行ニ至リテ其事由ヲ陳述スレハ農業銀行ハ之ニ其抵當地ノ三分一若クハ其半額ニ至ルマテノ典質手形ナル者ヲ交付シ地主タルモノハ年割拂ノ契約ヲ爲ス

而シテ其年割拂ノ金額ハ三種ニ項別スルヲ左ノ如シ

- 第一 子金
- 第二 割拂母金
- 第三 手数料

此ノ年割拂ノ金額ヲ毎年還償シテ五十年間繼續スレハ資金ノ借主ハ全ク其母金及ヒ子金ノ負債ヲ免ル、一ヲ得ル而シテ此ノ典質手形ノ持主(即チ借主)ハ其手形ヲ他人ニ授付スレハ則チ時價ニ從テ金額ヲ授與ス是ニ於テ農業銀行ハ其手形ノ持主(即チ手形ヲ領収シテ金額ヲ貸與シタルモノ)ニ向テ半年若クハ一年ニ一回子金ノ支償ヲ爲ス又農業銀行ハ現金ヲ以テ直チニ資本ヲ貸與スルヲ得ル者タリ此場合ニ於テハ其銀行カ資本主ヨリ資金ヲ募集シテ更ニ之ヲ借主ニ貸與スレハ其借主カ銀行ニ對シテ償還ノ契約ヲ爲ス、一猶ホ銀行カ資本主ニ對シテ其契約ヲ爲スカコ

トシ  
 如是抵當地ノ保証アリト雖モ農業銀行ハ之ヲ試設セシ所ノ諸方ニ於  
 テ悉ク其業ヲ遂クルコト能ハザリキ蓋シ農業者ハ彼ノ仁情ヲ放置シテ  
 契約ノ執行ヲ瞬間ニ果了スルノ方法ヲ具備スル銀行ニ對シテ借入ヲ  
 爲スコト好マズ且ツ五十年後負債放釋ノ法ヲ以テ農業者ヲ引誘スル  
 モ未ダ以テ農業者ヲシテ此ノ苛刻ナル債主業銀行ノ手下ニ隸屬スル  
 コト甘クセシムルニ足ラサルナリ是ヲ以テ農業者ハ己レカ熟知スル  
 所ノ愛憐深切ナル債主ニシテ且差押ノ法律ニ照準シ負債者ノ救護者  
 ト云フヘキ緩徐煩苛ノ法式ヲ遵行セサルコト得サル債主ヲ好ム可シ  
 又他ノ一方ニ於テハ資本主タル者モ亦多クハ利子ノ高昂ナルト償還  
 ノ容易ナル故トシテ以テ商業ノ爲メニ其資金ヲ貸與スルコト好ム可シ  
 故ニ一般ニ農業銀行ヨリ多ク商業銀行ヲ設立スルニ至レリ

商業銀行ハ其初メ唯ダ商人ノ寄托ヲ受ケ之ヲ保守スル爲メニ其保守  
 料ヲ領受セリ又此銀行ハ帳簿上ノ融通方法ニ由リテ商人間ノ取引ヲ  
 爲セシメアリ故ニ此銀行ヲ名クテ寄托銀行若クハ融通銀行ト云ヘリ  
 此銀行ノ事業ハ賣人ト買人トノ双方ヲシテ貨幣ノ實數ヲ算勘スルコ  
 ト免カレンシメタリシト雖モ資本ノ活動及ヒ其分量ニ至リテハ一モ之  
 ヲ増加スルコトナカリキ  
 信用上ノ貸與ヲ爲ストハ交換價格ノ証票ヲ取リテ資本ヲ貸與スルヲ  
 云フ然レド此ノ証票タルヤ若シ速ニ金銀ニ化スルコト能ハザレバ其償  
 還期限ニ至ラサル迄ハ一種ノ死債タルニ過キス是ヲ以テ之ヲ實價ト  
 爲スニハ期限前ノ割引兌換ノ法ヲ用フルニ在リテ即チ嘗テ銀  
 行ニ於テ之ヲ施用シタリ蓋シ其方法タルヤ現ニ支償スル實貨ト定期  
 債金トノ間ニ生スル差金ノ若干額ヲ扣除シテ定期証票ノ金額ヲ支償

スルニ在リ又此ノ証票ハ各銀行ノ間互ニ之ヲ讓渡スルヲ得ル者ニシテ裏書ノ方法ニ由リテ其償還期限ニ至ル迄ハ流通スルヲ得タリキ然レモ各裏書人ハ常ニ割引ノ損減ヲ受クルカ故ニ此裏書ノ方法ヲ以テ此ノ証票ヲ流通セシムルハ甚ク多分ノ損失ヲ生スルニ至ル可キヲ以テ銀行ハ此ノ割引証票ニ代フルニ其署名ノ契約手形ヲ以テセシム此ノ契約手形ハ顯著ナル一人ノ署名ヲ帶ヒテ彼ノ顯著ナラサル許多ノ裏書人カ署名アル割引証票ニ比スレハ甚ク善ク容易ニ流通セリ蓋シ此ノ新法ハ銀行証券ノ製造ノ由テ生セシ所即チ一定ノ期限ナクシテ常ニ兌換ヲ要求スルヲ得ヘキ証票ノ由テ生セシ所ナリ且ツ其期限ヲ規定セサル約束ナルカ故ニ此ノ銀行証券ハ其持主ヲシテ兌換若クハ藏貯スル爲メニ毫モ憂慮ヲ抱クコトナカラシメタリ

フレデリック、パッシー氏曰ク銀行証券ハ輕便ノ者ニシテ之ヲ壓搾シ易ク且ツ之ヲ運搬シ易クシテ常ニ其兌換ヲ要求スルヲ得可ク且ツ其期限ヲ失フコトナシト

是ノ如ク銀行証券ハ永久完全ノ價格ヲ有シ且ツ其持主ノ不注意ニ由テ其價格ヲ失フノ恐レナキヲ以テ殆ト貨幣ト相異ナルコトナカリキ抑モ寄託ト割引兌換法ト銀行証券ノ發行トハ即チ銀行ノ進歩ニ由テ逐次ニ發明シタル三箇ノ事業ニシテ遂ニ之ヲ同一ノ銀舗ニ合併スルコトヲ得タリ初メ寄託銀行ハ寄託人ノ資本ヲ保守スル爲メニ一種ノ報酬金ヲ領受セシニ其銀行ノ愈盛ナルニ及テハ遂ニ其性質ヲ一變シ蘇格蘭、銀行及ヒ其他ノ私立銀行ニ於テハ金銀ヲ銀行ニ寄託シ銀行ヲ以テ割引兌換若クハ証券兌換ノ爲メニ其金銀ヲ使用セシムル所ノ寄託者ハ却テ若干ノ利子ヲ給與セリ是ノ如ク寄託者ハ銀行ヲシテ其金銀ヲ使用スルノ權ヲ有セシメ以テ己レノ所有權ヲ讓與スルカ故ニ

其寄托既ニ單純ノ寄托ニ非スシテ何時ヲ問ハス其償還ヲ要求スル  
 事ヲ得可キ眞正ノ貸與トナレ又或ル銀行ニ於テハ貸主ガ其償還ヲ  
 要求スルニハ豫メ若干期前ニ其旨ヲ銀行ニ報告ス可キトテ約定セル  
 者アリ此場合ニ於テハ通常此ノ約束ヲ締定セサル場合ニ於ケルヨリ  
 ハ其利子較大ナリトス英國及ヒ佛國ノ銀行ニ於テハ金銀寄托人ニ其  
 利子ヲ與フルトナカリシト雖モ蘇格蘭ノ銀行ニ於テハ百ニ付キ二分  
 半ノ利子ヲ支償セリ是ヲ以テ蘇格蘭ニ於テハ英佛兩國ニ於ケルヨリ  
 金銀ヲ寄托スル者甚ク多シテ銀行ノ變動ヲ生スルヲ幾希ナリ蓋シ  
 利子ヲ求ムル貸主ハ實ニ利子ヲ得サル寄托人ヨリハ其資本ノ償還ヲ  
 要求スルヲ速カチラサルヲ以テナリ之ニ反シテ利子ヲ得サル寄托人  
 ハ更ニ其資本ヲ他ニ稱貸スルノ機會ニ遇フヤ否ヤ直ニ其償還ヲ要求  
 ス故ニ若シ此機會ガ僅カニ一般ニ流布スルトアレバ衆人皆爭テ倫動

及ヒ巴里ノ銀舖ニ至リ寄托金ノ償還ヲ要求スル者甚ク多キヲ以テ銀  
 行ノ變動ヲ生スルヲ鮮シトセズ  
 夫ノ倫動及ヒ佛國ノ銀行ニ於テ寄托人ニ利子ヲ付與セシヨリ寧ロ其  
 株主ニ著大ノ純益分配金ヲ配與スルニ若カス時爲スカ若キハ法律ヲ  
 以テ是等ノ銀行ニ特權ヲ與ヘタルニ因レリ蓋シ英國銀行ハ倫動ノ中  
 央ヨリ直經六十五里ノ周圍内ニ銀行証券ヲ發行スル特權ヲ專有シ佛  
 國ニ於テハ銀行証券ヲ發行スル者ハ特ニ佛國銀行ニ限ルノ制度ニシ  
 テ假立政府ノ時ニ當リ總テ各州ノ銀行ヲ中央銀行(即チ佛國銀行)ノ支  
 店ト爲セリ然レバ若シ此等ノ銀行ヲ以テ競争シ制度ニ屬セシメハ果  
 シテ其株主ハ純益分配金ヲ大額ヲ得ルニ疑ヒ無カル可シ且ツ夫レ  
 資本主ヲ以テ寄托金ノ利子ヲ得ルニ疑ハ履銀行商業ノ變動ヲ生スル  
 ノ憂ナカラシム

銀行証券ハ其流通ノ容易ナルヲ以テ世人或ハ竊ニ謂ラク貿易上ノ媒介ノ爲メニ全ク此証券ヲ以テ金銀貨幣ニ代用スルヲ得ヘキナリ夫レ貨幣ハ固ヨリ產出物ヲ貿易スル媒介ノ器具タルニ過キサレハ豈ニ高價ニシテ且ツ貴重ナル金屬ニ代用スルニ革片若クハ紙葉ノ如キ殆ント無價ノ一種物ヲ以テスルヲ能ハサルノ理アラザト

此ノ説タルヤ世人ノ擯斥ヲ受クルヲ業已ニ久シ然ルニ近今ノ著書中復タ是ノ如キ説ヲ爲ス者アルヲ觀ルハ豈ニ駭クヘキコトニ非スヤ蓋シ貨幣ハ凡百ノ價格ニ普通ナル一權度アリ故ニ貨幣モ亦ク一種ノ價格ヲ有セスンハアル可カラス然ルニ夫ノ紙片ノ如キハ唯瑣小ニシテ算スルニ足ラサル一種物タルニ過キス若シ之ニ官府ノ徽号ヲ付セシメハ其紙片ノ實價ハ却テ白紙一片ノ實價ニ若カサル可シ且ツ金屬貨幣ニ付テハ其發行ノ分量ハ金屬ノ稀少ニ由テ自ラ限制ヲ受クルカ故ニ

其價值モ亦ク急遽ノ變動ヲ生スルヲナシ之ニ反シテ紙幣ノ發行ハ唯政府ノ智慮ニ由テ之ヲ限制スルノミ故ニ若シ政府貧困ノ景況ニ迫ルキハ紙幣製造ノ容易ナルヲ以テ放ニ之ヲ發出スル有ランコト世人ノ危懼スルハ理ノ當ニ然ルヘキ所ナリ若シ果シテ政府ヲシテ是ノ如キ景況ニ陥ラシメハ通用紙幣ノ價格ノ低下ハ當ニ何レノ點ニ底止スヘキヤ且ツ良貨幣ヲ與ヘテ惡紙幣ノ償還ヲ得ル所ノ債主ノ破産ハ當ニ何レノ點ニ底止スヘキヤ

フレデリック、バッチー氏ノ著セシ經濟篇ニ曰ク若シ証券ノ兌換ヲシテ確實ナラザラシメハ其証券ハ世人ノ愛顧及ヒ信用ヲ受クルコトナカラシテ若シ証券ヲシテ其賴ル所ヲ失ハシメハ復タ何用ヲ爲スコト有ラザト

夫レ佛國銀行ハ確實堅固ナリト雖モ外國ニ於テハ佛國銀行ノ証券ヲ

領受スル者アルヲナシ又内國ニ於テ世人カ此ノ証券ヲ領受スルハ其  
 要求ニ從ヒ其兌換ノ確實ナルニ由ルト雖モ若シ其証券ノ兌換確實ナ  
 ラサレハ世人直ニ之ヲ棄擲ス可シ假令ヒ然ラサルモ其價格ノ低下ス  
 ルヲ觀ル可シ且ツ若シ少シク憂懼ス可キヲ有レハ衆人皆爭テ銀行ニ  
 趨リ其兌換ヲ要求ス是時ニ當リ苟モ其兌換ノ遲延スルアラハ証券ノ  
 持主ハ其望ヲ失ヒ往々之ヲ廉價ニ賣却スル者アラン若シ夫レ千八百  
 四十八年ノ法律ヲ以テ銀行証券ノ通用ヲ強要シ其成效ヲ得タリシハ  
 專ラ佛國銀行カ其証券ノ兌換ヲ清完スルニ貨幣ノ不足ナキヲ世人ニ  
 知ラレ隨テ其信用ヲ失ハサリシニ由ラスンハアラス然レモ若シ此銀  
 行証券ノ強要通用ヲシテ經年彌久ナラシメハ孰レカ其結果ノ如何ヲ  
 識ルヲ得ンヤチユルゴ一氏云ヘルヲ有リ曰ク若シ証券ヲシテ金銀貨  
 ノ價格ヲ有セシメハ何ヲ以テ兌換ノ約束ヲ爲スヲ要センヤ若シ又証

券ヲシテ貨幣ノ代用タルヲ得セシメハ何ソ信用ニ賴ルヲ用ヒン  
 ヤラウ氏英ハ善ク此理ヲ覺知セル人ニシテ我カ通用証券ハ眞ニ一種  
 ノ貨幣ナリト明言シ此ノ貨幣ハ金銀ノ貨幣ニ異ナラサルヲ主張セ  
 リ然レモ同氏竊ニ謂ヘラク銀行証券ハ金銀ノ價格ヲ揭示スル者タル  
 カ故ニ其証券ノ本性ハ即チ之ヲ以テ金銀ニ兌換ス可キ者タリ而シテ  
 總テ他ノ信用モ亦タ然リ何トナレハ若シ金銀ニ向テ紙片ヲ與フル  
 ナ得ハ則チ何ソ信用ヲ須ンヤ且ツ夫レ此ノ如クナレハ則チ何ソ財產  
 ナ○以○テ○君○主○ノ○做○所○ニ○任○ス○ル○ニ○異○ナ○ラ○ン○ヤ○ト○  
 或人ノ觀察ニ從ヘハ銀行ニ於テ發行スル証券ハ割引拂ノ分量ヲ超過  
 スルモノニアラス而シテ其証券ノ保証タル者ハ其金庫ニ貯藏セル所  
 ノ金額ニ非スシテ確實ニ且ツ容易ニ流通シ若クハ金銀ニ交換シ得ヘ  
 キ商用上ノ各種ノ手形ニ在リト



得ハ一種ノ起業ニ由リテ得ル所ノ總額ノ產出物ヨリ成ル者ニシテ毫モ產出上ノ雜費ニ應スル扣除ヲ爲サ、ル者トス純益所得ハ之ニ反シ職工ノ給料、原品ノ代價、資本ノ利子及ヒ地主ノ所得タル地子ノ如キ諸雜費ヲ支償シタル後ニ剩餘スル所ノ產出物ニ過キス是ニ由テ之ヲ觀レハ起業者ノ爲メニ產出雜費ノ一部タル所ノ者ハ他人ノ爲ニハ一種ノ純益所得タルヲ知ルヘシ今一例ヲ舉ケテ之ヲ云ヘハ佃夫ノ其地主ニ支償スル所ノ地子ハ其佃人ノ爲ニハ產出雜費ノ一部タリト雖モ地主ノ爲ニハ其地子ハ即チ地主ノ純益所得ヲ成スカ如キ是レナリ贏餘所得ハ上等社會人カ其意思ヲ満足スル爲ニ供充シ得可キ者ニシテ即チ儉德アル所有主カ其所好ニ從テ或ハ之ヲ施恩ノ救恤及ヒ藝術保護ノ用ニ供シ或ハ之ヲ貯蓄シテ資本ト爲スヲ得可キ者タリ

農業上ニ就テ之ヲ云ヘハ產出物ハ一人ノ手ニ會東シタル三箇ノ元素

ヨリ來ルヲ往々鮮カラス故ニ我輩ノ達シタル如キ開化進歩ノ國ニ於テモ亦タ小農夫ハ土地ノ所有主ニシテ器具ノ持主ト爲リ且ツ自ラ職工ノ業ヲ爲ス者アリ是レ特ニ小農ノ國ニ於テ多ク觀ル所ナリ然レモ大農ノ地方ニ於テハ資本、業作、土地ハ各異ノ權理者ニ屬スルヲ以テ產出物ノ發出スル亦此各人ニ由ラサルヲナシ

地子ハ大ニ金利ノ程度ニ關スル者コノ之ヲ比較スレハ猶ホ彼ノ權衡ノ兩盤カ錘子ノ所在ニ從テ其昇降ヲ爲スカコトシ故ニ若シ金銀貨饒多ニシテ其利子低下スレハ不動産ノ貸附ハ最モ貴重ス可キ貸附ト爲ルヲ以テ其地子隨テ騰貴ス之ニ反シテ金銀貨寡少ニシテ其利子騰揚スレハ動産即チ金銀貨ヲ貸附スルヲ以テ大ニ利アリトス是レ地子ハ供給及ヒ要求ノ法則ニ屬スル者ニシテ此法則カ地子上ニ影響ヲ生スルヤ貨幣ノ多寡ニ準スルノ謂ヒナリ是ヲ以テ或ハ唯金銀貨ノミチ所有ス



ルハ之ヲ得策ト謂フ可カラズ若シ財産ノ一方ノミヲ所有スル時ハ宛  
 モ「パスキュール」遊具ノ高下ヲ爲スカ如ク或ハ其所有主ノ繁榮ヲ減却シ  
 或ハ之ヲ増盛スルコト有リ故ニ財産ヲ整備スル一良法ハ動産ノ貸附ト  
 土地ノ貸附トヲ兼用スルニ若クハナシ此方法ニ由レハ殆ント永遠一  
 定ノ所得ヲ保續スルコト得ベク且ツ共同經濟ノ變換ニ付テ一モ憂懼  
 ナク抱クコトナカル可シ然レモ若シ已ムコトヲ得ス此兩者中ノ一者ヲ除去  
 セスンハアル可カラサルキハ予ハ家産中土地ノ所有ヲ以テ勝レリト  
 ス何トナレハ不動産ノ價值ハ通常低價ニ傾向スルヨリハ高價ニ傾向  
 スルコト多キヲ以テナリ  
 供給及ヒ要求ノ法則ハ永久ノ時月ヲ經過シ若クハ急遽ナル著大ノ變  
 動アルニ非レハ地子上ニ其影響ヲ生スルコトナシ何トナレハ地子ハ慣  
 習ノ制限ヲ受クル者タルカ故ニ其係累ヲ免カル、爲ニハ多少ノ時間

ヲ費ス可キヲ以テナリ例ヘハ佃作ノ時價ハ舊來「エクダール」毎ニ五  
 十「フラン」ナリト爲セハ供給及ヒ要求ノ些少ナル變換ハ以テ此ノ慣習  
 ノ時價ヲ動搖スルニ足ラサル可ク其之ヲ動搖スルノ結果ニ達スルニ  
 ハ必ズ永久ノ時月ヲ費シ若クハ急遽ナル一大變動ヲ要ス可シ又タ收  
 穫分配小作法ノ流行スル地方ニ於テモ亦然リト是ヲ以テ假令ヒ  
 分配小作人ノ數或ハ減却シ或ハ増加スルコト有リト雖モ其慣習ニ由テ  
 立定セル分配ノ比例ハ尙ホ永久ノ時日間其地主ト分配小作人トノ間  
 ニ保續ス可ク且ツ其契約ヲ爲シタル双方カ互ニ敢テ其慣習ニ背反セ  
 ン意見ヲ説出スルコト勿ル可シ何トナレハ一般ノ慣習ヲ引證セル辨論  
 ニ由テ直ニ擯退セラレシコト恐ルヲ以テナリ然リ而シテ此慣習ヲ引  
 証スルノ辨論タルヤ何レノ地方ヲ問ハス皆其効ヲ生スル者ニシテ特  
 ニ佛國ニ於テハ其他國ニ於ケルヨリハ最モ甚シトス是レ他ナシ佛人

ハ之ヲ皮相スレハ動搖ヲ好ミ變革ヲ愛スルカ如シト雖モ其實ハ甚ク慣習ニ束縛セラレ、ヲ以テナリ予カリカルドー氏ノ説ニ從テ既ニ説示セシ如ク地子ハ其地專有ノ價値ニシテ人民ハ其増殖スルニ從ヒ瘠土ノ收穫其雜費ヲ償フニ足ラサルニ至ル迄ハ其耕作ノ業ニ從事シ而シテ土地ノ收穫其耕作ノ雜費ヲ償フニ足ラサルニ至リテハ其土地ハ毫モ地子ヲ生スルコトナク通常其地主自ラ之ヲ耕サ、ルコトヲ得サル者ナリ然レニ精密ナル計算ニ就テ之ヲ觀レハ土地ノ收穫カ既ニ其耕作ノ費用ヲ償フ可カラサルモ亦猶ホ之ヲ耕作スル者アリ

此計算ハ嘗テセー州内ノ地租平均賦課ノ時ニ當リ同州ノ公證人ハトビー氏ノ著セシ地租平均賦課ニ關スル小冊中ニ見ユ其計算ニ從ヘハ第三等ノ土地ヲ耕作スル爲メノ雜費ハ少クモ第一等ノ土地

ヲ耕作スルタメニ要スル所ノ雜費ト同一ナルヲ以テ其收穫反テ雜費ヲ償フニ足ラスト耕作地ノ畧表

耕作雜費ノ除去	殘餘金	收穫費七分一ノ引去	總計所得	一エクタリト付				
				第一等	第二等	第三等	第四等	第五等
六十、	百三、	十七、	百二十	九十九	六十	三十	十四	
六十、	七十七	十三、	九十	六十	五十二	二十六	十二	
六十、	五十二	八、	六十	三十	四	二		
六十、	二十六	四、	三十	十四				
六十、	十二	二、	十四					

純益所得	損失
、四十三	○
、十七	○
○	、八
○	、三十四
○	、四十八

蓋シ耕作人ハ上等地、中等地及ヒ下等地ヲ同時ニ耕作シ其各地ノ產出物ヲ別異ニ算スルコトナク產出物ノ總額ニ依リテ以テ其生計ヲ營爲ス是レ其第一因由ナリ分配小作人ト小農夫ト半主半僕ミイトルカレ若クハ備役職工ニ由リテ其土地ヲ耕作セル地主トト問ハス皆均ク四時ノ別ナク閑暇ノ時ト雖モ亦猶ホ多事ノ時ニ於ケルカコトク常ニ其力ヲ竭クシテ專ラ其耕業ニ従事ス是其第二因由ナリ多口ノ農家特ニ分配小作人ノ家ニ於テハ往々其愚昧ニ由ルト雖モ常ニ間斷ナク艱辛ノ業作ヲ爲シ其慣習ニ仍リテ一モ苦勞ノ情態ヲ顯ハスコトナク若シ一年ノ終尾ニ當リ

其耕作セル總地ノ產出ハ假令ヒ其負債ヲ免ル、コトニ足ラサルモ僅ニ其粗惡ナル養料ノ雜費ヲ償フコトヲ得レハ亦以テ至大ノ幸福ト爲ス是レ其第三因由ナリ勉勵持久ノ業作即チ艱苦ノ業作ニ由リテ惡地ヲ改良シ永久時間ノ後ニ至リ遂ニ之ヲ肥沃ノ地ニ化スルコトヲ得ルハ即チ業作人農夫ノ冀望スル所ニシテ又以テ其德行ヲ固守保續スルニ足ル者アリ是レ其第四因由ナリ又地主タル者カ其性風雅ヲ好ミ特ニ費用ニ供充ス可キ資金ヲ有スルハ其損失ノ眼前ニ在ルヲ知ラス且ツ經濟學家及ヒ統計學家ノ如ク精密ノ計算若クハ單純ノ計算ヲ爲スコトナク唯其土地ノ雅致勝景ヲ目撃スル爲ニ之ヲ耕ス者往々鮮カラス是レ其第五ノ因由ナリ

此一段ハ予カ父ノ著セシ小冊子中ヨリ引用シタル所ナリ又ジョン、スチヤアル、ミル氏言ヘルコト有リ曰ク實ニ小作人ニ貸與ス可カラスシテ

獨り其地主ノ所用ニ供ス可キ土地鮮シトセスト  
抑地子ハ國民ノ所得上ニ幾分ノ増加ヲ爲ス者タルカ或人ノ説ニ曰ク  
絲毫モ増加ヲ爲スコトナシ何トナレハ則チ地子ハ小作人ノ地主ニ支償  
スル所ニシテ地主ノ得ル所ハ即チ小作人ノ失フ所タルヲ以テナリト  
リカルドー氏ノ著書中ニ亦タ此説アルヲ見ルハ世人ノ駭愕スル所ニ  
シテ此説タルヤ獨り地子ニ關スルノミナラス工料及ヒ資本ニ付テモ  
亦之ヲ施用スルコトヲ得可シ抑產出ノ三官ヲ區別スルキハ甲者ノ稱貸  
ハ乙者ノ負債ト爲ルハ實ニ然リ然レハ則チ此説ヲ推擴セハ地子工料  
及ヒ資本ノ利子モ亦皆毫モ共同ノ富有ヲ増加スルモノニアラスト謂  
ハサルヘカラス然レモ若シ富有ハ此三官ノ外別ニ其源ヲ取ル所ナキ  
コトヲ識得セハ其結論タル豈ニ奇怪ノ言ニ非スヤ故ニ最モ妥當ニ之ヲ  
論スレハ地子モ亦宜シク工料及ヒ資本ノ利子ト一般ニ共同富有ノ一

部ヲ構成スル者ト爲スハシ譬ヘハ地子ハ猶ホ一箇ノ水溝ノコトキ者  
ニシテ共同富有ハ此水溝ニ由リテ流注シ各種ノ產出人ノ間ニ分配ヲ  
爲ス者タリ

ギーヨムロスセー氏ノ説モ亦之ニ異ナルコトナシ

此地ノ產出物ト同一ノ品位ヲ得ンカ爲ニ大ニ耕作ノ勞ヲ竭スモノア  
リト雖モ他所ニ於テ之ヲ產出スルコト能ハサルキハ則チ其品位ハ地子  
上ニ著大ノ影響ヲ生スルコトヲ得ル者タリ故ニ葡萄ヲ生スルニ最良ナ  
ル土地ハ其產出物ノ品位ニ屬セル專有價值ニ由テ其地子自然ニ騰貴  
セズンハアルヘカラス佛國ノ南部ニ於テハ其地質大ニ葡萄ノ耕植ニ  
適スルカ故ニ葡萄ヲ耕植センカ爲ニ漸次ニ穀物ノ耕植ヲ廢止スル地  
方ヲ觀ルコト有リ然レモ其土地ヲ區分スル甚タ小ナルヲ以テ此改作ハ  
不幸ニシテ之ヲ完了スルコト能ハス何トナレハ小地主ハ其新ニ栽樹シ

タル植物カ充分ノ收穫ヲ得ル爲ニ必要ナル所ノ六年間若クハ八年間  
 ノ所得ヲ棄擲ス可キ生活ノ方法ヲ有セサルヲ以テナリ  
 アダムスミッツ氏ハ耕植地ノ地子ヲ算勘シテ總計產出ノ二分ノ一ト  
 爲シ炭礦ノ地子ヲ以テ十分ノ一若クハ十五分ノ一ト爲シ鉛礦若ク  
 ハ錫礦ノ地子ヲ以テ六分ノ一ト爲シ且ツペルノ銀礦ノ地子ヲ以  
 テ十八分ノ一ト爲シ其金礦ノ地子ヲ以テ二十分ノ一ト爲セリ  
 又硬瘠不毛ノ土地ト雖モ其位地ノ便益ナルニ因テ高價ノ地子ヲ生ス  
 ルト有リ實ニ巴里府内ノ土地ハ其品位ヲ論スレハ之ヲ良地ト謂フベ  
 カラス然レモ家屋ヲ造營セサル空地アレハ材石集積場ト爲シ巨大ノ  
 價値ヲ以テ之ヲ貸與スルヲ得ベシ且ツ用需人ノ稠多ナルヲ以テ中  
 等ノ土地ト雖モ一大價値ヲ生スルヲアリ然ルニ通行ノ道路ニ離隔シ  
 タル土地ハ假令ヒ最良ノ地ト雖モ容易ニ之ヲ佃夫ニ貸與スルヲ得

ス然レモ通行ノ道路忽チ開ケ貨物ノ運搬大ニ便利ヲ得ルニ至リテハ  
 即チ其地子ノ騰貴スルヲ見ルヲアラシ  
 地子ノ増加ハ通常其土地貿易上ノ價格ヲ騰貴ス蓋シ土地ノ買入ハ資  
 本ノ貸附ニ外ナラス故ニ地子騰貴スル時ハ資本ヲ出ス者多ク資本過  
 多ナレハ土地買入ノ價位ヲ騰貴スルハ自然ノ結果ナリ然レモ此結果  
 タルヤ必然免レ難キ者ニ非ス嘗テ巴里ニ於テ之ニ反對セル例證ヲ觀  
 シトアリ巴里ニ於テ家宅ノ借料高價ノ度ニ上リシ時ニ當リ其家宅ノ  
 價値ハ反テ低下ナリシトアリテ競賣場アウヂアンスニ於テ大ニ有利  
 ノ商業ヲ爲セシ者アリキ此ノ參差ナル景況ノ由テ生スル所以ノモノ  
 ハ他ナシ蓋シ當時ノ商人ハ其資本ヲ確固タル貸附ニ供充スルヲ求ム  
 ルトナク專ラ相場商賣ニ熱中セシヲ以テ資本ハ悉ク取引會所ニ輻輳  
 シ其資本主タル者ハ其資本ヲ以テ不動産ヲ買入センヨリハ寧ロ之ヲ

以テ動産ヲ買入シ常ニ之ヲ使用ス可キニ若カスト爲セリ故ニ家宅ノ  
 價値ハ低下ナリシト雖モ然レモ其住民ノ稠衆ニシテ貸家ヲ要求スル  
 者ノ居多ナルヲ以テ家宅ノ借料ハ低下スルヲナクシテ反テ騰揚スル  
 ヲ致セリ

キーユムロスセー氏ノ言ニ曰ク或人ノ觀察ニ據レハ白耳義ノ諸州ニ  
 於テハ各一種特別ナル經濟ノ狀況ヲ現出シ其平均ナル小作料即チ  
 地子ハ或ハ其地方ノ益肥沃ナルニ從ヒ其土地買入ノ價値ニ比準ス  
 レハ益鮮ナク或ハ其住民ノ益稠密ナルト自耕ノ地主ヨリハ小作人  
 ノ益衆多ナルトニ從テ益鮮ナキ者アリ蓋シ此ノ狀況ハ開進ノ高度  
 ト相離ル可カラサル者ニシテ其地子ノ低下ナルハ即チ開化進歩ノ  
 結果ニ關スル者タリト

地子ハ通常土地買入資本ノ利子ヨリ減スル者ニ非スト雖モ亦往々其

資本ノ利子ノ半額ニ均シキ數額ヨリ下ル者アリ故ニ此ノ如キ場合ニ  
 於テハ地主ノ其土地ヲ小作人ニ貸與シテ其地子ヲ得ルヤ百分ノ二半  
 若クハ三ニ過キス若シ之ヨリ騰貴スルモ決シテ百分ノ四ニ過クル者  
 ナシ是レ他ナシ其資本貸附ノ確固ナルト特ニ地主カ其土地ノ景勝ヲ  
 好嗜スルト農夫カ其土地ヲ愛戀スルトニ由リ且ツ夫ノ小農夫ノ如キ  
 ハ其所有地ニ接近スレハ狹少ナル畸零ノ小地タモ之ヲ他人ノ所有ニ  
 歸セシムルヲ欲セス總テ其所持セル所ノ金銀貨ヲ投シテ之ヲ買入  
 スヘク若シ又金銀貨ノ餘蓄ナキ時ニ際シテハ其所有地ヲ廣大ニスル  
 ヲ得可キ好機會ヲ失ハンヨリハ寧ロ金銀ヲ借入シテ其一生ノ疾苦  
 チ甘スルニ若カスト爲ス者アルニ由レリ然レモ之ヲ要スルニ地子ノ  
 此點ニ達シタルノ結果ハ專ラ開化進歩ノ時代ニ於テ常ニ觀ル所ノ金  
 利ノ低下ニ緣因スル者タリ

各國社會ノ始メニ於テハ地子及ヒ土地賣買ノ價值甚タ下廉ナリ故ニ中古ノ時代間ハ土地貸借ノ價值實ニ低下ニシテ徒ニ土地ニ對シ一種ノ謝意ヲ表シタルニ過キサルノミ魯細亞ノ如キハ輒今ニ至ル迄其臣民ノ員數ノ比例ニ關スルノ外ハ復タ土地ヲ貴重スルコトナカリキ抑社會ノ開化ニ由テ地子ノ騰貴スル所以ハ啻ニ金利ノ低下スル故ニ由ルノミナラス開化ニ由リテ人民ノ増殖セルト交通道路ノ開通セルトニ從ヒ亦タ此點ニ至ルコトアリ夫レ一般ニ農業ノ改良スル時ニ當リテハ之カ爲メニ地子騰貴ノ進動ヲ停止セントスルノ勢アリ何トナレハ農業ノ改良ハ產出物ノ分量ヲ増加シ其供給饒多ナルヲ以テ遂ニ其價值ノ下落ヲ生スルコト有レハナリ然レモ產出物ノ下落久シキヲ經レハ又タ之ニ由テ人民ノ繁殖ヲ致サ、ルコト幾希ナリ此時ニ至リテハ產出物ヲ要求スル者益多キヲ以テ又將ニ一時供給ノ饒多ナルニ由リテ生出

セシ所ノ結果ヲ消滅スルコトアラソ 人民増殖ノ法則ニ關シテハ予將予カ既ニ說示シタル如ク地子ハ土地ノ專有ヨリ生出セル者タリ然レハ則チ地子ヲ排斥シテ之ヲ廢棄セントスルハ以テ條理ト爲ス可キヤ曰ク否決シテ之ヲ條理ト爲スヲ得ス夫レ天地ノ間ニハ閑暇無事ノ人アルヲ以テ善シトス蓋シ此閑暇無事人中ニハ或ハ鄙惡的ノ事項ニ滿意スル爲ニ其資財ヲ用フル者アル可シト雖モ亦自ラ最モ高尙ナル趣致ヲ養成スルコトニ從事シテ以テ學識紳士ヲ造出スル所ノ者ハ獨リ彼ノ閑暇無事人ニ限レルヲ以テナリ若シ此ノ學識紳士ナキハ開化ノク進歩ナシ唯タ小地主及ヒ小工業人ノミヨリ組織セル一國民ニシテ宛モ人体ノ頭首ナキカ如クナラシムルコトイフ氏言ヘルコト有リ曰ク凡ソ權利ノ不同ナルハ一モ弊害ト爲スヘキ者ニ非スシテ權利ノ不同ハ人民ノ爲ニ一種ノ幸福ナリ仁人智者カ總テ人心ノ元素ヲ育成セル所

ノ恩惠ナリ若シ權理平等ニシテ人々各其土地ヲ耕作セハ人民社會ハ  
 何ヲ以テ存スルヲ得ンヤ又タ各人チテ皆其家宅ヲ造營シ若シハ  
 其衣服ヲ裁製セスンハアル可カラサラシメハ則チ誰カ有用ナル技術  
 チシテ進歩セシムル者アラシ誰カ不具者ヲ救恤スル者アラシ誰カ精  
 神ノ靈光ヲ發達スル者アラシ誰カ國民ノ風俗ヲ陶冶スベキ私家ノ教  
 育若クハ一般ノ教育ヲ誘導スル者アラシ誰カ強惡ノ者ヲ勒制シテ弱  
 者ヲ庇翼スル者アラシ故ニ是ノ如クナラハ予將ニ竊ニ嘆シテ曰ハシ  
 トス嗚呼自由アリト雖モ世人恐クハ其自由ヲ得ルニ堪ヘサラン同等  
 ノ權理アリト雖モ世人恐クハ其同等ノ權理ヲ得ルニ能ハサラント

第二章 工料

物品產出ノ第二官ハ即チ業作ニシテ其業作ノ報酬ハ之ヲ名ケテ工料  
 ト云フ而シテ工料ハ地子及ヒ資本ト一般ニ供給及ヒ要求ノ法則ニ屬

スル時チ以テ收穫ノ時ニ當リ衆人皆動作ヲ要スル時ハ日給ノ價值大  
 ニ騰貴スト雖モ之ニ反シテ冬時無事ノ日ニ至レハ其價值大ニ下落ス  
 ギーコム、ロスセー氏曰クライプジックノ地方ニ於テハ村野ノ日傭人  
 ハ通常平均八「シルブルグロス」大約一ノ工料ヲ得ルト雖モ收穫ノ時  
 ニ於テハ十「シルブルグロス」一フラン二十ノ工料ヲ受ク故ニ其平常  
 ノ工料モ亦タ收穫時間ノ工料ト均ク頗ル高價ナリトス然ルニ英國  
 ニ於テハ收穫時ノ工料ハ平常ノ工料ニ倍シ獨乙ノ東フリース  
 ルノ一ニ於テハ平常ノ工料ハ八「ボンクロス」一フラン二十乃至十「ボ  
 ンクロス」一フラン五十ナリト雖モ收穫時ノ工料ニ至リテハ二「ルタ  
 イル」七フラン五十ニ至ルヲ有リト

或ル地方ニ於テハ農夫ノ都邑ニ移住スル者多キヲ以テ田舎間ノ住民  
 寡クシテ耕作ノ爲ニ必要ナル職工ノ不足ヲ見ルヲアリ是ヲ以テ地主



タル者ハ其位地ヲ保持スルヲ能ハスシテ肥沃ノ土地ヲ有スト雖モ一  
 モ其用ヲ利スルヲ能ハス若シ假令然ラサルモ職工ノ工料高價ナルカ  
 爲ニ其利益大ニ減縮セルヲ有リ故ニ此クノ如キ地方ニ於テハ他ノ地  
 質ノ下等ナル地方ニ於ケルヨリ土地ノ價值大ニ低下ナリ  
 工料ノ定則ハ通常職工及ヒ其家人ノ養給ノ雜費ヲ超ユルヲナシ然レ  
 モ亦其家人ノ生計ヲシテ中等家人ノ生計ニ比例セシムルヲ要スル  
 ヲ有リ抑此說タルヤ養料ノ高價ナル時ニハ職工ノ工料モ亦大ニ騰貴  
 セル英國ノ例ニ由リテ之レヲ觀レハ確定不易ノ說タリト雖モ合衆國  
 ノ狀態ヲ外見スレハ必ス反對ノ說タルコ似タリ實ニ合衆國ニ於テハ  
 職工ノ工料ハ大ニ高價ニシテ世人ノ生計ハ甚ク下廉ナルヲ見ルヲ有  
 リ故ニコクラン氏ハ其信用及ヒ銀行論中ニ此合衆國ノ例証ヲ舉ケテ  
 以テ工料ハ資本ノ饒多及ヒ稀少ニ關セルヲ證明セリ然レモ此合衆

國ノ例證ヲ舉ケタル論說ハ以テ確證ト爲スヘキ者ニ非ス何トナレハ  
 此合衆國ニ於テハ其人口増殖スルモ其工料ヲ低下スルヲナシ其土地  
 未ダ全ク耕作セサル者アリテ其荒蕪ノ地ハ以テ人口ノ増殖ニ供ス可  
 キヲ以テナリ抑養給ノ雜費ニ準シテ工料ノ高低ヲ爲スハ人口ノ増減  
 ナリ以テ其原則ト爲ス故ニ其人口増減ノ法則カ自然ニ由ラスシテ例外  
 ニ活動スル所ノ地方ニ於テ工料定則ノ明證ヲ觀ル可カラサルハ固ヨ  
 リ驚怪ス可キニ非ス若シ夫レ資本ノ饒多及ヒ寡少ノ大ニ工料上ニ影  
 響ヲ生スルト爲スハ真正ノヲナリトス何トナレハ業作ヲ要求スルハ  
 資本ノ多寡ニ管スルカ故ナリ然レモ此ノ資本ノ影響力ヲ認識スルカ  
 爲メニ總テ工料ノ變動ノ歸向スル所ノ樞軸 即チ工料ヲ高低スルヲ撰  
 減スルヲ要セサル可シ  
 故ニ養給ノ雜費ハ即チ一箇ノ樞軸ノ如キモノニシテ日給價值ハ其周

園ニ於テ變轉スル者アリ若シ工料ヲシテ養給ノ雜費ヲ償フニ足ラザラシメハ職工ハ更ニ一種有利ノ職業ニ轉從ス可シ而シテ其職工ノ棄擲シタル工業中ノ餘地ハ其殘留スル職工ノ益ヲ爲ス可キニ因リ其工料ハ反テ生活上ノ必要外ニ騰貴シ人口ハ其生活ノ容易ナルカ爲ニ大ニ繁殖ニ傾クコト有ラシ蓋シ工料ハ屢變更スル者ナルモ其工料カ養給ノ雜費ト對稱スル時ハ其工料ヲ競求スル者ハ幾希ナリ然レモ養給ノ雜費ハ工料ノ常ニ復歸スル所ノ正鵠ニシテ猶ホ動搖セル秤盤ノ終ニ平均ヲ得ルカコトク又猶ホ取引會所ニ於テ時價高低ノ變動ノ終ニ一  
百ノ數ニ歸着スルカコトシ  
生活上ノ必要ト稱ス可キ者ハ又々決シテ一定不易ノ者ニ非スシテ其必要物ト贅物トノ界限ハ時代ト邦國トニ由リテ變更シ又一國內ニ於テモ各地方ニ從テ變更スルコト有リ故ニ昔日ノ職工ハ常ニ其職業ノ服

ヲ服セシト雖モ今日ノ職工ハ少クモ日曜日及ヒ其他ノ祭日ニハ常人ノ服ヲ服シ黒帽ヲ冠シ長服ヲ着シ且ツ都邑間ノ職工ハ肉ヲ食シ茄菲及ヒ麥酒ヲ消費ス而シテ此華美ノ風ハ將ニ漸ク傳播シテ村野ニ及ハントス英國ニ於テハ之ヲ佛國ニ比スレハ其必要物ト爲セル者甚タ多ク又佛國ニ於テモ巴里ト其他ノ地方トヲ比較スレハ他ノ地方ニ於テハ華美ニ屬セル者ニシテ巴里ニ於テハ之ヲ日用缺ク可カラサル者ノ如ク視ルコト有リ故ニ州内ニ於テハ市民ノ満足セル者ト雖モ未ダ以テ倫動及ヒ巴里ノ職工ノ必要物ヲ充スニ足ラサルナリ  
又々業作ノ養給ノ雜費ヲ以テ其工料ノ標準ト爲サスシテ單ニ供給及ヒ要求ニ應シテ其工料ヲ規定スル者アリ此類ノ業作ハ即チ一種別異ノ精巧ヲ要スル所ノ業作ナリ故ニ是ノ如キ業作ノ供給ハ自ラ甚タ希少ナル可キヲ以テ其職工ノ日給ハ其業作ノ精巧ニ準シテ高價ノ辨償

ヲ要セスノハアル可カラス又人ノ嫌惡スル所ノ職業ニシテ若シ格外ノ利益ヲ以テ其職業人ノ犠牲ニ報償スルコト非サレハ其厭惡ス可キ所ヲ甘シテ之ヲ爲スコトヲ欲セサル如キ職業ニ付テモ亦之ト同一ナリトス之ニ反シテ世人ノ喜ヒテ爲ス所ノ事業ニシテ偏ニ富者ノ欣慕シテ從事セル事業ノ如キハ其業ヲ爲ス者ヲシテ高價ノ工料ヲ得ルコト能ハサラシム是ヲ以テ文人學士ノ如キハ善ク其富ヲ致ス者鮮ク猶ホラシ  
 ンス氏ノ言ヒシコトキ者アリ曰ク著述者ノ職業ニ次テ痛嘆ス可キ職業ハ未ダ出版者ノ職業ヨリ甚シキ者ハアラサルナリト  
 又一種ノ職業アリテ之ニ從事スル者ヲシテ其危難ヲ冒サシメ且ツ其職業ノ性タル其成功ヲ必トス可カラサルヲ以テ其業作ノ價值ヲシテ騰貴ナラシムル者アリ是レ畜ニ此ノ類ノ職工ハ其冒ス所ノ危險ヲ代償ス可キ一箇ノ褒賞ヲ要求スルニ因ルノミナラス其危險ハ小膽人ノ

魂ヲ消セシメ以テ其業作ノ供給ヲ稀少ナラシムルカ故ニ其工料自ラ騰貴セサルヲ得サレハナリ又タ泥匠サワリ及ヒ瓦工ノ如キハ其事業ヲ爲スニ間斷休憩ノ多キヲ以テ其業作ヲ爲ス時ニ於テ其工料ノ増給ヲ得テ以テ雨天ニ當リ其業作ヲ爲スコトヲ得サル時間ノ生計ヲ保續セスノハアルヘカラス此ノ後段ノ一説ハ特ニ遊歴人及ヒ游泳人ノ屢赴ク地方ノ旅行案内記ヲ援引シテ以テ之ヲ證スヘシ蓋シ旅行ノ時節ハ甚ク短キヲ以テ旅行人ハ必ス其旅行案内記中常用ノ俚諺ニ從ハサルヲ得ス曰ク旅行人ハ冬春ノ全部及ヒ秋ノ一部ヲ併セテ夏時ニ於テ其旅行ヲ終ヘンコトヲ要スト  
 然レモ亦嫌惡スヘキ職業若クハ經濟上ノ危難ヲ冒ス所ノ職業ニ其報酬ハ相當ノ價值ヨリ甚ク下等ナル者アリギ一ニム、ロッセー氏云ヘルコト有リ曰ク業作ノ難易ト工料ノ昂廉トノ權衡ハ貧富ノ別ナク同平線

ニ居ル一社會カ從事スル所ノ事業ニ於ケルニ非サレハ其平均ヲ保ツ  
 ヘキ者ニ非ス蓋シ最モ艱苦ニシテ最モ嫌惡スヘキ業作ト雖モ工料ノ  
 如何ヲ問ハス之ヲ受領シテ以テ自ラ満足セサルヲ得サル人ニ於テ  
 ハ是ノ如キ業作ヲ以テ己レノ分ト爲スト往々鮮カラスト然リト雖モ  
 又業作ノ供給其要求ニ超過セル地方ニ於ケルニ非サレハ決テ是ノ如  
 キノ現象ヲ生出スルヲナシ何トナレハ之ニ反對セル景況ヲ生スルヤ  
 否ヤ職工ノ甘シテ些少ノ工料ヲ受ケテ以テ自ラ満足スル者ハアラサ  
 ル可ク且ツ貧困人ノ最モ下等ナル者カ直チニ此景況ヲ占領スヘキヲ  
 以テナリ

又タ一理勢ノ宜ク注目スヘキ者アリ是レ即チ慣習ナリ夫レ慣習ハ經  
 濟上ノ景況カ既ニ全ク變更セル後ニ於テモ雇主ト職工トノ間際ノ關  
 係ヲ維持シテ久シキニ至ル者ナリ且ツ夫レ慣習ハ職工ヲシテ他ノ事

業ヲ忌避セシムルヲ以テ其工料上ニ影響ヲ生スルヲアリ抑モ婦女ノ  
 工料ノ甚ク低下ナル所以ハ何ソヤ蓋シ婦女ハ殆ト百事ニ迂遠ナルノ  
 慣習アルヲ以テ其慣習ノ婦女ヲシテ從事スルヲ得セシムル所ノ僅  
 ヲナル業作ハ其大競争ノ目的タルヲ以テナリ  
 各國社會ノ始ニ當リテハ工料未ダ甚ク高價ナラスト雖モ殆ト富有ノ  
 總額ヲ占領スル者ハ即チ工料ナリキ是レ他ナシ地子低下ニシテ資本  
 未ダ饒多ナラス而シテ物品ノ產出ハ人力ノ功多キニ居ルヲ以テナリ  
 其後漸次ニ工料騰貴スト雖モ他ノ產出ノ二官ニ比スレハ其富有分配  
 ノ部分甚ク著大ナラス既ニシテ地子自ラ騰貴シ資本益集積シ產出ノ  
 増殖更ニ盛大ナルヲ以テ一般ノ繁榮大ニ進捗シ遂ニ又工料ヲシテ  
 一層ノ騰貴ヲ致シメタリ然レモ地子及ヒ金利モ亦同ク富有中ニ未  
 曾有ノ最大部分ヲ爲セリ是ノ如ク三官ノ部分皆共ニ増加セリト雖モ